

502

200

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5

始



法學博士松井茂序

消防練習書

東京 松華堂藏版

502-200

法學博士松井茂序



消防練習書

東京 松華堂藏版



序

頃日松華堂ハ消防界ニ貢献セムカ爲ニ消防練習書ヲ著シ之ヲ梓ニ上シ序ヲ余ニ需ム之ヲ閱スルニ災害中人爲ノ過誤ニ基ク火災ノ最モ多キ所以ヨリ古今ノ之ニ對應セル消防ノ沿革、火ノ觀念及火災消防ト建築トノ關係ヲ論シ消防ノ組織、消防組員ノ任務、消防器具、水利調査其他消防任務ノ要諦等消防一般ノ事ニ及ヒ細大殆

ト漏ス所ナシ其斯界ヲ裨益スル所蓋鮮少ナラ
 サルヘシト信ス乃チ一言所感ヲ述ヘテ其責ヲ
 塞クト云爾

大正十二年一月下浣

法學博士 松井 茂

消防練習書目次

第一編 總論……………一

第一章 消防ノ觀念……………一

災害事故——火災ノ對應手段——參考問題

第二章 消防ノ沿革……………三

消防ノ起原——消防ノ變遷——參考問題

第三章 火ノ觀念……………一〇

發火——燃燒——參考問題

第四章 爆發物其他危險物……………一五

第一節 爆發物……………一五

瓦斯及蒸氣ノ爆發——粉塵爆發

第二節 自然燃燒……………一七

第三節 其他危險物 附參考問題……………一九

第五章 火災豫防ノ概念 二〇
 原因豫防——延燒豫防——參考問題

第六章 火災卜建築 二四
 木造建築物ノ耐火の價値——建築材料ノ耐火の價値——耐火構造建築ノ條件——
 參考問題

第七章 消防ノ組織 二八
 第一節 消防組 二八
 設置——組織——指揮監督——費用

第二節 消防署 附參考問題 三一

第八章 消防組員ノ任務 三三
 精神の方面——物質の方面——參考問題

第九章 消防用機械 三六
 唧筒ノ起原及沿革——防禦上ノ沿革——纏ノ起原及沿革——消防用機械ノ選擇及
 購入標準——參考問題

第十章 消防用水利 四一
 天然の水利——人工の水利——參考問題

第十一章 火災報知機關 四四
 第一節 火災報知機 四四
 報知機ノ沿革——報知機ノ效果——火災報知機ノ裝置

第二節 火災專用電話 四六

第三節 公衆電話其他 附參考問題 四七

第十二章 消防卜電氣 五一
 第一節 發電所其他 五二
 發電所——變電所——蓄電所——開閉所

第二節 電線 五二
 電線ノ種類

第三節 配線 五三

第四節 低壓及高壓 五四

第五節 變壓器 五四

第六節 電流及抵抗 五四

第七節 良導體及絶縁體 五五

第八節 電氣ニ關スル注意心得 五六
電柱及電線ニ關スル注意——室内用電力電燈線ニ關スル注意——參考問題

第十三章 消防組後援機關 五九

第一節 婦人消防隊 五九
消防隊ノ起原——目的及組織——消防用器具——服裝及經費

第二節 少年消防隊 六〇
目的及組織——消防用器具——服裝及經費

第三節 青年消防隊 六二

第四節 義勇警察隊 六二

第五節 消防顧問 附參考問題 六三

第十四章 消防法規 六九

第一節 官治及自治消防 六九

第二編 常時ニ於ケル消防

第二章 建築物其他ニ對スル使用處分 七〇

第三節 出火ノ際ニ於ケル處置 七〇

第四節 其他ノ規定 附參考問題 七一

第一章 消防組員ノ資格 附參考問題 七二

第二章 消防組員ノ任務 七五

第一節 常時ニ於ケル任務 七五

第二節 非常時ニ於ケル任務 附參考問題 七七

第三章 消防用機械器具 八一

第一節 消火器 八一
粉末消火器——液體消火器——藥品及其有効期間——藥品検査法

第二節 腕用唧筒 八三
無氣及壓力検査方法——手掌ニ依ル検査方法——放水ニ依ル検査方法——分解検査方法

第三節 蒸氣唧筒 八七
機關運轉ニ要スル注意——機關運轉終了後ノ處置——石炭ノ品質見分——汽鐘汽機ノ保存法

第四節 瓦斯倫唧筒 八九
瓦斯倫唧筒運轉法ノ大要 機關ノ運轉不能ノ原因——機關保存上ノ注意

第五節 水管車 九〇

第六節 其他ノ器具 附參考問題 九一

第四章 水利調査 附參考問題 一〇四

第五章 道路調査 附參考問題 一〇七

第六章 火災豫防方法 一一〇

第一節 火災豫防 一一〇

第二節 竈及煙筒検査 一一一

第三節 夜警 一一三

第四節 火災豫防宣傳 一一四

ホスターニ依ル宣傳——宣傳ビラ——活動寫眞ニ依ル宣傳——掲告板——俚諺ニ

依ル宣傳

第五節 火防規約 附參考問題 一一六

第七章 森林火災ノ豫防 一二六
原因豫防——延燒豫防——參考問題

第八章 消防組及組員ノ獎勵 一三二

第一節 消防組ノ獎勵 一三二

第二節 消防組員ノ獎勵 一三三

第三節 消防組員ノ共濟 附參考問題 一三三

第九章 消防組員及家族慰安 附參考問題 一三五

第十章 消防組後援隊其他トノ連絡 附參考問題 一三八

第十一章 消防組ノ講習及見學 一四〇

第一節 消防組ノ講習 一四〇

第二節 見學 附參考問題 一四一

第三編 非常時ニ於ケル消防

第一章 火災發見方法 一四四

第一節 自働的發見 一四四

 巡邏警戒——見張警戒

第二節 他働的發見 一四六

 火災專用電話——火災報知機——參考問題

第二章 出動方法 一四八

第一節 出動心得 一四八

第二節 先發部員ノ編成及動作 一四九

第三節 先着消防組ノ動作 一五〇

第四節 出場消防組ノ本部 一五〇

 非常召集計畫——參考問題

第三章 火災防禦方法 一五四

第一節 火災防禦ノ要旨 一五四

第二節 防禦ノ方法 一五五

第三節 防禦上ノ注意 一五七

第四節 破壞消防 一五八

第五節 送水任務 一五九

第六節 殘火鎮滅 附參考問題 一五九

第四章 火災場取締 一六五

第一節 非常線警戒 一六五

第二節 盜難警戒 附參考問題 一六六

第五章 救護方法 一六八

第一節 救助器具 一六八

 機械梯子——救助袋——救助幕——救助網——參考問題

第二節 應急施療 一七二

 火傷——折骨傷——脫臼——止血法——電擊——人事不省——卒倒——溺死者——人工呼吸——參考問題

第六章 山林火災防禦方法 一七六

附錄

- 一 消防關係法令 一八一
 - 行政執行法——行政執行法施行令——行政警察規則——警視廳官制——特別消防
 - 署規程——消防規則——消防組點檢規則
- 二 消防歌 一九五
- 三 火災ニ對スル迷信(百種) 一九六
- 四 消防火之見櫓新營工事豫定價格書 二〇〇

目次終

消防練習書

第一編 總論

第一章 消防ノ觀念

凡ソ人類社會ニ在リテハ其生存上幾多ノ災害事故アルコトヲ觀念セサルヘカラス、而シテ此ノ災害ニ人カヲ以テ避クルコト至難ナル災害事故ト(例ハ地震、落雷、海嘯ノ如キ)人カヲ以テ防止シ得ヘキ災害事故アリ(例ハ火災、交通事故ノ如シ)

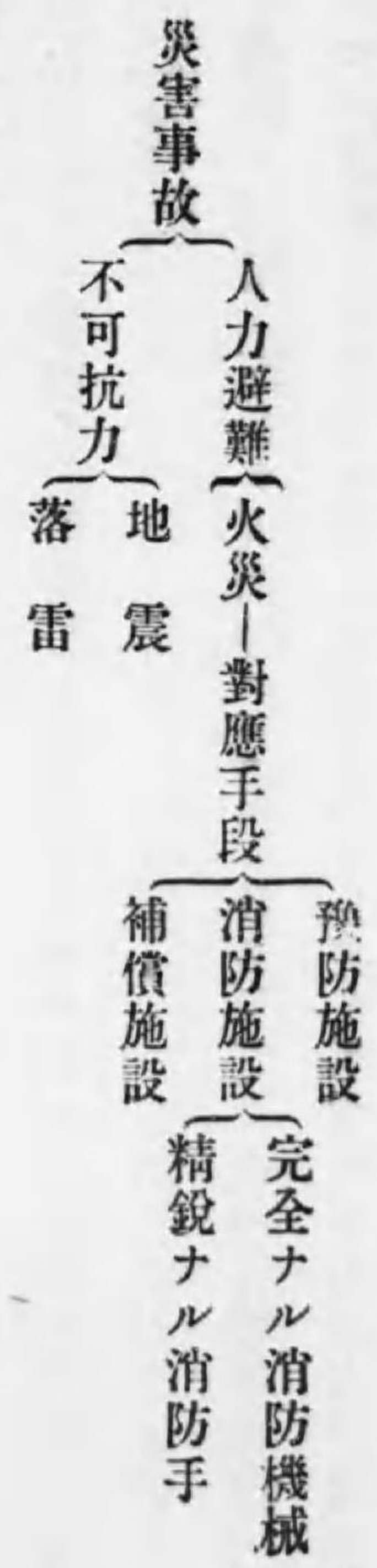
總テ人カヲ以テ防止シ得サル眞ノ不可抗力トモ稱スヘキ災害事故ハ甚タ少ナクシテ其ノ多クハ結果ヨリ觀察セハ必スヤ事前ニ之ヲ防止シ得ルノ方法アリト認ムルコトヲ得ヘシ、火災事故ニ見ルモ其發生ニ基因スル取灰、竈、煙筒其他電氣、瓦斯又ハ石油、爆發物ト雖モ適當ナル豫防方法ト最善ノ注意トヲ講スルニ於テハ、或程度マテハ事前

ニ之ヲ防止シ得サルノ理由ナシト云フヘシ
 然レトモ吾人カ生活上常ニ最善ノ注意ヲ怠ラサルニ拘ラス、時ニ過失ニ由リテ火災ヲ
 發生セシムルコトアルハ之レ亦止ムヲ得サルコトニシテ、人文ノ開發ニ伴ヒ年々歳々
 火災發生度數ノ著シク増加スルニ見ルモ火災ノ豫防絶滅ハ甚タ至難ナリト云フヘシ、
 茲ニ火災ニ對スル對應手段トシテ(一)豫防施設(二)補償施設(三)消防施設ノ三ヲ舉ケ
 左ニ之ヲ述ヘントス

豫防施設トハ建築物ニ對シ不燃質物ヲ使用シ又ハ爆發物ニ對スル發火防止ヲ講スルカ
 如キ是レナリ、補償施設トハ火災保險ノ如キモノニシテ火災ニ因ル損害ヲ補填シ以テ
 原狀回復ヲ爲サシムル施設ヲ云フ、然レトモ火災豫防ニ關スル行爲、不行爲ハ警察ニ
 於テ命スルコトヲ得ヘシト雖モ、濫リニ私生活ニ干涉スヘカラサルノ原則ニ從ヒ個人
 ニ對シ注意深カルヘキコトヲ強制スルハ甚タ至難ナル事情アリトス、又如何ニ補償施
 設アリテ個人ノ損害ハ時ニ之ヲ補填スヘキモ社會經濟上ノ損害ハ容易ニ之ヲ補填スル
 コト能ハス(例ヘハ國寶ノ保護建築物、書畫、其他特種ノ
 財物、生命、身體ノ如キハ到底補償ノ途ナシ)
 之レ消防施設ノ最モ必要ニ至レル所以ナリ、然ラハ消防トハ如何ナルモノナルヤ即チ

火災ノ豫防又ハ防止ノ目的ヲ以テ市町村若ハ其ノ一區域内ニ設ケラレタル設備ヲ云フ
 ニアリ、而シテ之レカ消防施設トハ完全ナル消防機械ヲ備ヘ精銳ナル消防手ヲ置キ常
 ニ火災ノ豫防及警戒ニ當ラシメ火災發生ニ際シテハ防禦ニ努メ其ノ損害ヲ最少限度ニ
 防止スルニアリトス、固ヨリ消防ノ施設タルヤ義勇奉公ノ精神ヲ基本トシ人類ノ幸福
 ヲ慮リ社會奉仕ノ觀念ニ立脚スヘキコト言フ俟タス

參考圖解



〔參考問題〕

- 一 不可抗力ニ依ル災害ノ例ヲ舉ケヨ
- 二 火災ノ對應手段ヲ舉ケ簡單ニ説明セヨ

第二章 消防ノ沿革

往昔我國ニ於ケル消防ノ起原及沿革ハ之ニ關シ正確ナル系統的記錄ノ徵スヘキモノナクシテ不明ニ屬ス、茲ニハ江戸幕府時代ヨリノ消防ノ沿革ニ付其ノ大要ヲ述レハ次ノ如シ

一 消防ノ起原 慶安三年六月江戸幕府ハ火消役ナル專務ノ職員ヲ設置シタリ之カ目的ハ主トシテ廓内ノ火災消防ニ當ラシムルモノニシテ即チ常備的ノ組織ナリキ(今日百七十年前、徳川三代將軍家光時代)

二 消防ノ變遷 而シテ火消役ハ二組ニ分チ幕府ヨリハ各組ニ與力、同心ヲ附屬セシメタリ當時之ヲ武家火消(一名定火消)ト稱セリ次テ明曆四年九月火消役ヲ六組トシ萬治三年九月一組毎ニ役夫ヲ用ヒ之ヲ要所ニ駐屯セシメ火消屋敷ト云ヘリ是レ消防駐在ノ制度ナリ

斯クテ武家火消ハ元祿八年三月更ニ九組ヲ増シテ十五組トシ寛永元年十月ニ至リ五組ヲ減シテ十組ニ改メタリ世人ハ之ヲ十人火消ト稱セリ明治維新マテ此ノ制度ヲ持續セリ

尙此ノ當時火災ノ際火消役ヲ指揮スヘキ御使番ト稱スル幕府直轄ノモノ及此ノ外火

事場目附、火事場見廻リ等ノ常備的官職アリ專ラ警備及監督ニ從事セシメタルモノナリ

享保初年頃ヨリ江戸市内ニ火災頻發シタルヲ以テ同三年二月町奉行(大岡忠相)ハ町役人ニ火災ノ際ハ其ノ風下及左右ニ當ル二町以内ニ火災人夫(二十人)ヲ出サシメ火災防禦ニ當ラシメタリ町人之ヲ呼ンテ店火消ト云ヘリ之レ所謂町火消ニシテ我國ニ於ケル自治的消防機關ノ最初ナリトス

次ニ享保四年四月町奉行ノ指導ニ從ヒ店火消ノ稱ヲ「いろは」ノ組號トナシ四十八組トセリ、此時各所ニハ火消頭ト云フモノアリテ人夫ヲ養ヒ消防ニ從事セシム、茲ニ於テカ始テ親分、子分ノ關係ヲ生シ寄リ々々一種ノ團體ヲ形成スルニ至レリ、又本所、深川ニ獨立ノ消防組ヲ組織シ十六組ト成シ前者ト對立セリ之レヲ江東ノ十六組ト稱ス此當時町奉行大岡忠相ハ町火消いろは四十八組及江東ノ十六組ニ對シテハ纏一基宛ヲ交付シ之レカ使用ヲ允許シ以テ其ノ表識タラシメタリ是レ今日ニ於ケル纏ノ濫觴ナリ

其後享保七年大名火消ナルモノヲ設置シタリ、之ハ武家火消ノ如ク食祿ナク三百諸

侯ノ將士カ義務的常備守衛ニ當レルモノナリトス
 又大名火消ノ外ニ方角火消ト稱スル火消役ヲ制定シ大名火消トハ其ノ擔當ヲ異ニセ
 リ之レ亦義務的ニ屬シ譜代大名ヲシテ勤務セシメ消防ニ從事セシメタルモノトス
 尙其ノ當時各藩ニハ私設消防ノ設アリ、自己ノ邸内或ハ市街ノ火災ヲモ防禦シタル
 モノナリ而シテ享保十五年一月いろは組及江東組ヲ小組ト稱シ之ヲ聯合シタルモノ
 ヲ大組ト稱シ明和元年十二月幕府ヨリ各小組ニ龍吐水一個ヲ給與ス(之レ消防器具ヲ用ヒシ初トス)斯
 クテ天明七年二月消防組々織ニ大改革ヲ加ヘ組員ハ爲人足ヲ採用シテ之ニ充テタリ
 明治五年五月舊來ノ武家火消、大名火消其他幕府ニ屬セシ消防ヲ廢止シいろは四十
 八組ノ町火消ノミハ奉行所ニ代リテ新設セラレタル市政裁判所ニ於テ監督スル制度
 トナリシカ、間モナクいろは組ノ名稱ヲ廢シテ何大區何番組ト改稱スルニ至リ明治
 七年一月警視廳ノ新設ニ伴ヒ府下ノ警察事務ヲ取扱フコトニ定マリシト同時ニ消防
 事務モ亦舉テ其司掌ニ屬スルニ至レリ
 明治十三年六月東京市ニ消防本部ヲ設ケ消防ノ獨立ヲ見ルニ至ル、其後消防本部ノ
 消防本署ト改稱シ一方時代ノ進歩ニ從ヒ各地方ニ私設消防組ノ組織ヲ見ルニ至リシ

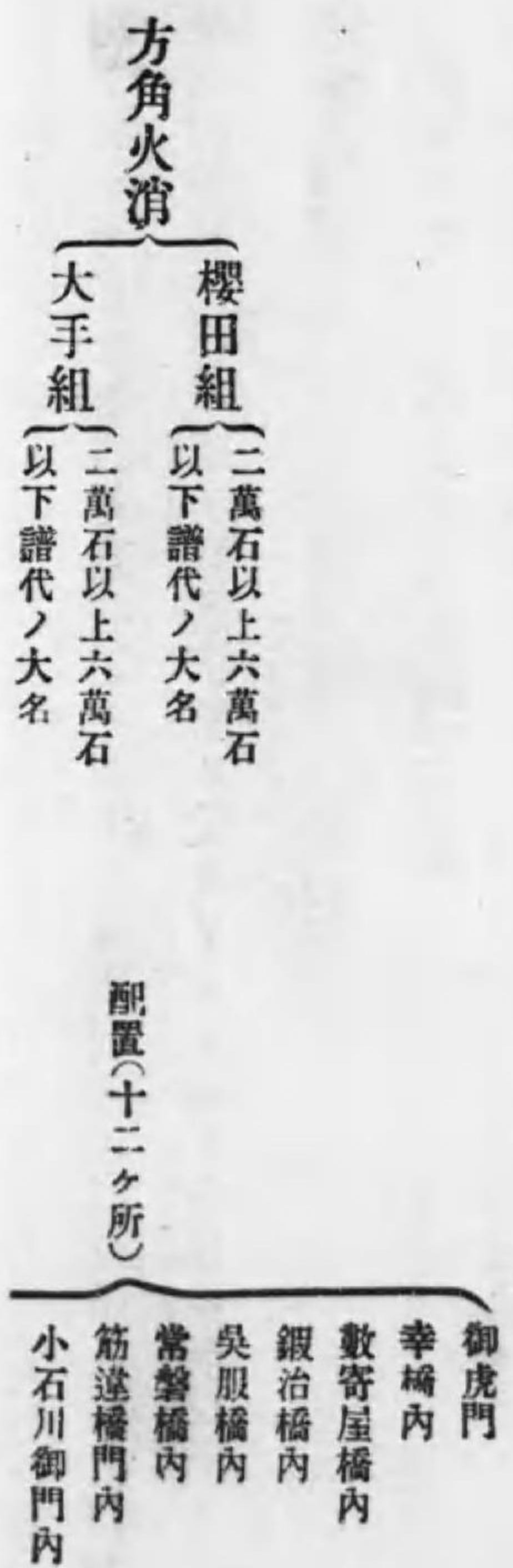
カ爲メ明治二十七年二月勅令第十五號ヲ以テ消防組規則ヲ制定シ自治消防ノ基礎ヲ
 作ルト共ニ大正二年六月勅令第四百九十九號警視廳官制及同八年七月勅令第三百五十
 號特別消防署規程ニ依リ官治消防ノ設置ヲナシ以テ今日ニ至レルモノナリ

參考圖解

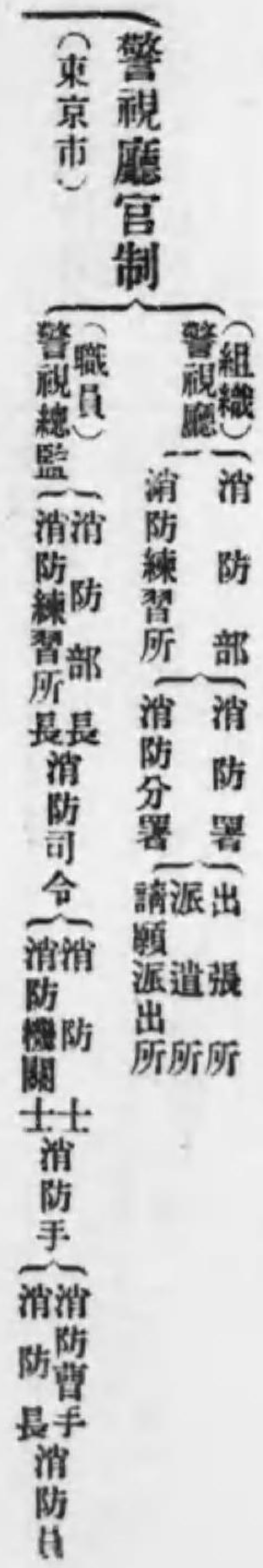
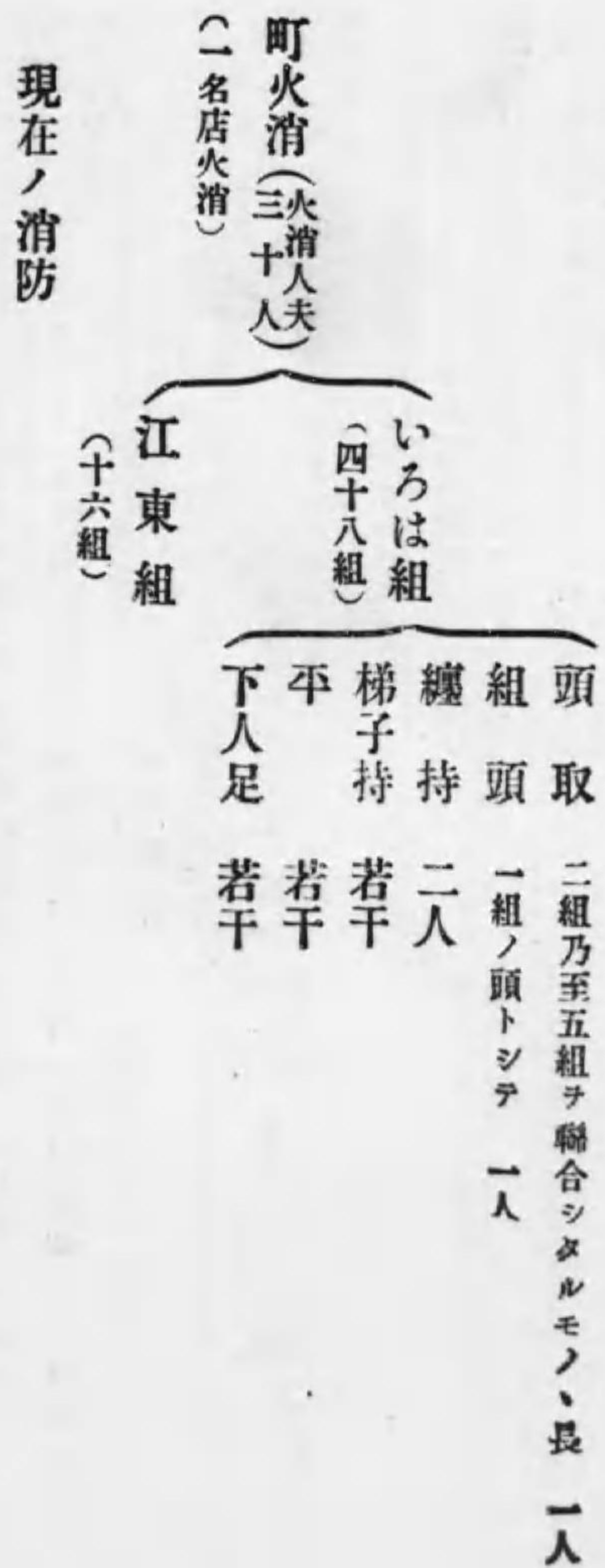
武家火消（一名定火消）組織及配置



大名火消ノ組織及配置



町火消ノ組織



官治消防

特別消防署規程

(組織) 府縣廳警察部 (消防分署)

(職員) 府縣知事 警察部長 警視

(消防機關士 消防手 消防曹長 消防手)

消防組織規制

(各府縣)

消防組、部 (糧係、唧筒係、給水係、火先係、信號係)

地方官々制

(監督官 廳其他)

府縣廳 警察部 (警察署)

府縣知事 警察部長 警視 (警部補 巡查部長 巡查)

府縣知事 警察部長 警視 (警部補 巡查部長 巡查)

府縣知事 警察部長 警視 (警部補 巡查部長 巡查)

府縣知事 警察部長 警視 (警部補 巡查部長 巡查)

府縣知事 警察部長 警視 (警部補 巡查部長 巡查)

府縣知事 警察部長 警視 (警部補 巡查部長 巡查)

〔參考問題〕

- 一 我國ノ消防起原ハ何年頃ナルヤ記セ
- 二 我國ニ於テ自治的消防ノ最初ハ何年頃ナルカ
- 三 いろは四十八組ノ起リハ何年頃ナルヤ
- 四 東京市ニ消防本部ヲ設ケシハ何年頃ナルヤ
- 五 消防組規則ノ發布ハ何年ナルヤ

第三章 火ノ觀念

人類ノ生存上火力ハ寸時モ缺クヘカラサルモノナリ、今ヤ文明ノ進歩ト共ニ熱ト火ノ

利用範圍ハ益々擴充サレ、化學工業發達ノ結果ハ都會ノ集中トナリ工場ノ増設人家ノ密集トナリテ、生活ノ態様ハ年ト共ニ複雑トナルカ故ニ文明ト火熱トハ併行スルモノト云フヘシ、然レトモ一面火力ハ其ノ有用範圍ヲ脱スルヤ豫期ニ反スル災害ヲ及ホスコトアリ、即チ火災之レナリ、火災ハ家屋其他ノ財産ヲ滅燼シ併セテ身命ヲモ殺傷セシムルニ至リ其ノ慘害ノ波及スル所深大ナルモノアリトス、故ニ吾人カ生活上缺クヘカラサル火モ亦其害ノ恐ルヘキコトヲ思ハサルヘカラス、之レ左ニ消防ノ對敵タル火ノ觀念ニ付述フル所以ナリ

- 一 發火 發火トハ或物質カ光ト熱トニ變化スルノ狀況ヲ云フ火ヲ發シ以テ物體ヲ燃焼セシムル原因ニハ (一) 擊突作用 (或ニツノ物質カ擊突シタル際發火スルモノ) (二) 摩擦作用 (或物質カ摩擦ニ依リ熱ヲ起シ發火ス) (三) 化學作用 (火ハ化學的變化ニ伴フ一ノ副産物ナルカ故ニ猛烈ナル化學作用起レハ忽チ火ヲ發ス) (四) 電氣作用 (電流カ或物體ヲ通過スルトキハ熱ヲ生シ火ヲ發ス) 等トス

而シテ或物體カ熱ヲ受ケ又ハ自ラ熱ヲ發シ其ノ熱度カ發火スヘキ域ニ達シタルトキハ其附近ニ易燃物アルカ又ハ夫レ自體カ易燃物ナルトキハ火ヲ發シテ燃焼ス、此ノ熱度ヲ物ノ發火點ト稱ス、此ノ發火點ハ其ノ物體ノ性質ニ依リ夫々異ナルニ注意ス

ヘシ次ニ石油揮發油其他之ニ類スル物質ハ普通室内ノ溫度ニテ一部蒸發シテ氣體トナリ其附近ノ空氣中ニ混スルモノニシテ、室内ノ溫度カ高マルニ從ヒ氣發スル分量次第ニ多クナリ或一定ノ溫度以上ニ達シタルトキ之ニ火氣ヲ近クレハ其ノ混合物ハ忽チ燃燒ヲ起スニ至ル此ノ最低溫度ヲ引火點ト名ツク

二 燃燒 燃燒トハ通常ノ意義ニ於テハ可燃性ノ物質カ空氣中ノ酸素ト化合シテ熱ト光ヲ發スル現象ヲ云フ、然レトモ其ノ作用ノ緩徐ナルモノニ至リテハ光ハ必スシモ之ニ隨伴セサルモノトス、凡ソ物質ノ燃燒ヲ繼續的ニナスニハ一定ノ原因ト特定ノ要素トヲ具備セサルヘカラス而シテ一定ノ原因トハ前說ノ如キ發火スヘキ原因ニシテ特定ノ要素トハ即チ(一)物(可燃物體ノ存在)(二)溫度(可燃物體カ發火點以上ノ溫度ヲ保全スルコト)(三)酸素(酸素ノ供給適當ナルコト)ノ三トス

即チ燃燒ハ一定ノ原因ニ依リ發火シタルトキト雖モ特定ノ要素タル一ヲ缺如センカ燃燒作用ヲナス、之レ火災ニ際シ消火上唧筒ヲ以テ放水スルハ其ノ要素ノ一タル溫度ヲ冷却シテ發火點以下ニ下降セシムルニ因ル、而シテ物體カ燃燒スルニ方リ一種ノ可燃性瓦斯ヲ生スルモノト否ラサルモノトアリ、其ノ發スル可燃性瓦斯カ物體

ト同時ニ燃燒スル現象ヲ焰ト云フ、火災ニ於テ恐ルヘキハ火焰ニシテ火焰長舌ナルモノハ燃燒速力極メテ迅速ナリ、殊ニ有風ノ場合ハ消防上甚タ困難ニシテ其ノ延燒ヲ擴大セシムルノ虞アレハ放水消火ヲナスニ方リテハ最モ注意シ焰ノ根源ヲ爲ス火ノ本體ニ對シテ射擊的放水ヲナスヲ有効ナリトス、次ニ煙ハ不完全ナル燃燒ノ結果發生スルモノニシテ即チ燃燒物體カ酸素ノ供給不充分ナル等ニヨリ起ル現象ナリ而シテ黑煙ノ上昇スルハ燃燒不完全ニシテ白色ヲ呈スルハ比較的燃燒完全ニ近ツキタルモノトス

又煙ハ其比重空氣ヨリ輕キカ故ニ上昇飛散スル性質ヲ有スルヲ以テ火災時ニハ燃燒家屋内ニ侵入スルニ困難ナル場合アリ、此ノ場合ハ手拭等ヲ水ニ濕シテ鼻口ニ當テ屋内下部ヲ匍匐スレハ比較的咽煙セサルノ効アリトス

參考

一 燃燒ノ原因 (イ)火焰又ハ熱灼セラレタル物體トノ接觸(ロ)微弱ナレトモ

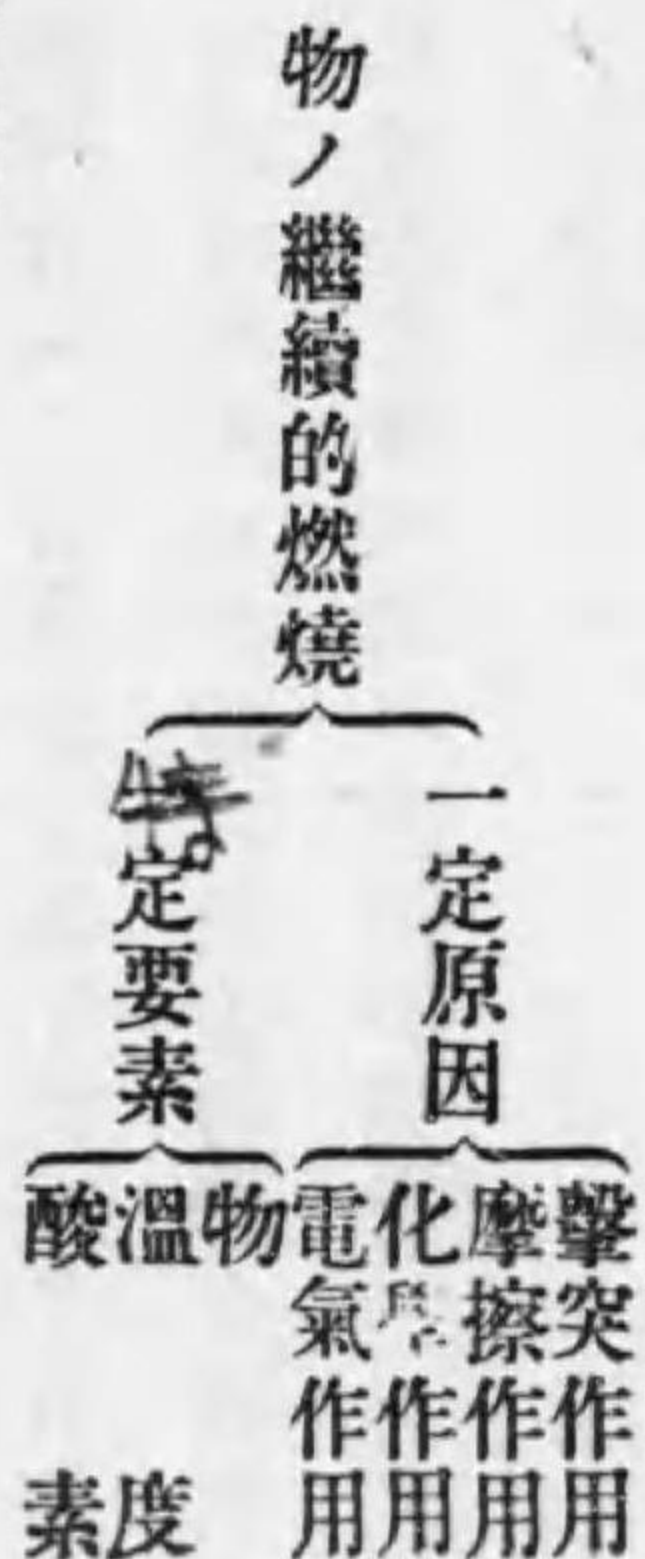
長ク持續スル熱(ハ)自發ノ熱(ニ)爆發(ホ)電光(ヘ)化學的變化(ト)壓力、摩

擦、震動、衝突、打擊等ノ作用ニ依リ誘起セラル

二 燃燒ノ種類 (イ) 火焰ヲ放チテ燃燒スル場合 (ロ) 火焰ヲ放ツコトナク單ニ
 熾灼サルルニ止マル場合 (ハ) 火焰ヲ放ツコトナク又熾灼サルルコトナク單ニ
 熱ヲ發生スルニ止マル場合

三 燃燒ノ種別及溫度 (イ) 初メノ紅色攝氏五〇〇度 (ロ) 暗紅色同七〇〇度
 (ハ) 櫻色ノ紅色同八五〇度 (ニ) 鮮紅色同九五〇度 (ホ) 黃色同一一五〇度 (ヘ)
 初メノ白色同一三〇〇度 (ト) 白色同一五〇〇度

參考圖解



〔參考問題〕

- 一 物體ノ燃燒スル原因ヲ舉ケヨ
- 二 物體ノ燃燒ヲ繼續的ニナスニハ一定ノ原因ト特定ノ要素ヲ必要トス特定ノ要素トハ如何ナルモノナリヤ列舉セヨ
- 三 黑煙ト白煙トハ何レカ燃燒ノ完全ニ近キカ

第四章 爆發物其他危險物

第一節 爆發物

爆發トハ或事情ノ下ニ於テ固體又ハ液體ノ全部カ急激ニ著量ノ熱ヲ發生シテ分解シ一部或ハ全部瓦斯體ニ變化スル現象ヲ云フ、而シテ此際瓦斯ノ占ムル容積ハ數百倍ニ上ルカ故ニ危險ノ度ハ測リ知ルヘカラスシテ此等ノ爆發性物質ハ瓦斯又ハ蒸氣ノ著量カ酸素ト共ニ固體又ハ液體ノ形態ニ於テ濃縮シ居レルモノト云フヲ得ヘシ

一 瓦斯及蒸氣ノ爆發 瓦斯及蒸氣ニシテ純粹ナル場合ニハ之ニ火焰ヲ近ツクルニ當リ克ク燃燒スレトモ決シテ爆發スルコトナク、空氣ヲ混スルニ依リテノミ爆發性ヲ帶フルニ至ル、然レトモ其爆發ハ毎ニ一定ノ範圍ノ比例ニ空氣ヲ混スル場合ニ依リ其ノ範圍ヲ上下スルニ當リテハ爆發ノ危險ヲ生スルコトナシ、今空氣及瓦斯カ空氣中ニ混シタル場合ニ於テ爆發スヘキ比例ヲ示セハ左ノ如シ

瓦斯ノ種類

空氣中ニ含有セラルル%量

一、ベンツオール蒸氣

二、七—六、三

一、石油ベンゼン蒸氣 二、五—四、八
 一、エーテル蒸氣 二、九—七、五
 一、アセチリン瓦斯 三、二—五二、二
 一、アルコホール蒸氣 四、〇—一三、六
 一、コールル瓦斯 八、〇—一九、〇
 一、メタールン瓦斯 六、二—一二、七
 一、水 九、五—六六、五
 一、酸化炭素 一六、六—七四、八

瓦斯ノ爆發ハ屢々火氣ノ存在セサル室内ニ起ルコトアリ、是瓦斯カ移動性ヲ有スルニ依ルモノニシテ空氣ヨリ著シク輕キカ或ハ著シク重キニ從ヒ移動性ハ一層強ク、空氣ヨリ輕キ瓦斯ハ貯藏室内ニ於テ其上層ニ、又硫化炭素エーテル等ノ蒸氣ハ空氣ニ比スレハ其比重ハ約二、五倍ナルカ故ニ從テ下層ニ聚積スヘシ、而シテ此場合室内ニ少許ノ間隙アレハ瓦斯ハ氣流ヲナシテ火氣アル場所ニ移動シ火ヲ引テ燃燒シ延テ貯藏室内ニ於ケル瓦斯ノ爆發ヲ誘導スルニ至ラシムルモノナリ

二 粉塵爆發 可燃性ノ瓦斯又ハ蒸氣中ニ炭粉又ハ硫黃ノ粉塵ヲ混スルカ或ハ空氣中

マ此等ノ粉塵ヲ混スルトキハ、粉塵ハ海綿ノ如ク作用シテ瓦斯、蒸氣又ハ空氣ノ著量ヲ吸收シ火焰ヲ引テ強烈ニ爆發ス、之レヲ名ケテ粉塵爆發ト云フ

左記ノ粉塵ハ空中ニ浮遊スルニ當リ粉塵爆發ノ危險ヲ生スルノ虞アルモノトス

- 一 炭粉(木炭、石炭、煉炭)
 - 二 木材、コルク、樹皮等ノ粉塵
 - 三 澱粉、砂糖等ノ粉塵
 - 四 毛綿、麻等ノ纖維類ノ粉塵
 - 五 樹脂、セルロイド等ノ粉塵
 - 六 硫黃、ナフタリン等ノ粉塵
- 從テ此等粉塵ノ著量ヲ發生スヘキ工場又ハ荷造場等ニ在リテハ、火氣ヲ禁スルト共ニ適當ナル除塵裝置ヲ設クルノ必要アルモノトス

第二節 自然燃燒

自然燃燒トハ外部ヨリ熱ノ作用ヲ受クルコトナク單ニ化學的、電氣學的、生物學的又

ハ物理學的作用ニ依リ物體カ急速ニ或ハ緩徐ニ燃燒ヲ起ス場合ヲ云フ
 自然燃燒ノ起生ヲ前提トシテ物體ハ自ラ發熱スルヲ普通トス、然レトモ時トシテハ此
 前提ナク急激ニ且ツ爆發的ニ自然發火ヲナスコトアリ、此ノ如キ危險性ノ物質ニ關シ
 テハ既ニ充分ノ調査研究行ハレ居ルカ故ニ注意ヲ加フルニ依テ未然ニ之ヲ防止シ得ハ
 シト雖モ、緩徐ニ變化シテ緩徐ニ發熱シ遂ニ自然發火ヲナス場合ハ人多ク之ヲ豫想セ
 サルカ故ニ其ノ之ニ基ク危害ハ却テ大ナリトス
 從來ノ經驗ニ依レハ自ラ發熱シ或ハ其ノ結果自然發火ヲ惹起スヘキ物質ハ概略左ノ如
 シ

- 一 石炭、煉炭、泥炭、油煙ノ類
- 二 木材、鋸屑、木炭、コークス、皮革等
- 三 磷及マツチ等
- 四 ワニス、ラック、樹脂ノ類、脂肪及脂肪油等
- 五 金屬粉、石灰、炭化石灰及過酸化曹達、過滿加俺酸加里、硝石等
- 六 濃硝酸及濃硫酸等

七 ニトログリセリン其他ニトロ化合物及硫酸化合物

八 馬糞其他人造肥料ノ類

九 飼料、枯草、藁、種子類、油粕、煙草等

十 油紙、油布、油合羽其他ヲ含ム襪褌等

第三節 其他危險物

次ニ左ノ引火シ易キ物質ヲ大量ニ貯藏スルニ當リテハ、其附近ニ裸火ヲ禁シ脂肪、揮
 發性油等燃燒シ易キ物質ヲ併セテ貯藏スヘカラス、又室内ニハ空氣抜ヲ設ケ換氣裝置
 ニ依リ時々換氣シ爆發性瓦斯ノ蓄積セサルコトニ注意スヘシ

- (一) アセトン (二) 酒精 (三) 木精 (四) エーテル (五) 硫化炭素 (六) ベンツオ
 ール (七) トルオール又キシロール (八) ナフタリン (九) 石油及其副産物 (十)
 原油 (十一) 揮發油 (十二) 燈火油 (十三) 殘滓^{ザンザ} (十四) テンビ油 (十五) 假漆及
 ラック (十六) 脂肪及脂肪油 (十七) 揮發性油 (十八) 磷及磷寸 (十九) 硫黃
 (二十) 其他

[參考問題]

- 一 爆發トハ如何ナルコトナルヤ
- 二 粉塵爆發トハ如何ナルコトナルカ
- 三 自然發火ヲ惹起スヘキ物質ヲ舉ケヨ
- 四 引火シ易キ物質ヲ列記セヨ

第五章 火災豫防ノ概念

人智ノ進歩ハ自然ヲ征服シテ人類生活ノ内容ヲ豊富ナラシム、近世物質文明ノ燦タル發達ハ自然ヲ征服セル人智ノ偉大ヲ語ルモノナリ、然レトモ幾多ノ火災ハ未タ物質的文明ヲ呪ヒ日常絶ユルコトナク跳梁跋扈ニ委シツ、アリテ火災ヲ征服シ盡スモノナキハ甚タ遺憾トス、吾人ハ人類ノ福祉ヲ増進スルカ爲メ人事ヲ盡シテ此ノ災害ヲ避ケサルヘカラス

一度火災發生セハ其ノ原因ヲ究メ之レカ不可抗力ナルヤ、怠慢、過失ナルカヲ探リ又發生後ニ於ケル救急處置ニ付キ果シテ適當ナリシヤヲ十二分ニ研究シ將來同一事實ニ對シ再ヒセサルノ確信ヲ得ルコト必要ナリ、今ヤ科學萬能ヲ誇ル時代ニ於テ尙且年々歳々火災ノ損害ハ獨リ建築物、家財ヲ失フニ止マラス災害復々ニ伴フ失費、業務休止

若ハ一家離散スルカ如キ慘事ヲ演スル等有形無形ノ損害ノ莫大ナルハ吾人ノ不用意ヲ語ルモノナリ、宜シク火災防止ノ思想ヲ涵養シ以テ社會ノ幸福ヲ計リ共存ノ目的ヲ達スル爲メニ努力スヘキナリ

火災ノ豫防ノ方法ヲ分チテ原因豫防ト延焼豫防トノ二トス

一 原因豫防 火災豫防ハ火災ノ絶無ヲ以テ其ノ目的トス、然レトモ火災ノ絶滅ハ如何ニ科學進歩シタル今日ト雖モ至難ノコトニ屬ス故ニ之カ原因ヲ考究シ以テ災害ヲ減少セシムルニ努ムヘキナリ、煙筒、石油、竈等ノ使用ハ洋ノ東西ヲ問ハス原因中ノ多數ヲ占ムル通有性ノモノナリ又取灰、製茶、養蠶、焙爐等ノ如キ其ノ地方ニ限ラレタル特有性ノ原因アリ

而シテ之レカ原因ヲ大別セハ(一)失火(二)落雷(三)放火其他不可抗力ニ因ルモノ三トナスコトヲ得ヘキモ其ノ大部分ハ即チ些末ナル粗漏、過失ニ基因スル人爲的原因ナリ、故ニ之等ノ原因ヲ考究シ一般民衆ニ公示シ以テ自衛的ニ警戒セシメ火災豫防政策上遺憾ナカラシムルニ在リトス

二 延焼豫防 延焼豫防ハ原因豫防ト相俟テ必要ナル豫防方法トス、即チ既發ノ火災

ニ對シ之レカ延焼ヲ豫防セシムルカ爲メニ各種ノ豫防施設ヲナサシメ以テ之レカ災害ヲ免カレシムルニアリトス

現今ニ於テハ警察權ヲ以テ之等ノ豫防施設ヲナサシム其ノ施設ヲ概述スレハ(一)屋上
限令(或ル區域ヲ限リ建物ノ屋上ヲ全
部不燃質物ニテ葺カシムルモノ)(二)防火線令(都市ヲ區畫シ其ノ境界ニ當ル線
路ヲ以テ防火線ト定ムルモノ)(三)防火壁建造
令(三月乃至五月或ハ適當ノ箇所ニテ火災ノ延焼ヲ防
止シ得ヘキ目的ヲ以テ不透不越火構造ノ防火壁)(四)建物構造制限令(建物ノ全部又ハ或ル部分ノ
構造方法ヲ制限スルモノ)
等ノ法令ヲ以テスルモノ是レナリ

其他耐火の構造トシテハ鐵骨造壁體、鐵筋コンクリート造壁體、煉造壁及石造壁體、
木骨煉瓦造、階段ノ耐火構造、防火戸等トス

此等ノ豫防方法ハ極メテ有効ナルモノニシテ我國ノ如キ火災ニ罹リ易キ素因ヲ有スル
建築物ニ對シテハ此ノ種ニ屬スル豫防方法ヲ講スルニアリト雖モ土地ノ狀況、經濟上
ノ關係等ニ依リ一樣ニ施設ヲナスハ至難ニ屬スルヲ以テ土地ニ應シ適當ニ折衷シテ之
ヲ勵行スルヲ以テ最モ適切ナル方法トス

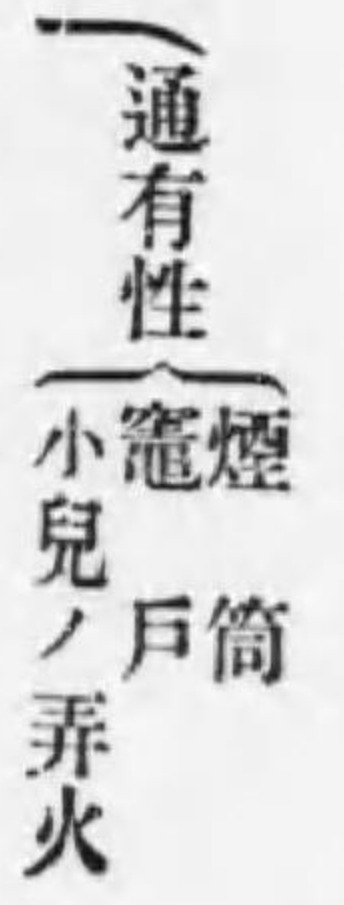
終リニ附言セン近時歐洲戰亂ノ狀況ニ照シ將來ノ火災問題ニ付キ戰時ノ火災ヲモ考慮
セサルヘカラス、一朝他國ト干戈ヲ交ユルヤ飛行機及飛行船等ニ依リ爆彈投下(放火ツ)

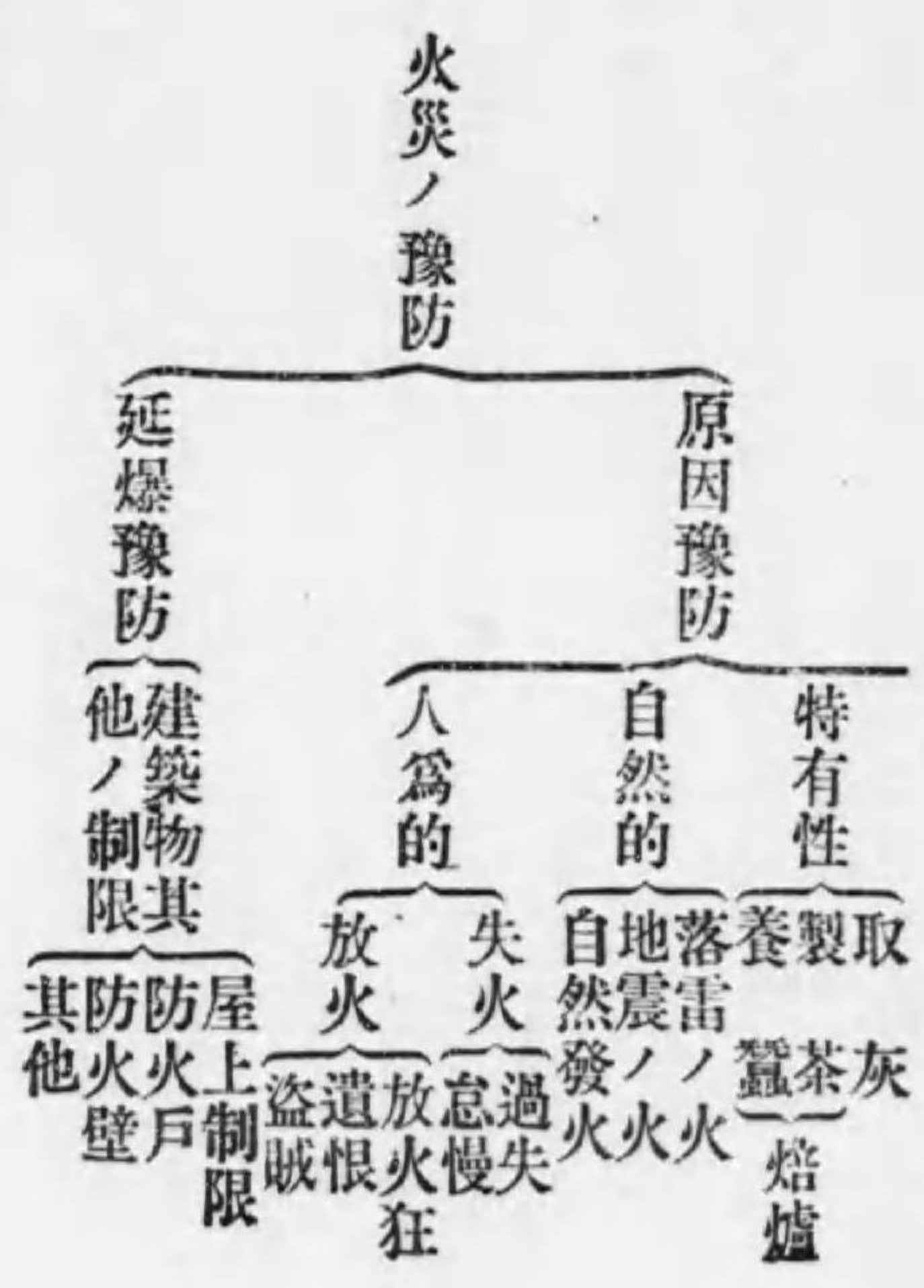
ニ依ル火害アリ得ヘキコトヲ豫想セサルヘカラス、今ヤ世界各國ニ於テ建築上ノ一大
問題ヲ惹起セルコトハ必然ノ結果ニシテ歐米都市ノ如キ不燃質物ノ建造物ヲ有スル國
スラスノ如シ、我國ノ如キ主トシテ木造建築ニ依ル施設ニ對シ重大ナル問題タルヘシ
之レ區々タル屋上制限ノ問題ニアラス且ツ軍政上直接ノ關係アルヘシト雖モ苟モ消防
研究ノ任ニアルモノノ看過スヘカラサル問題ナリト信ス

參考法令

- 都市計画法(大正八年四月法律第三六號)
- 市街地建築法(大正八年四月法律第三七號)
- 都市計劃施行法令(大正八年一月勅令第四八二號)
- 市街地建築物法施行令(大正九年九月勅令第四三八號)
- 市街地建築物法適用區域ノ件(大正九年一月勅令第五四〇號)
- 市街地建築物施行規則(大正九年一月內務省令第三七號)

參考圖解





〔參考問題〕

- 一 火災豫防ノ方法ヲ二大別シテ説明セヨ
- 二 通有性原因タル例ヲ擧ケヨ
- 三 現今ニ於ケル豫防施設ヲ概別セヨ
- 四 耐火的構造トハ如何ナルモノナルヤ例ヲ記セ

第六章 火災ト建築

火災ト建築トノ關係ハ前章火災豫防ノ觀念ニ於テ大半ヲ説述シタリ、火災豫防上耐火構造トハ火ノ禍ニ際シテ毫モ損害ヲ受ケス之ニ抵抗スルヲ得ヘキ構造ヲ云フ

從來ノ耐火建築ハ建物ノ主要部分ノミ不燃質物トシ以テ耐火ノ効力充分ナリト思考セラレタリシカ、現今ハ不燃性ト耐火性トハ明瞭ニ區別セラル而シテ不燃性ノ材料トシテハ鐵材、石材等ナリ耐火性ノ材料トシテハ煉瓦ハ最モ耐火ニ秀タルモノニテ「コンクリート」モ亦耐火性ノ材料ナリトス

一 木造建築物ノ耐火的價值 木材ハ一種ノ燃料ニシテ可燃性材料ナリ故ニ耐火構造材料トシテハ不可能ナリト雖モ、火災ニ對スル注意ヲ以テ構造セハ防火上相當ノ効果アルモノトス、即チ其ノ方法ノ如何ニ依リテハ火災ノ延焼ヲ遲緩セシムルカ又ハ消火ヲ容易ナラシムル等之ナリ、我國現今ノ狀態ハ木造建物其ノ主要部分ヲ占ムルニヨリ充分ノ講究ヲナスヲ緊要ナリトス

二 建築材料ノ耐火的價值 火ノ溫度ハ燃料ノ種類ニ依リテ異ナルモノトス、(木ノ火焰ハ華氏八百度乃至千四百度木炭ノ火焰ハ二千四百度)火災時ノ溫度ハ普通華氏千五百度以上ニ昇ルコト少ナカラス時ニ二千度乃至二千二百度以上ナルコトアリト

云フ此等高温度ニ長時間抵抗シ得ルハ混凝土、煉瓦、「テラコッタ」等トス而シテ耐火材料タルニハ一定ノ時間火災ノ熱ニ耐ヘ且唧筒ノ水壓ニ耐ユル強サヲ必要トス、然レトモ各材料ノ火及水ニ對スル抵抗力各材料ノ價格及使用ノ便否、火災ニ遭遇シタル後其ノ建物ヲ修繕スルコトノ能、不能、材料供給ノ如何等ヲ充分講究スヘキモノトス

◎三 耐火構造建築ノ條件

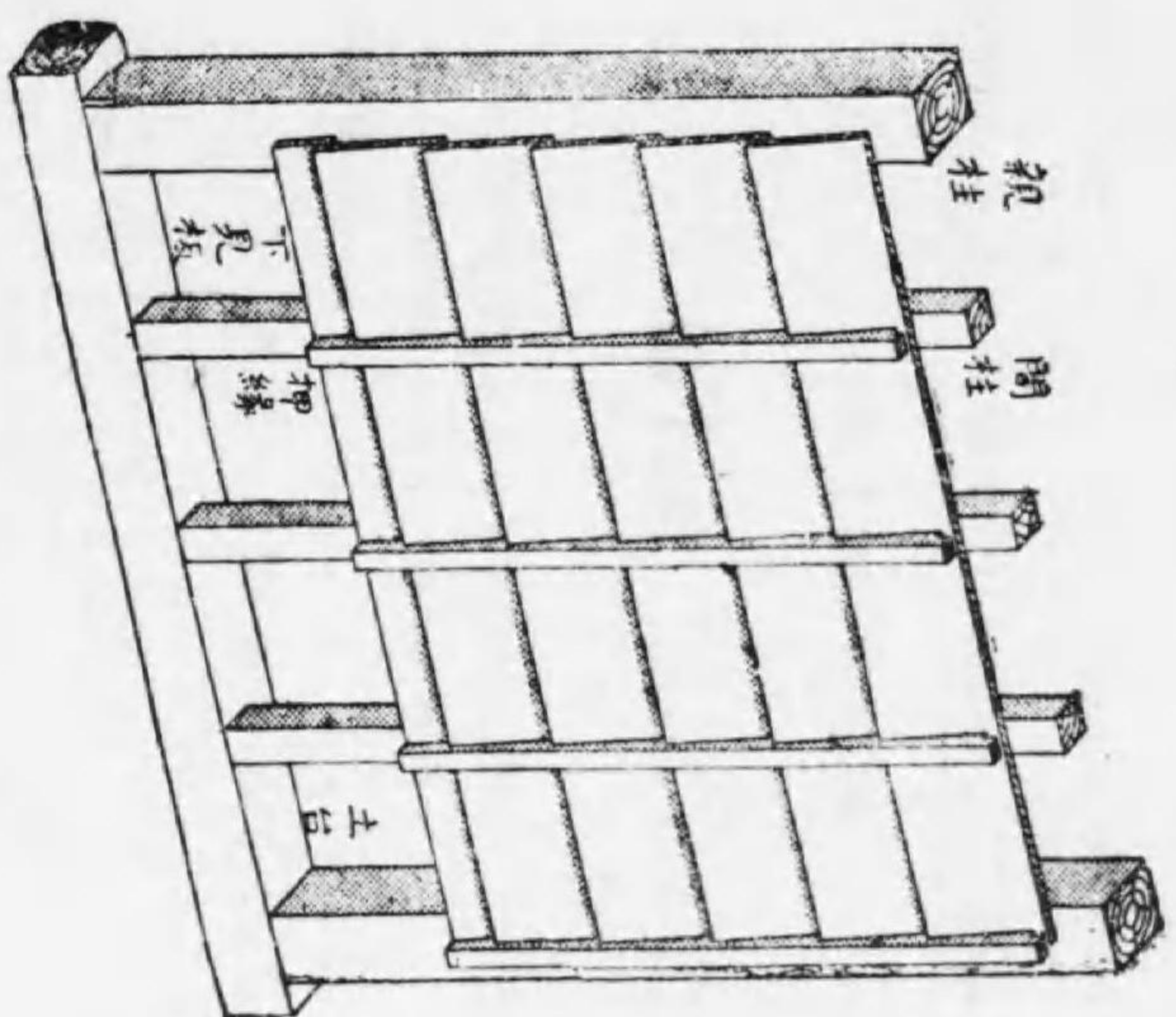
- (一) 建物ヲ構成スル主要材料ニ耐火材料ヲ撰擇スルコト
- (二) 荷重ヲ受クル構造體カ耐火材料ナラサル鐵材ノ如キモノナルトキハ耐火材料ヲ以テ相當ノ厚サニ絶緣又ハ保護シテ火災ノ温度ヲ直接ニ受ケサラシムルコト
- (三) 建物ニ可燃性ノ造作材料ヲ出來得ル限り制限スルコト

參考

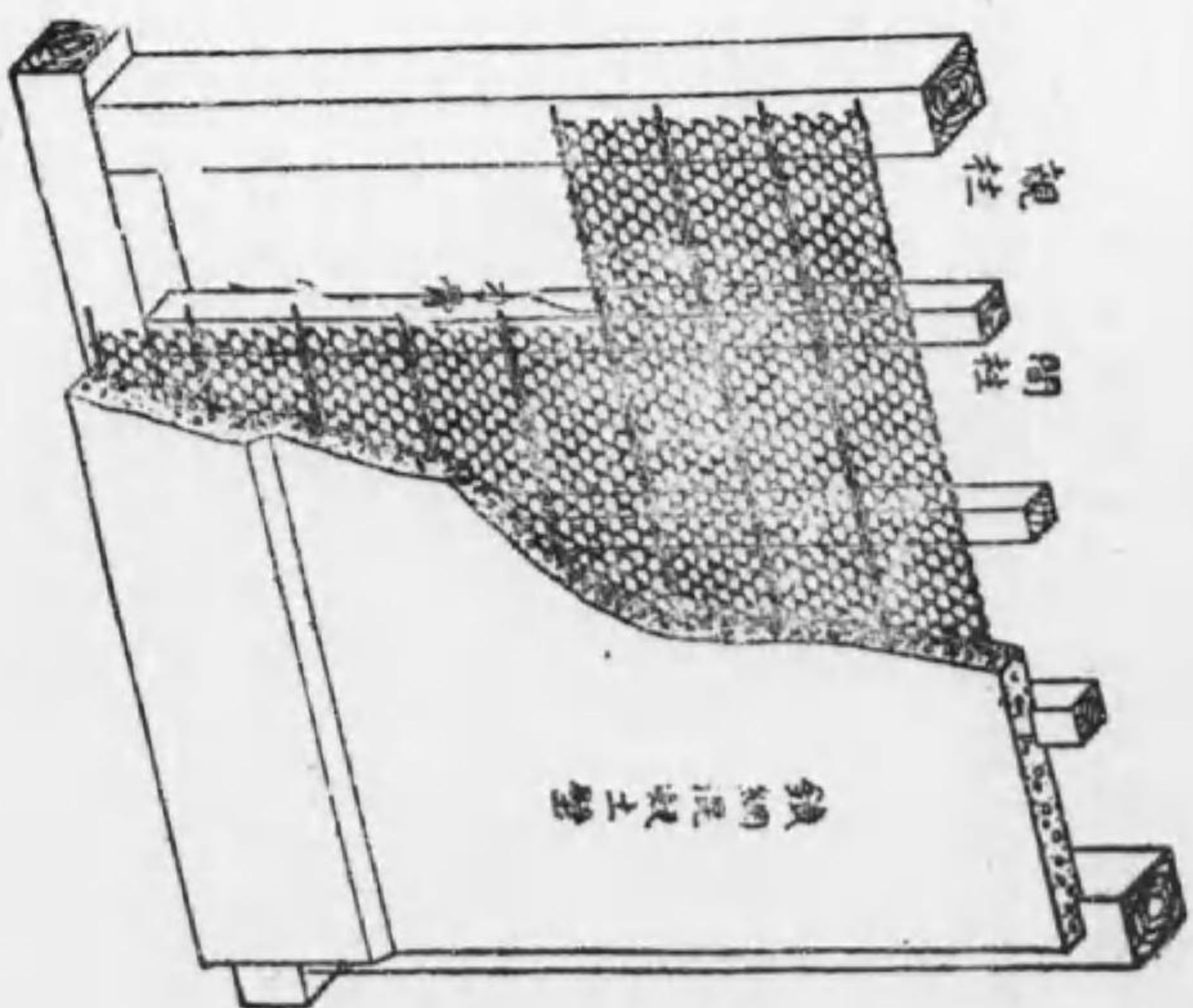
我國ノ如キ火山系ヲ有スル島國ニ於テハ耐火的建築物ハ悉ク全部ニ對シ行フヘキモノニアラスシテ防火及耐震ノ兩様ヲ兼ヌルノ設備ヲナスヲ理想トス(代表的建築物ハ東京三越トス)

參考圖解

張板見下キ島ク燒



壁土凝混網鐵メケ燒モニ事火ナシト



耐火の 火ノ禍ニ際シ 一定ノ時間
 之レニ抵抗シ得ルモノ 火熱及ヒ
 震動ニ際シ 唧筒ノ水壓ニ耐ヘ
 耐震的 之レニ抵抗シ得ルモノ 地震ニ因ル火災

罹災後ノ回復工事ヲ施シ得ヘキ材料ヲ使用スヘキコト

〔参考問題〕

- 一 不燃性材料タルヘキ物件ヲ擧ケヨ
- 二 耐火性材料タルヘキ物件ヲ列擧セヨ

第七章 消防ノ組織

第一節 消防組

消防組ニ二種アリ即チ公設消防、私設消防之レナリ前者ハ市町村ヲ一區域トナシ其自治團體ノ公費ヲ以テ火災ノ警戒防禦ノ爲ニ設置セラレタル團體ニシテ消防組規則（明治二十七年勅令第十五號）ノ規定ニ依ルモノトス、後者ハ市町村ノ一部或ハ私人間ノ共資又ハ寄附ヲ以テ火災ノ警戒防禦ノ爲設置セラレタル團體ナリ左ニ公設消防組ニ就キ述ヘン

一 設置 消防組ノ設置ハ府縣知事ノ權限ニ屬ス其ノ職權又ハ市町村ノ申請ニ依リテ設置スルコトヲ得、其ノ區域ハ原則トシテ市町村ノ區域ニ依ルモノトス

二 組織 消防組ヲ組織スルモノハ左ノ如シ而シテ府縣知事ハ市町村會ニ諮問シテ消防組ヲ數部ニ分ツコトヲ得ヘシ

(一) 組頭一人 組頭ハ警察部長又ハ其ノ委任ヲ受ケタル警察署長ノ任免ニ依ルモノニシテ警察官ノ命ヲ承テ部下ノ指揮取締ニ任シ庶務ニ従事ス

(二) 小頭若干人 小頭ハ警察部長又ハ其ノ委任ヲ受ケタル警察署長ノ任免ニ依ルモノニシテ組頭ヲ助ケ組頭差支アルトキハ之ニ代ルモノトス

(三) 消防手若干人 消防手ハ火災消防ノ實行ニ當ルモノニシテ警察署長之ヲ任免スルモノトス

而シテ之カ組員ノ年齢ハ土地ノ狀況ニ依リ一様ナラスト雖モ十八歳以上ノ男子ニシテ五十歳ヲ越ヘサルモノヲ採用スヘキモノナリ（近時少年、婦人消防隊各地ニ組織セラレ消防組ノ後援ヲナシツツアリ）次ニ獨逸伯林消防ノ年齢別ヲ示セハ二十六歳以上三十歳以下ノ者最モ多ク次ハ三十歳以上三十五歳以下ノモノ及二十五歳未滿ノ

モノニシテ五十歳以上五十五歳以下ノ者最モ少ナシト云フ

三 指揮監督 警察部長ハ府縣知事ノ命ヲ承ケ其ノ地方全體ノ消防組ヲ指揮監督スルモノトス、各個ノ消防組ハ府縣知事ニ於テ指定シタル警察署長ノ指揮監督ニ服スルモノナリ

(一) 指揮 消防組ハ警察官ノ指揮ニ從ヒ行動スルコトヲ要ス、然レトモ火災現場ニ於テハ警察官ノ臨場スル迄ハ町村長又ハ組頭若ハ小頭ニ於テ之カ指揮ヲナスコトヲ得ルモノトス、消防組ハ其區域外ノ火災ト雖モ警察署長又ハ之ニ代ルヘキ警察官ノ指揮ニ從ヒ其警防ニ應援セサルヘカラス

(二) 監督 警察部長又ハ其ノ委任ヲ受ケタル警察署長ニ於テ儀式訓練及他ノ災害ノ爲メニ集合運動ヲ命シタル場合ノ外消防組ハ火災警防ノ爲メニアラサレハ集合若ハ運動スルコトヲ禁セラル、而シテ萬一消防組ノ行動治安ニ妨害アリト認ムルトキハ府縣知事ニ於テ之ヲ解散セシムルコトヲ得消防組ノ服務規律及懲戒ニ關スル詳細ニ至リテハ府縣知事ノ定ムル所ニ依ルモノトス

四 費用 消防組ニ關スル費用ハ其ノ市町村ノ負擔ニ係ルモノニシテ消防組合ノ手當

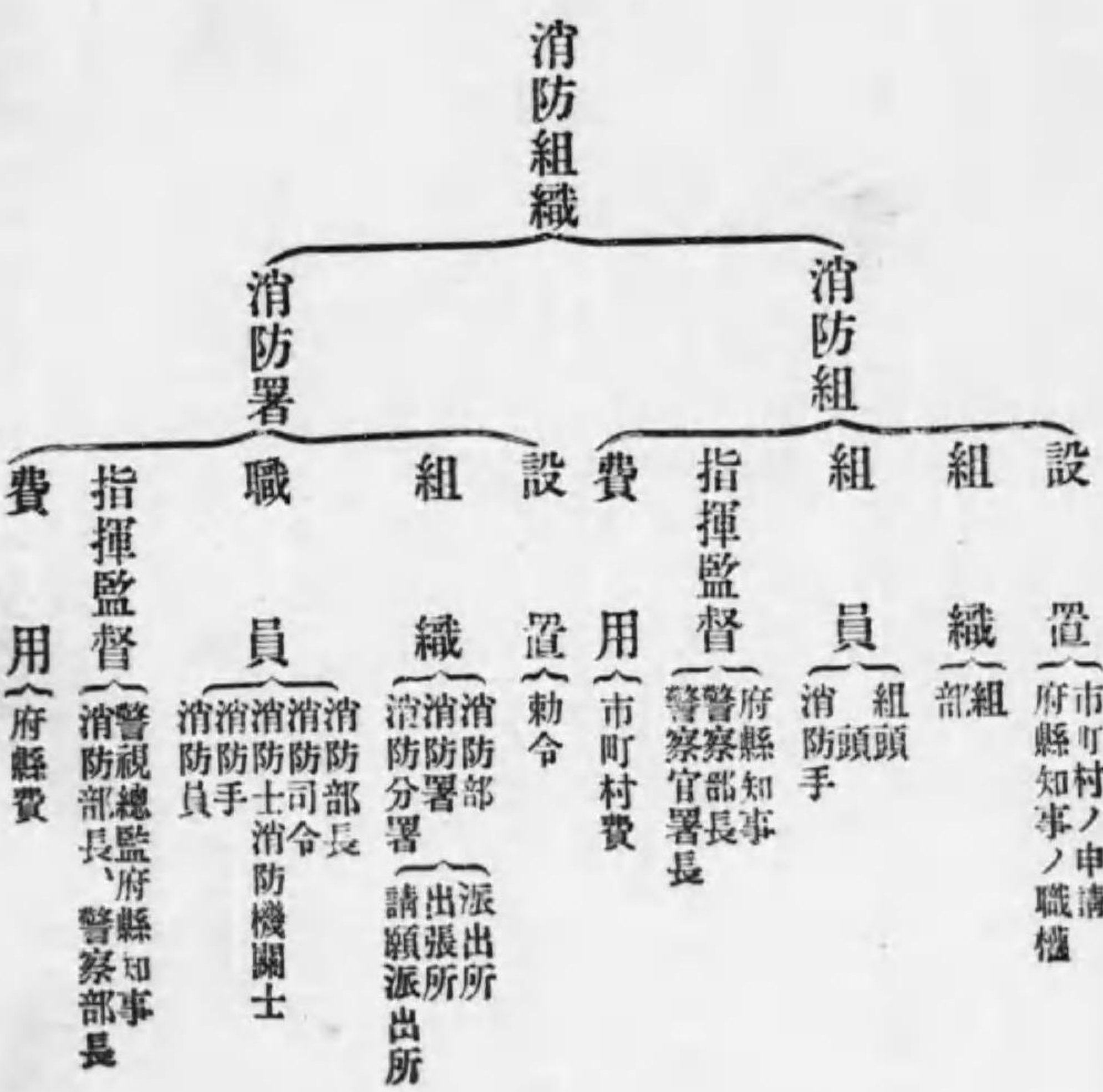
被服及消防組ニ必要ナル器具建物ハ市町村會ニ諮問シテ府縣知事ノ定ムル所ニ依リ市町村ニ於テ設備スルコトヲ要スルナリ、然レトモ之等ノ經費ハ市町村ノ自治ニ委シ來リシモ至理論トシテハ少クモ府縣費若ハ國費ヲ以テ其ノ經費ヲ支辨セシムルコトヲ適當トス

五 其他 府縣知事ハ地方ノ狀況ニヨリ消防組規則ヲ準用シテ水災ノ警戒防禦ノ爲水防ヲ講シ又ハ消防組ヲシテ水災警防ノ事務ヲ兼ネシムルコトヲ得

第二節 消防署

消防署ノ設置ハ警視廳官制(大正二年勅令第一四九號)及特設消防署規程(大正八年勅令第三五〇號)ニ依リ東京、大阪、京都、神奈川、兵庫及愛知ノ各府縣ニ限ラレ東京、大阪、京都、橫濱、神戸、及名古屋ノ各市及編入セラルヘク定メラレタル接近町村ヲ管轄區域トシテ消防署ヲ置クコトト定メラル、而シテ之レカ消防ニ従事スル職員ハ東京ト他ノ地方トニ依リ區別アルモ職員別ヲ示セハ消防部長、警視、消防司令、消防士、消防機關士、消防手及消防員トス

參考圖解



〔參考問題〕

- 一 消防組ノ設置ハ何人カナスヤ説明セヨ
- 二 消防組ノ組織ハ如何ニナスヘキヤ

- 三 消防組ノ指揮監督ハ何人カナスヤ
- 四 消防組ノ費用ハ何レヨリ支出スヘキカ法令ノ根據ヲ示シ説明セヨ
- 五 現今ニ於ケル消防署設置ノ府縣名ヲ記セ

第八章 消防組員ノ任務

國利民福ヲ圖リ國ノ安寧秩序ノ保持ニ當リテ最善ヲ盡ス責任ヲ負擔スルハ國家ヲ組織スル國民ノ本分ナリ

而シテ火災ハ人命財産ヲ損シ延テ經濟狀態ヲ破壊シ人類ノ幸福ヲ阻害スルコト甚シキモノアリ、而シテ此ノ災厄ヲ未然ニ防止シ既發ニ鎮壓スルハ消防組ノ任務ナリ故ニ消防組員タルモノハ單ニ義務的ニアラスシテ全ク國民ノ義勇奉公心ニ依ル献身の觀念ヲ必要トスヘシ

而シテ消防事務タルヤ時代趨勢ニ伴ヒ其改善發達ヲ要スヘキハ勿論ナリ、由來國ノ文野ヲ岐ツニ消防ノ整否ヲ以テ標準トナスモノアルハ蓋シ之レニ基ク、其ノ例ヲ歐米ニ求ムレハ彼ノ獨逸及合衆國ノ如キ文明國ノ稱アル諸國ニ於ケル消防ノ發達ハ特ニ著シキモノアリ、要スルニ消防組員ノ任務ノ重大ナル事之ヲ以テモ明カナリト謂フヘシ左

ニ其ノ任務ヲ精神的及物質的ノ二方面ニ別テ説明セン

一 精神的方面

- (一) 義勇奉公ノ精神 國民ノ義勇奉公ノ精神ノ厚薄ハ國家ノ隆替ニ關スル者ニシテ國家的若ハ公共的事業ニ干與スル消防ノ如キモ亦此ノ精神アルヲ以テ必要トス
- (二) 犠牲心 國難ニ殉スルハ軍人ノ犠牲心ナリ、一朝火災發生ニ際シ身命ヲ顧ミス勇敢ナル行動ヲナスハ消防組員ノ犠牲的精神ナリトス
- (三) 確固不拔ノ精神ト信念 水火モ辭セサル堅忍不拔ノ精神ニハ火モ水モ猛威ヲ逞スルコト能ハス、故ニ心ノ力ヲ以テ火ヲ消シ水ヲ防クノ信念ヲ必要トス
- (四) 紀律 總テ團體ノ活動ニハ紀律ヲ要ス、紀律ハ命令服從ノ完全ナル發作ニシテコ上下ノ秩序ヲ嚴守シ命令ヲ遵奉スルコト之レナリ、消防組モ亦之ノ紀律ヲ以テ團體ノ精神トスヘキナリ
- (五) 共同心 團體ノ組織ハ之ヲ組成スル分子ノ共同心ヲ生命トス、如何ニ優良ナル分子アリト雖モ共同心ヲ缺クトキハ烏合ノ衆ト同シカルヘシ、嚴肅ナル紀律ハ亦誠意アル共同心ノ發露ナリト云フヘシ

(六) 同情心

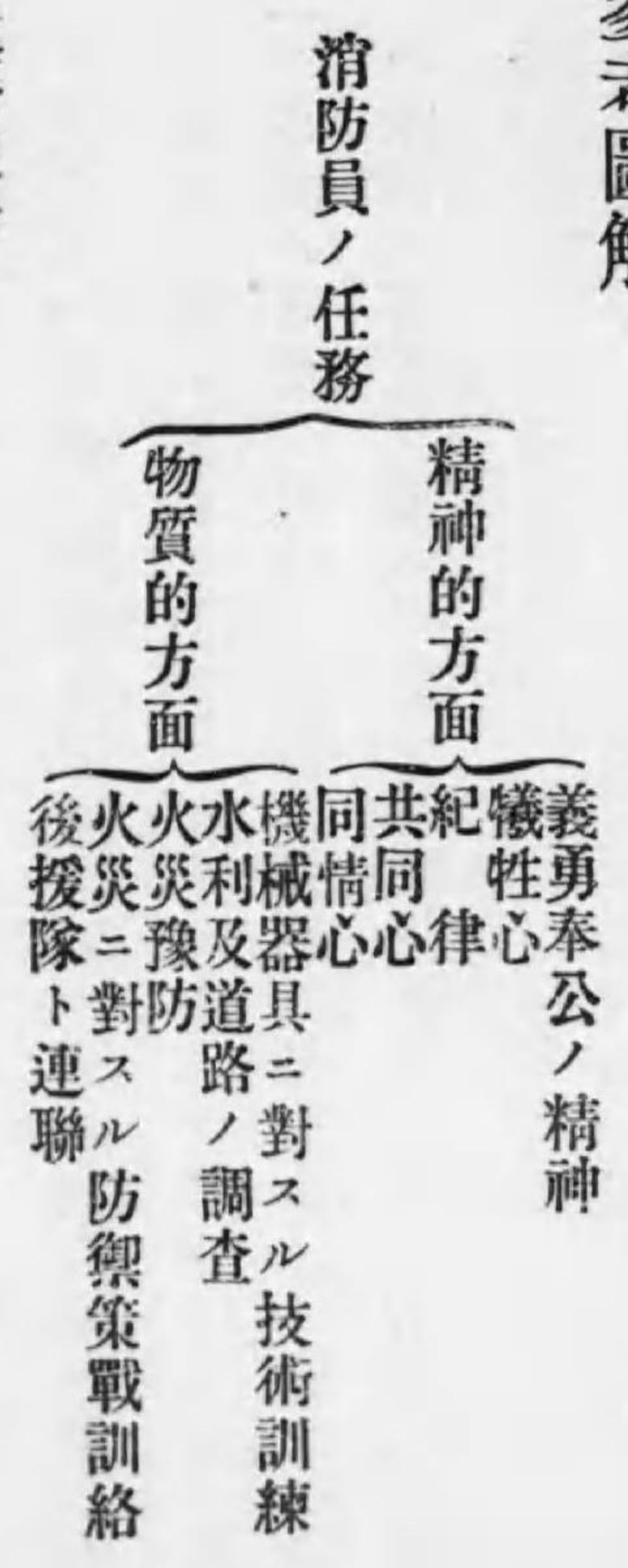
義俠心ハ同情心ヨリ湧出スルモノニシテ義勇的消防組員ハ深キ同情心ヲ以テ盡スニアリ、火災豫防トシテハ原因豫防及延燒豫防ニ付諸般ノ施設ヲ爲シ既發ニアリテハ一般民衆ノ生命財産ヲ保護スルカ如キ皆同情心ノ發露ニシテ社會奉仕ノ一端ナリ

二 物質的方面

- (一) 機械器具ニ對スル技術ノ訓練 如何ニ精神的方面ニ充實スルモ機械器具ノ應用ヲ誤リ又ハ技術ノ研究ヲ怠ルトキハ、一朝有事ニ際シ有効ノ動作ヲナスコトヲ得ス故ニ平素ノ訓練ハ缺クヘカラサルモノトス
- (二) 水利ノ研究 戰時ニ武器ト彈藥ノ必要ナルト同シク消防ノ火災ニ對スル防禦ニハ水利ノ研究ヲ要ス、之レ水利係ヲ置キ又ハ水利ノ標識ヲ示シ置ク等必要ナルコトトス
- (三) 火災豫防 火災ノ豫防對策ヲ講シ一般防火ノ觀念ヲ普及シ或ハ率先シテ竈、煙筒ノ検査其他灰置場ノ注意等適切ナル豫防施設ヲナスニアリ
- (四) 火災防禦ノ策戰訓練 防禦策戰トシテハ(一)火災ノ迅速發見ノ方法(二)出場ノ

方法(三)迅速防禦着手ノ方法(四)消防ノ部署及人員配置(五)土地ニ應スル消防施設等ナリトス之等ハ定例演習ノ場合ニ實際的訓練ヲナスニアリ

參考圖解



[參考問題]

- 一 消防員ノ任務ヲ大別シテ説明セヨ
- 二 物質的方面ノ任務トハ如何ナルモノナルカ列舉セヨ

第九章 消防用機械

消防用機械トハ火災時ニ於テ直接防禦上ニ使用スヘキ總テノ機械器具ヲ云フ、即チ唧筒、(腕用、蒸汽、瓦斯倫)水管車、機械梯子、救助袋、救助幕其他ノ器具ナリ茲ニハ消防上最モ

直接ニ使用セララルヘキ唧筒ニ就テ述ヘン

一 唧筒ノ起原及沿革 我カ國ニ於テハ寛歷三年長崎ノ人カ和蘭人ノ教授ヲ受ケ手突木製唧筒(龍吐水)ヲ發明セリ、然ルニ當時人智ノ發達セサリシ爲メ之ヲ「キリシタン」ナリト稱シテ排斥シタリ

其後幕府ニ於テハ之ヲ便益ナル消防機械トシテ採用スルニ至リシヲ以テ發明者ハ官許ヲ得テ再ヒ製作販賣シタリ、享保三年頃ニハ漸次改良ヲ加ヘテ雲龍水(木製手押唧筒)ナルモノヲ製出スルニ至レリ、之レ現今ニ於テモ或地方ニ稀ニ見ル木製雲龍水ハ即チ此ノ遺物ナリ

斯クテ明治初年ニ英國ヨリ蒸氣唧筒一臺、馬輓腕用唧筒四臺、小形唧筒一臺ヲ購入セリ、然ルニ蒸氣唧筒ニアリテハ當時未タ之等ノ機械ニ對スル技術ノ發達セサルト且ツ東京市ノ道路ノ不完全ナリシカ爲メ之ヲ充分ニ利用スルヲ得ス、又腕用唧筒ハ運轉及操縦ニ多數ノ人員及勞力ヲ要スル等ノ關係アリテ一時之ヲ中止スルニ至レリ次ニ明治六年ニ時ノ川路大警視ハ佛國ニ遊學シ其ノ際輕便ナル腕用唧筒一臺ヲ購求シ歸朝セリ、之レ現在ノ甲號唧筒(地方ニ於テ佛蘭西型ト稱ス)即チ之レナリ、明治八年五月佛蘭西

ヨリ英國製ノ腕用唧筒九臺ヲ購入シ、之レカ操典ハ佛蘭西式ニ則リ其練習ヲ爲サシメタリ、其後消防用唧筒ハ蒸汽唧筒ヲ超越シタル瓦斯倫唧筒ノ輸入ヲ見ルニ至リ大正三年三月ニハ瓦斯倫自動車唧筒ヲ應用スルニ至レリ、今ヤ都市ニ於テ瓦斯倫唧筒(人力車、自動車、オートバイ)及水管車(人力、自動車)ヲ用ヒ亦郡部ニ於テハ瓦斯倫唧筒等ニシテ其土地ニ應シタル變造若クハ改造シタル機械ヲ應用スルニ至レリ

二 防禦上ノ沿革 往時消防思想ノ發達セサリシ時代ニアリテハ火災ノ防禦方法ハ必死的ノ防禦方法ナリキ、即チ腕力ニ依リ燃燒物ヲ破壞シ以テ火勢又ハ火道ヲ遮斷シ其ノ鎮滅ヲ計ルモノニシテ勇壯猛烈ヲ極メタリシモノナリ、今ニ至ルモ「火事ハ江戸ノ花」ト嘆稱セシムルハ此ノ勇敢ナル行動ヲ例稱シタルニ外ナラス

然ルニ此ノ腕力的破壞消防ハ效果常ニ十分ナラス却テ四邊ノ延焼ヲ迅速ニシ殊ニ強烈ナル風力ノ伴フトキハ延焼ノ防止不可能トナリテ遂ニ大火ニ至ラシム、之レ舊來ノ慣例上火災ヲ以テ一ノ天災視スル所以ナリキ、其後明治初年頃ヨリ消防用機械器具ノ輸入若ハ製造セラルルニ至リ、腕力的破壞消防ト冷却的機械消防ト混用時代トナリシモ、此ノ變則的防禦方法ハ防禦上ノ統一ヲ缺キ兩者ノ行動常ニ扞格シ往々防

火時機ヲ失セシムル等ノ缺點少ナカラサリシカ、時代ノ趨勢ニ伴ヒ現今ハ漸ク純然タル機械的消防ノ應用ヲ見ルニ至リシモノナリ

三 纏ノ起源及沿革 幕府時代ノ町奉行タリシ大岡忠相ハ町火消タルいろは組及江東組ニ對シ纏一基宛ヲ交付シ之レカ使用ヲ免許シ以テ其表識タラシメタリ、之レ往時ノ將帥ノ戰場ニ用ヒタル馬標ニ因ミタルモノナリト云フ、當時纏ハ銀箔其他種々美麗ノモノヲ使用セシカ寛政三年八月一般ニ白塗ニ改定セラレタリ

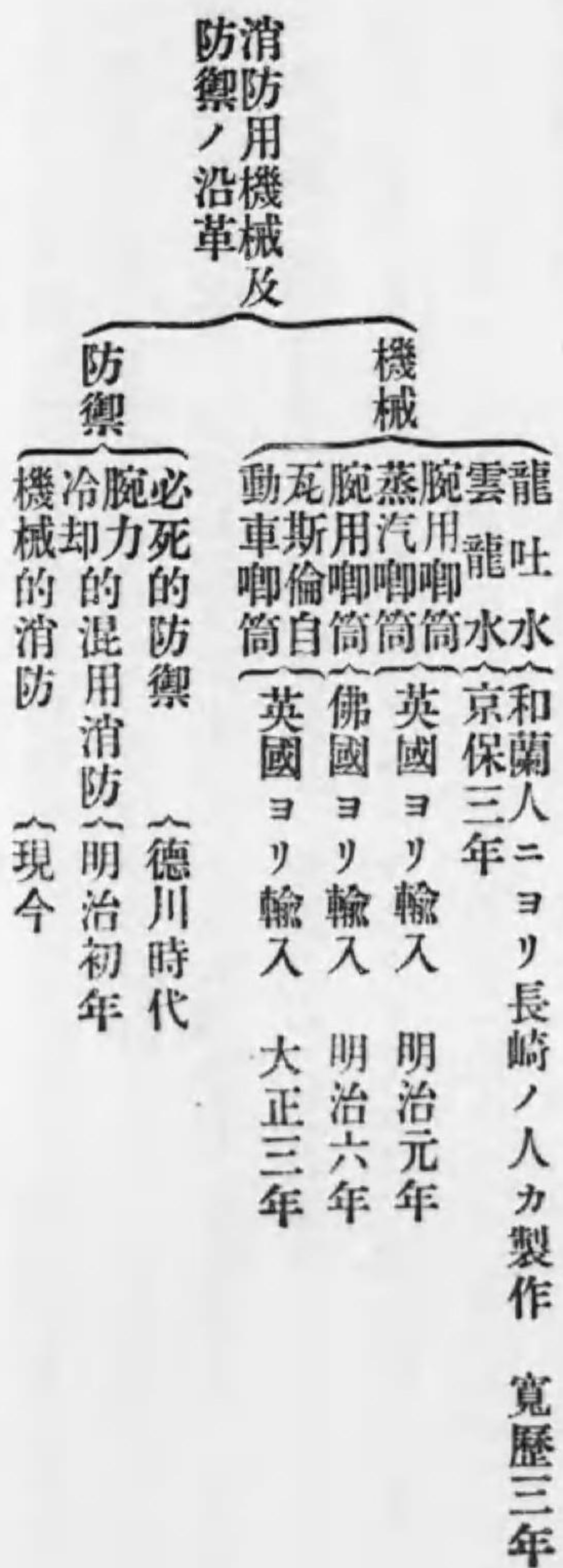
纏ハ各組ノ標識タルト同時ニ精神的結合ノ標的タラシメ今日ノ軍旗ト同様ニ消防組唯一ノ寶物タリ、組員ハ之ヲ尊重シ常ニ敬意ヲ拂ヒ火災防禦ニ方リテハ之ト生死ヲ共ニシタルモノ尠カラスト云フ

其後天保年間水野侯執政ノ時代ニ於テ纏ノ大サヲ二尺以内ニ制限セラレ、爾來今日ニ至レルモノニシテ現今ハ消防組ノ改善發達ヲ促進セシメンカ爲メ金馬籠使用免許又ハ授與ノ制度ヲ設ク

四 消防用機械唧筒ノ撰擇及購入標準 (イ)可及的小形ニシテ重量少ナキコト(ロ)構造堅牢ニシテ容易ニ破損故障ヲ生セサルモノ(ハ)保存上多大ノ經費及勞力ヲ要セサ

ルモノ(ニ)取扱簡單ニシテ且ツ取扱者ノ養成簡單ナルコト(ホ)出場放水運用共ニ其ノ方法簡單ニシテ多數ノ人員及時間ヲ要セサルコト(ヘ)着手後短時間ニシテ全能力ヲ發揮シ得ルト同時ニ必要ニ應シ隨意ニ壓力ヲ昇降シ得ルコト(ト)相當行走能力ヲ有スルコト(チ)附屬器具及所要人員輸送上其ノ容積充分ナルコト(リ)運用上多大ノ經費ヲ要セサルコト(ヌ)水壓ハ普通百封度乃至二百九十封度ノ壓力ヲ有シ且真空計廿五吋以上ナルコト

參考圖解



〔參考問題〕

- 一 唧筒ノ起原ハ何年頃ナルカ
- 二 雲龍水ハ何年頃ニ製出シタルヤ
- 三 我國ニ蒸汽唧筒及瓦斯倫唧筒ノ輸入ヲ見タルハ何年頃ナルカ
- 四 我國ノ防禦上ノ沿革ヲ簡單ニ説明セヨ
- 五 纏ノ起原ハ何年頃ナルカ

第十章 消防用水利

國防ノ充實ヲ計ラントセハ軍備ノ完全ナルヲ要ス、軍備ヲ完全ナラシムルニハ忠君愛國ノ軍隊ト精銳ナル武器ヲ要ス、精銳ナル武器ノ應用ハ之ニ伴フ彈藥ヲ最モ必要トスヘシ、火災消防ニ於ケルモ亦然リ、如何ニ完備セル消防機械ト精銳ナル消防手アリト雖モ消防用ノ水利其ノ宜シキヲ得サレハ充分ナル効用ヲナスコトヲ得ス、之レ國防ノ充實上軍備ニ於ケル彈藥ト同シ故ニ消防ノ研究ヲナサントセハ亦水利ノ考究ヲモ要スル所以ナリ、消防用水利ニ二種アリ一ハ天然の水利ニシテ他ハ人工の水利ナリトス

一 天然の水利

天然の水利トハ河水、濠水、泉水、掘井等ノ如ク消防上人工ヲ加ヘタルモノニアラ

ナル水利ナリトス之等ノ水利ヲ使用セントセハ次ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス

(一) 地面ト水面トノ距離(腕用唧筒ニアリテハ十五尺以内、蒸氣瓦斯倫唧筒ニアリテハ廿七尺以内)ナルヲ要ス

(二) 用水ノ深度(腕用唧筒ニアリテハ一尺以上、蒸氣瓦斯倫唧筒ニアリテハ二尺以上)ナルヲ要ス

但シ地面ト水面トノ距離短縮スルニ準シ水深ハ漸次之レヲ減シ二分ノ一ニ至ルモ尙ホ之レヲ使用スルコトヲ得ヘシ

(三) 河水ノ應用上橋梁及橋臺ノ如キハ機械運轉ノ位地撰定上最モ至便ノ地點ナルヲ以テ其ノ施設ニ關シテハ特ニ適當ナル加工ヲ施スコトヲ要ス

二 人工的水利

人工的水利トハ水道消火栓、貯水池ノ如キ消防上特設シタル水利ヲ云フ、水道消火栓トハ自然流下又ハ壓迫送水ノ方法ニヨリ配水スル水道鐵管内ノ水壓力ヲ直接ニ火災防禦上ニ應用セントスルモノトス、然シテ其ノ配置ハ路上約六十間乃至八十間毎ニ一個ノ放水栓ヲ設置スルカ如キ之レナリ

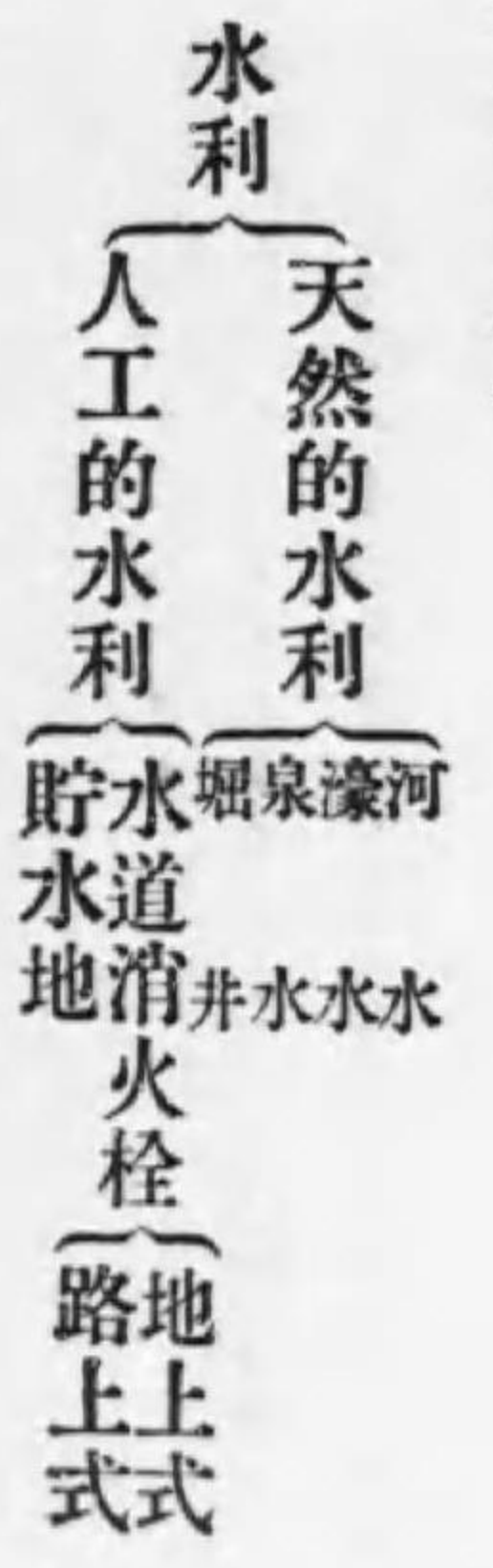
次ニ消火栓ハ其ノ設備ニ關シ二種ノ方法アリ、即チ一ハ路上式ニシテ一ハ地上式ナリトス、路上式ニヨル消火栓ハ其ノ裝置ヲ路上ニ設備シ地上式ニヨル消火栓ハ地中ニ栓

室ヲ設ケ之レニ裝置スルモノヲ云フ

前述セル水道消火栓タル設備ノ路上式地上式ノ利害得失ヲ述レハ路上式設備ハ地上式ヨリ經費僅少ニシテ降雨ノ爲メ泥土沈澱セスト雖モ冬期凍氷スルノ缺點アリ、地上式ハ路上式ヨリ經費多額ヲ要シ降雨ニ泥土沈澱スルノ缺點アルモ冬期凍氷スルノ虞ナシ貯水池ハ先キニ天然的水利ニ於テ説明シタル如ク消防上ノ必要ナル條件ヲ具備スルモノニシテ其ノ構造ハ機械一臺ニ對シ少クモ三十分以上使用ニ堪エ得ル水量ヲ貯溜シ得ルカ又ハ使用ニ應シ漸次其ノ水量ヲ補充シ得ルノ設備アルヲ要スルモノトス

參考 水道消火栓ニシテ路上式ハ交通上妨害尠カラサルモ火災ノ如キ場合ニ際シテハ殊ニ夜間ニ於テハ其ノ所在ヲ發見スルニ容易ナルヲ以テ消防上凍氷セサル限リハ地上式ヨリ有利ナリトス

參考圖解



〔參考問題〕

- 一 消防用水利ヲ二大別セヨ
- 二 天然的水利トハ如何ナルモノナルカ列舉セヨ
- 三 水道消火栓ノ種類ヲ舉ケ其ノ利害得失ヲ述ヘヨ

第十一章 火災報知機關

歐米ノ諺ニ「火事ハ最初ノ五分間、戦争ハ最後ノ五分間」ト云ヘルカ如ク火災盜難其他ノ危急ヲ要スル事件ノ報知ハ迅速ナレハ迅速ナルホト其ノ被害ヲ減少シ得ルコトハ永キ經驗ト事實ニ依リ示サル所ナリトス

火災發生ノ報知ハ見張警戒又ハ巡邏ニ依ルカ(自動的)或ハ通信機關ニ(他働的)依ルモノニシテ其ノ迅速ナルハ通信作用ナリトス即チ火災報知機火災専用電話、其他ナリトス左ニ火災報知機ニ就キ述ヘン

第一節 火災報知機

火災報知機トハ火災發生シタルトキ何人ヲ問ハス最初之ヲ發見シタル者ヲシテ最寄消防官署ヘ其ノ場所ヲ急報セシムル一種ノ自動電信裝置ニシテ都市ノ大小機械ノ種類ニ

應シ其ノ方式ヲ異ニセリ

一 報知機ノ沿革

火災報知機ニ電氣ヲ應用スルニ至リシハ電信機ノ發明ニ刺激セラレタルモノニシテ千八百四十九年獨逸伯林市ニテ實施シタルヲ世界ニ於ケル嚆矢トス、次テ米國紐育市ニ於テ一千八百五十年同ボストン市ニテ一千八百五十二年英國倫敦ニテ一千八百八十年設備セララルルニ至リシモノニシテ、我國ニ於テハ大正三年大正博覽會場内ニ約百臺ノ公衆用火災報知機ヲ設置シタルヲ最初トス、次テ大正四年東京電氣局カ六十二臺ヲ市内ニ散在スル各電車車庫ト所轄消防官署間ニ設備セラレ尙大正六年消防出初式ニ設備シタル火災報知機ノ成績ニ好結果ヲ收ムルヤ一層其ノ設備ノ多キヲ見ルニ至リシモノナリトス

二 報知ノ効果

- (一) 何人ニテモ火災ノ位置ヲ敏速且ツ正確ニ消防官署ニ通報シ得ルコト
- (二) 他ノ強力ナル電氣電擊ヲ受クルコトナク何人ニモ安全ニ出火ヲ報知シ得ルコト
- (三) 電燈又ハ電力線ト混觸シ強電流ヲ通スルコトアルモ火災報知機ノ働作ヲ中絶セ

(四) 出火ヲ報知スルニハ熟練ヲ要セス火急ノ際何人ニテモ簡單ニ行ヒ得ヘキコト而シテ其方法ヲ簡單明瞭ニ報知機ノ外面ニ記載スルコト

(五) 線路及諸機械ハ常ニ完全ナル運轉状態ニアリ何時使用シテモ差支ナキコト

(六) 受報ハ或ル程度マテ自動的ニ行ハレ而モ虚報又ハ信號ノ混同ナキコト

三 火災報知機ノ裝置
火災報知機ハ發信機、受信機、受信中繼機、線路、電池ノ要素ヨリ成ルモノトス

參考

現今ハ火災報知機ノ應用ニ鑑ミ非常事件(例ヘハ盜難及傷事件ノ如キ)ニ際シ盜難報知機ナルモノヲ設備シ其ノ危急ヲ警察官署ヘ通報シ迅速ナル臨場ヲ求ムルモノトス

第二節 火災専用電話

火災専用電話ハ大正六年四月ヨリ消防官署ノ設置アル都市ニ於テ火災發生ノ場合何人ヲ問ハス加入電話若ハ自動電話又ハ通話局電話ニ依リテ火災發生ヲ消防官署ニ通報シ

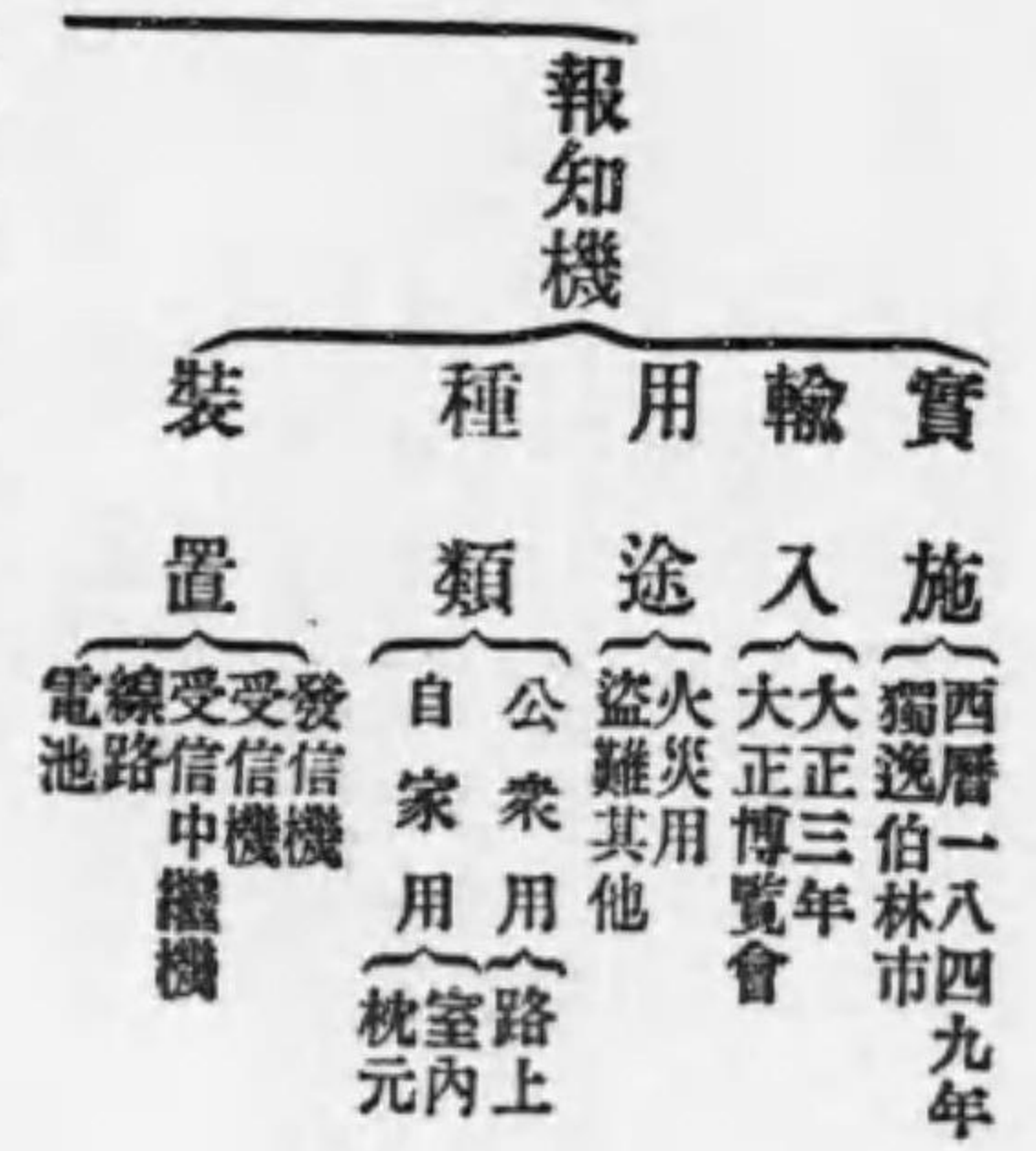
得ルモノナリ

其ノ方法ハ最初電話交換手ヲ呼出シ單ニ「火事」ノ語ヲ發セハ電話局ニ於テ其局擔當區域内ニアル消防官署ノ専用電話ト電話線ヲ接續シ通報者ヲシテ直接火災發生(場所及氏名其他)ヲ通報シ得ルモノトス

第三節 公衆電話其他

火災報知機ハ前述ノ外公衆電話ニ依リ又ハ警察電話其他ニ依リ消防官署各消防組若ハ警察官署ニ通報スルコトヲ得ルモノナレトモ詳細ハ爰ニ之ヲ省略ス

參考圖解



火災報知機關〔火災專〕實施〔大正六年四月〕

用電話〔設置〕消防官署

加入者電話

公衆及警察電話

自動電話
通話局電話
警察官署
派出所
駐在所
電話

其他〔汽鐘〕

火災報知機ノ取扱及働作

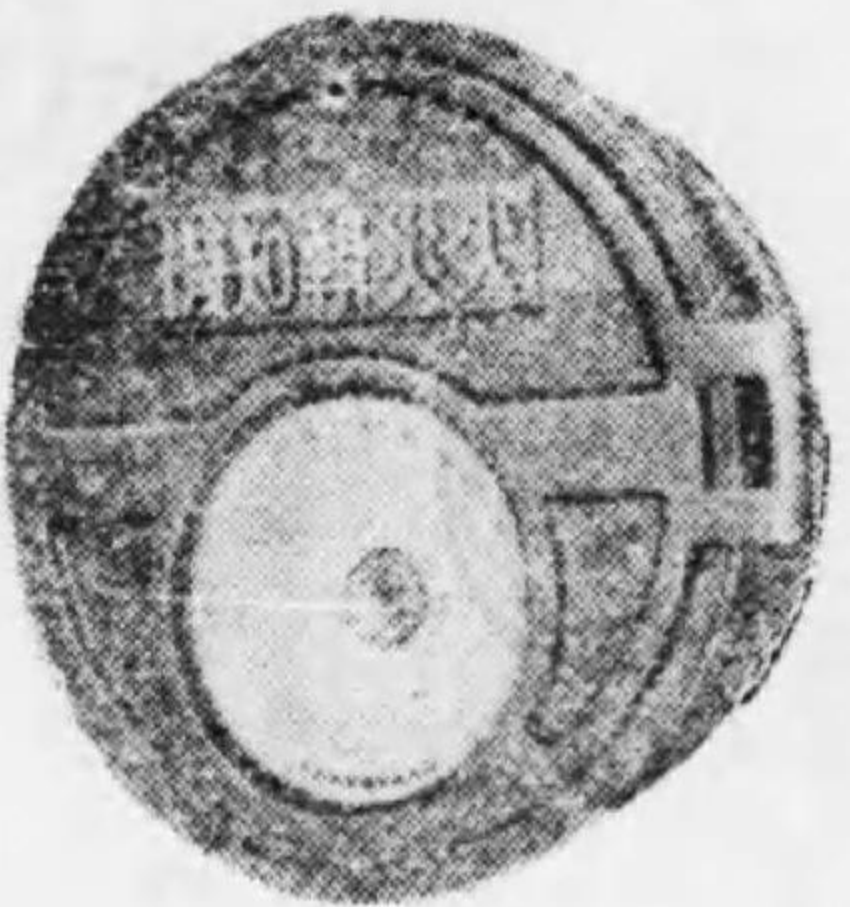
發信機ノ機械部ハ赤色ニ塗リタル金屬函内ニ納メ防水裝置ヲ施シ、寫真ニ示ス如ク鐵柱ニ取付ケ、其上部ニ赤色表示板ヲ掲ケ、夜間ニハ赤色電燈ヲ點火ス
火災發見者ハ發信機表面ノ小窓ニ設ケタル硝子板ヲ破リ、釦ヲ押セハ發信機ノ機械部

火災報知機



發信機裝置〔路上〕

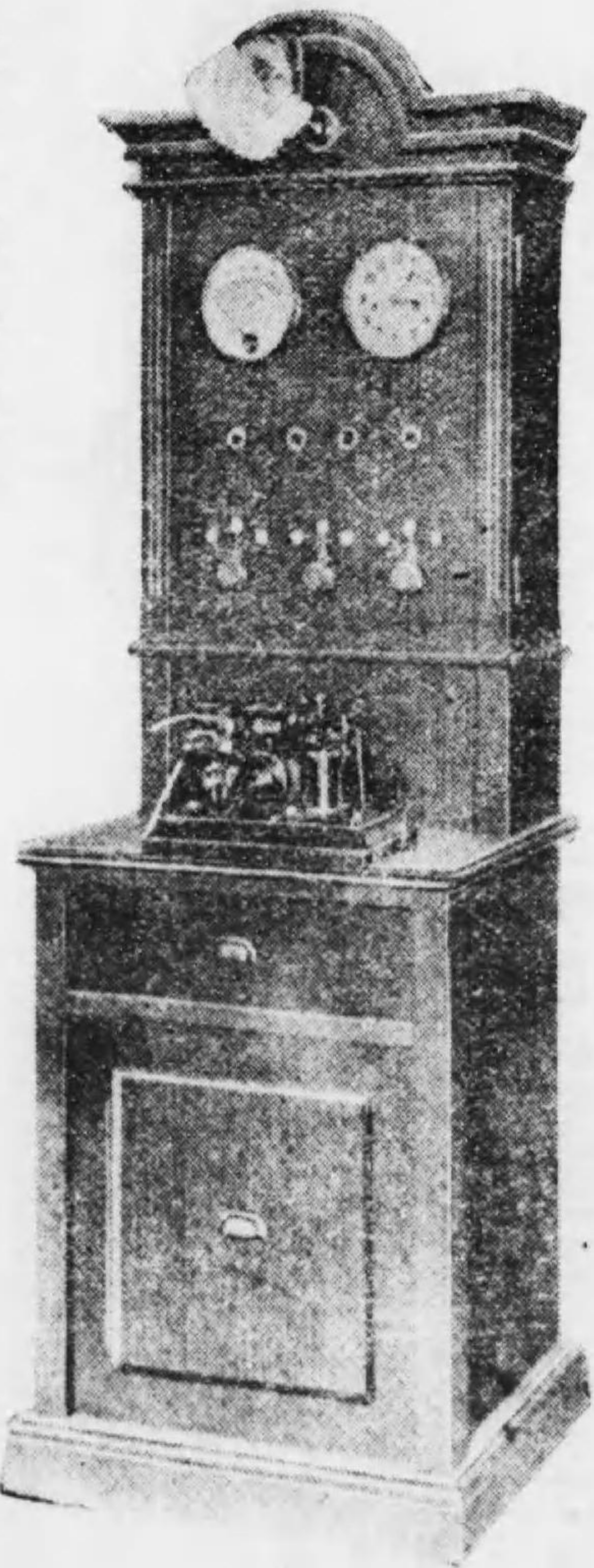
發信機

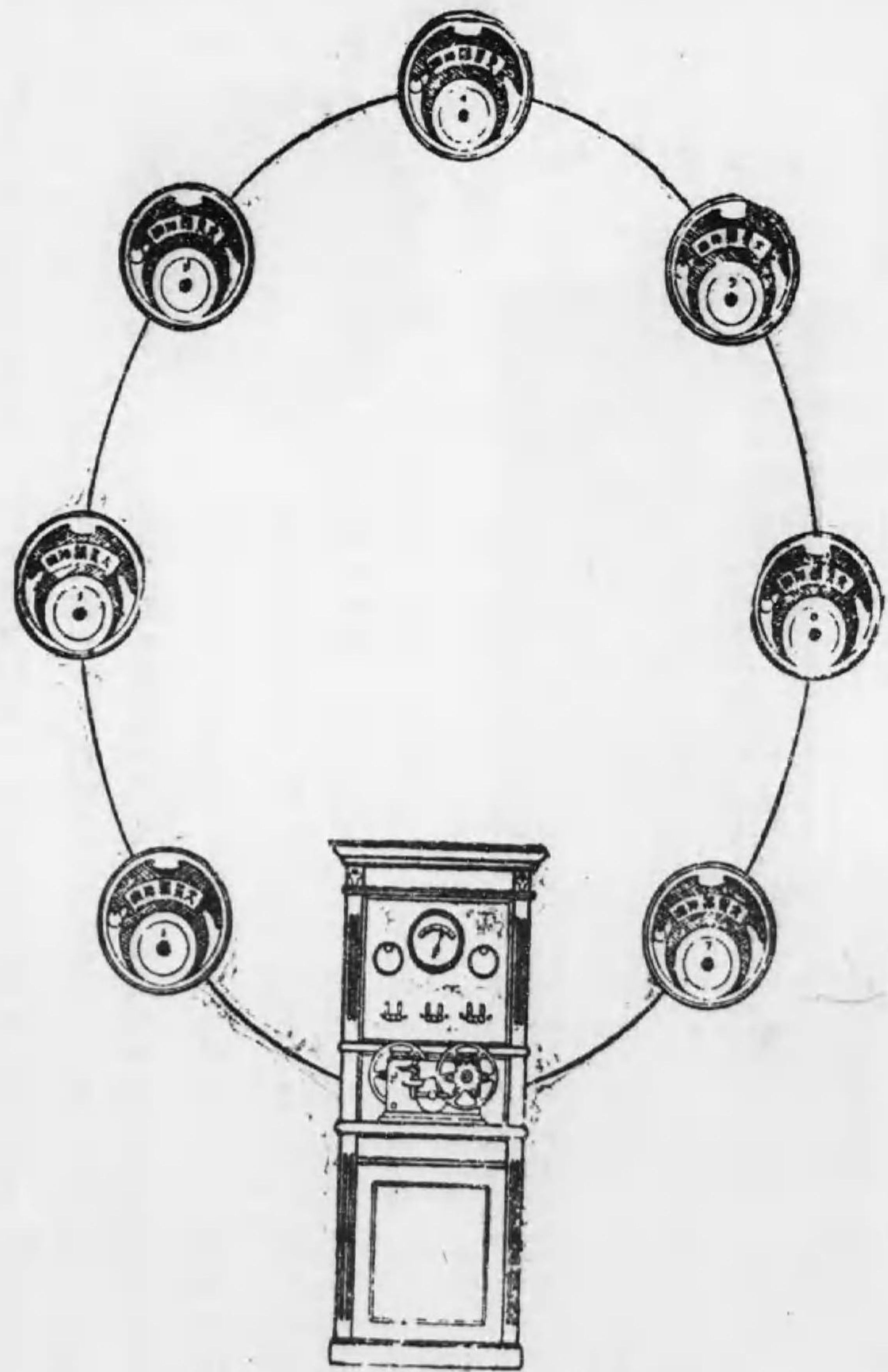


火事ノ時ハセルロイド(又ハガラス)ヲ破リ釦ヲ押ス

ハ發働ヲ始メ、前記各受信機ハ一齊ニ働作シ高音電鈴ヲ鳴動シツツ自動的ニ受信機ノ帶紙上ニ發信機番號ヲ圖ノ如ク印刷ス、以上受信終ルト同時ニ發信機及受信機ハ何レモ自動的ニ停止ス、此受付ケタル番號ニヨリ發信機番號表ニ照シテ火災地點ヲ知り、消防隊出動ヲ見ルニ至ルモノナリ

火災受信機





火災報知機連絡系統圖

受信機帶紙上ニ發信機番號ヲ印刷シタル一例



五 三 十 二 番

〔參考問題〕

- 一 火災報知機トハ如何ナルモノナルカ簡單ニ説明セヨ
- 二 火災報知機ヲ最初應用シタル國名ヲ記セ
- 三 我國ニ火災報知機ノ設置ヲ見タルハ何年頃ナルヤ
- 四 火災報知機裝置ノ要素ヲ列擧セヨ
- 五 非常報知機機關ノ要素ヲ記セ

第十二章 消防ト電氣

電氣ハ日常吾人カ總テノ方面ニ需用シツツアルモノニシテ例ヘハ交通機關ニ於ケル電車、電信、電話、或ハ工業ニ於ケル動力機關ニ若ハ家庭上ニ於ケル電氣扇、電氣ストーブ、裁縫用及料理用等ニ應用セラレツツアリ、而シテ電氣ハ世ノ文明ト共ニ將來益々其利用範圍擴張スルニ於テハ之レニ伴フ災害ノ發生スヘキヲ考慮セサルヘカラス、

第一編 消防大要(總論) 第十二章 消防ト電氣

故ニ消防上電氣モ亦研究スヘキ問題ニ屬ス

電氣ノ研究ヲナサントセハ別ニ電氣學アリ茲ニハ唯々發電所其他ニ就キ簡單ニ説述セ
ン

第一節 發電所其他

- 一 發電所 發電所トハ發電機、原動機、其他機械器具ヲ設備シ電氣ヲ發生スル場所ヲ云フ
- 二 變電所 變電所トハ發電所、蓄電所又ハ他ノ變電所ヨリ送電セラルル電氣ヲ更ニ構外ニ送電又ハ配電スル爲構内ニ設備セル機械器具ニヨリ變成スル場所ヲ云フ
- 三 蓄電所 蓄電所トハ發電所、變電所、以外ノ場所ニ於テ蓄電池其他ノ機械器具ヲ設備シ電氣ヲ充電及放電スル場所ヲ云フ
- 四 開閉所 開閉所トハ發電所、變電所、蓄電所以外ノ場所ニ於テ送電又ハ配電ノ爲メ構内ノ設備ニヨリ電路ヲ開閉スル場所ヲ謂フ

第二節 電線

電線ノ種類 電線ニハ軟銅線、硬銅線、硅銅線、亞鉛鍍鐵線、亞鉛鍍鋼鐵線アリ此等

ノ電線ニハ單線ト撚線トノ別及被覆線ト裸線トノ別アリ電線ニハ其直徑ノ大小ニ應シ
番號ヲ附スルヲ線番號ト云フ線番號ニ左ノ各種アリ

米國スターダード線番號SWG

自一番至五十番

米國ブラウン、エント、シャツプ線番號BS自一番至三十六番

第三節 配線

發電機ヨリ二條ノ電線ニヨリ送電スル方法ヲ二線式ト稱シ三條ノ電線ヲ使用スルモノ
ヲ三線式ト稱ス、需用家ニ電氣ヲ供給スルニハ通常發電所ニ高壓ノ電氣ヲ起シ之ヲ特
別高壓ニ變シテ需用地ノ變電所ニ送電シ更ニ普通高壓ニ下ケ之ヲ尙ホ低壓ニ變シテ供
給ス之ノ電壓ヲ上下セシムルニハ變壓器ニ依ル

高壓架空電線路ニハ其亘リ長十町以下毎ニ開閉器ヲ設置シ電路ヲ遮斷スルニ便ナラシ
ム、高壓架空線ヲ支持スル腕木又ハ碍子ハ地上ヨリ甄別シ得ル様其ノ全部又ハ一部ヲ
赤色ニ塗り特別高壓ニアリテハ電柱地表八尺ノ高サニ縱幅一尺許ノ赤筋及必要個所ニ
「注意」ノ記號ヲ揭示ス

又屋内ニ施設スル電線ニハ引込口ニ近キ場所ニ開閉器又ハ自動遮斷器ヲ各極ニ裝置シ

且ツ開閉器ハ容易ニ電路ヲ遮斷シ得ル様ニナスヘキナリ

第四節 低壓及高壓

低壓トハ直流ニアリテハ六百ウオルト交流ニアリテハ三百ウオルトヲ超過セサル電壓ヲ云フ、高壓トハ低壓ノ限度ヲ超過シ三千五百ウオルトヲ超過セサル電壓ヲ云フ、特別高壓トハ高壓ノ限度ヲ超過セル電壓ヲ云フ、弱電流トハ電信電話電氣信號等ニ使用スル低壓ノ電流ヲ云フ

第五節 變壓器

變壓機トハ鐵心ニ二種ノ線輪ヲ卷キタルモノニシテ交流ノ誘導作用ニ由テ或ル電壓ノ交流ヲ他ノ電壓交流ニ變スルモノヲ云フ

第六節 電流及抵抗

熱ハ溫キ方ヨリ冷キ方面ヘ傳ルカ如ク兩物體間ニ電位差生スルトキハ電氣ハ中間ノ導體ヲ介シテ電位高キ物體ヨリ電位低キ物體ニ向テ移動ヲ始メ電位差ノ零トナリタルトキ始メテ止ム、之ノ電氣ノ移動ノ間斷ナク行ハルル有様ヲ稱シテ電流ト云フ、然ルニ其ノ互ニ平均スル有様ハ回路ノ性質ニ由テ難易アリ、此ノ電流ノ流通ニ對スル物體ノ

性質ヲ物體ノ電氣抵抗ト云フ、電氣抵抗ハ物體ノ長サニ正比例シ切斷面積ニ逆比例ス而シテ電氣移動ノ方向カ電位ノ高キ方ヨリ低キ方ニ向テ流ルルモノニシテ電位ノ高キ方ヲ陽極ト云ヒ低キ方ヲ陰極ト云ヒ電流ノ流ルル道ヲ回路ト云フ

參考〔電流ノ單位〕 アムペアト稱シ一秒間ニ電流ノ流ルル強サヲ示スモノナリ
〔抵抗ノ單位〕 オームト稱ス

第七節 良導體及絶緣體

電氣ニ對スル物體ノ抵抗少ナキモノヲ良導體トシ各種ノ金屬之レニ屬ス、電氣ノ導キ難キモノヲ絶緣體ト云フ、例ヘハ乾燥セル空氣、硝子、雲母、絹糸、バラフィン、護謨、陶磁器、油等之レニ屬ス、純粹ノ液體ハ概ネ絶緣體ナレト他ノ液體ヲ混スルトキハ導體ト變ス

參考

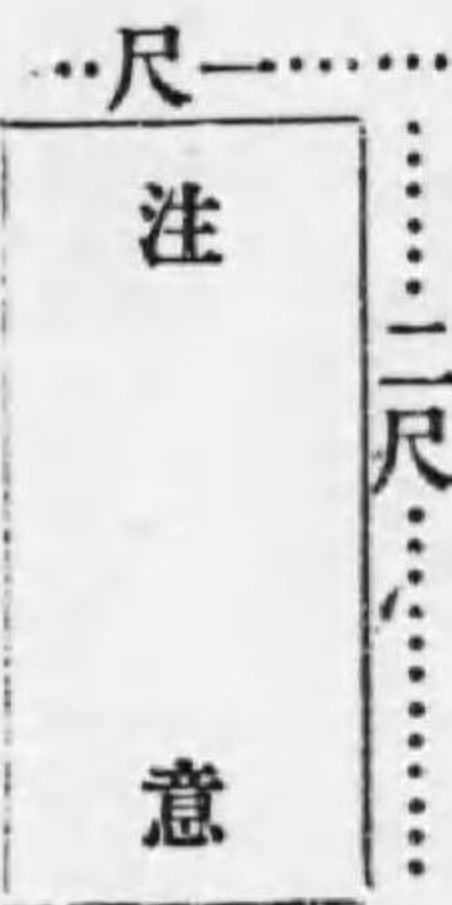
- 人間ノ抵抗力一、〇〇〇オーム乃至一〇、〇〇〇オーム
- 五、MA(ミリアンペア) 痙率ヲ起シ
- 一〇、MA(ミリアンペア) 非常ナル苦痛ヲ感ス
- 一〇〇、MA(ミリアンペア) 死ス

第八節 電氣ニ關スル注意心得

大正二年六月二十七日
逓信省告示第五三五號

電柱及電線ニ關スル注意

一 電柱及電線ニハ成ルヘク接觸セサルヲ良トス殊ニ暴風雨、雪、雷鳴ノ際ニハ最モ注意スヘシ低壓電燈、電力線及電信電話線ハ通常危險ナシト雖暴風雨、雪、雷鳴等ノ事變ニ際シテハ電燈、電力用高壓電線又ハ電氣鐵道用電線ト混觸スルノ虞アレハ右等ノ場合ニハ總テ電柱 電線類ニ身體ヲ觸レサル様注意スヘシ、電線ヲ支持スル碍子、腕木又ハ電柱ノ全部若ハ一部ヲ赤色ニ塗リタルモノ又ハ左ノ標示アルモノハ高壓又ハ特別高壓電氣ノ通スルモノナレハ特ニ注意スヘシ



二 電柱、電線ノ近傍ニ出火アリテ電柱類燒ノ虞アリトモ安リニ及物ヲ以テ電線ヲ切斷シ又ハ電柱ヲ倒ス等ノコトアルヘカラス、此ノ道ニ心得ナクシテ之ヲ試ムルトキハ意外ノ危險ニ陥ルコトアリ注意スヘシ

三 電柱、腕木、電線又ハ之ニ接續セル物品ニ火花ヲ發シ又ハ異常アルトキハ速ニ警察官又ハ電氣事業者ニ報告スヘシ、但シ電氣鐵道ニ於テ電車通行ノ際火花ヲ發スルハ通常ナレハ之等ハ別段トス

四 電線ノ切斷垂下セルモノアルモ安リニ之ニ觸ルヘカラス、萬一已ムヲ得スシテ切斷垂下線ヲ動かストキニハ乾キタル布ニテ厚ク手ヲ包ミ乾燥シタル長キ竹木ノ類ヲ以テ間接ニ之ニ觸ルヘシ、其間乾キタル靴若ハ下駄ヲ穿ツヲ良トス若シ跣足又ハ草鞋ノ儘ニテ及物或ハ金棒類ヲ以テ電線ニ觸ル、トキハ電擊ヲ受クルコトアルヘシ
室内用電力電燈線ニ關スル注意

五 室内用電線ハ電氣ノ漏泄ヲ防ク爲絲「ゴム」又ハ布ニテ包ミアルモ若シ缺損ノ箇所アルトキハ危險ノ虞アリ然ルニ往々電線ヲ戸障子間ノ如キ開閉ノ爲摩擦セラルル所ニ挾ミ又ハ電燈線ヲ疎漏ニ上下ニ動カシ之カ爲メ線ノ外包ヲ破損ノ其儘ニ放棄シ置クコトアリ此ノ如キハ不時ニ發火スル危險ノ虞アルモノナレハ室内用電線ハ決シテ損傷セサル様注意シ若シ損傷ノ箇所アラハ速ニ電氣事業者ニ報知シ修補セシムヘシ

六 電線ヲ瓦斯管、水道管、其ノ他ノ金屬體ニ接セシメ又ハ釘ニ懸クル等ハ其ノ外包

ノ損傷ヲ來シ易ク電氣ノ漏洩ヲ惹キ起ス虞アルモノナレハ必ス之ヲ避クヘシ

七 電燈ノ點滅ハ點滅器ニ依リテ之ヲ爲シ其際成ルヘク電線電氣器具等ニ手ヲ觸ルヘカラス、電線其ノ他電氣器具ヲ濕ラストキハ電氣ノ漏洩ヲ導キ易ク危害ヲ招クノ虞アリ故ニ室内用電線電球其ノ他電氣器具ハ成ルヘジ濕ラササル様注意シ且ツ決シテ濡手ニテ取扱フヘカラス

電氣器具及室内電線等ヲ玩弄シ又ハ水氣アル手指ニテ扱ヒ或ハ跣足ノ儘土間ニ在リテ之ニ觸ルル等ハ電氣ニ感シ易ク危険ナレハ電氣需用者ハ篤ク使用人等ニ教ヘ常ニ注意スヘシ

八 室内電線其ノ他之ニ接續セル電氣器具ニ火花ヲ發シ或ハ其ノ他異狀アリト認メタルトキハ引込ノ開閉器ヲ遮斷スヘシ、引込ノ開閉器ニハ麻繩ノ類ヲ付シ之レヨリ容易ニ開閉器ヲ遮斷シ得ル様ニ裝置スヘシ

〔參考問題〕

- 一 發電所トハ如何ナル處ナルヤ
- 二 變電所トハ如何ナル處ナルカ
- 三 電氣ハ中間ノ導體ヲ介シテ如何ニ移動ヲ始ムルカ説明セヨ

- 四 電氣ノ抵抗ハ物體ノ長 及切斷面積ニ依リ如何ニ比例スルカ
- 五 電氣ニ對スル良導體及絶緣體ノ種類ヲ列記セヨ

第十三章 消防組後援機關

第一節 婦人消防隊

一 起原 婦人消防隊ノ起原ハ稍々不明ニ屬スレトモ歐米ニ於ケル婦人警察官ノ採用ニ因ミ最近婦人ニモ消防ニ從事セシムルニ至リシモノニシテ、我國ニ於テ之レカ實施ヲ試ミタルハ静岡縣下ニ於ケル内浦村婦人警備隊ナリトス

同村ハ元來漁業本位ナルヲ以テ男子ハ毎日海上ニ出漁シ常ニ不在勝チニアリ、加之同村ノ地勢タルヤ海ニ臨ミ山岳ヲ脊ヒ居リテ隣村ニ遠ク一朝火災アルヤ迅速ニ其ノ應援ヲ求ムルニ由ナシ、茲ニ於テカ家ニ在ル婦人ヲシテ消防ノ任ニ當ラシムル目的ヲ以テ大正九年三月十三日之レカ組織ヲ見ルニ至リシモノナリ

二 目的及組織 本隊ノ目的ハ村内一般婦人ヲシテ火災ヲ豫防シ大事ヲ未然ニ防キ一朝有事ニ際シ男子出漁其他ニヨリ不在ノ場合ニ於テ婦人自ラ應急防禦ヲナスノ外男

子消防ノ援助ヲモナスモノニシテ、村内貴賤上下ノ差別ナク十六歳以上卅歳以下ノ婦人ヲ以テ編成シ此ノ内ニ一名ノ總代(役員)ヲ置キ男子消防組役員ノ指揮ヲ承ケ隊務處理ヲナスモノトス

三 消防用ノ器具 婦人消防ノ事ナレハ其ノ活動上ノ迅速ヲ計ルカ爲メ最モ輕便ナルモノヲ撰擇シ左ノ器具ヲ完備シアリ

經便消火器(二十臺)水桶(大二十個)馬穴桶(小四十個)隊旗(一本)

四 服裝及經費 同地方ニ於ケル婦人ノ常裝ニ白布ノ襟ヲ掛ケ白布ノ前垂ヲ普通ヨリ少シ高ク締メ脚胖ニ足袋裸足トシ以テ活動ニ便ナラシム、經費ハ同村消防組ニ屬スル警備費ヲ以テ充テ婦人ハ何レモ義務的ニシテ手當ヲ受ケス

第二節 少年消防隊

少年消防隊ハ婦人消防ノ起原ト同シク最近婦人消防ノ活動ニ鑑ミ編成シタルモノニシテ其ノ組織ハ各地方區々ニ亘ルモ最初之レカ實施ヲ試ミタル静岡縣下ニ於ケル富塚村少年消防隊ニ就キ左ニ記サン

一 目的及組織 同地方ハ公設消防組ノ發達著シク消防思想ノ鼓吹ハ少年ニモ及ヒ先

ッ第二消防組ヲ組織スヘキ良組員ハ少年ニアリ其養成ハ今ヨリ之レヲ爲スヘキ要アリトシ學校及ヒ學校附近ノ非常事變又ハ晝間通學區域内ニ火災アル場合ニ消防組ノ後援ヲ爲ス目的ヲ以テ之カ組織ヲ見ルニ至リシモノナリ而シテ少年消防ハ同村小學校尋常科第六學年生以上ノ男子ヲ以テ組織シ隊員ハ左ノ各項ノ一ニ該當セサルモノトス

イ 身體脆弱ニシテ學校醫ノ不適當ト認メタルモノ

ロ 保護者ヨリ特別ノ事情ヲ以テ不加ヲ願ヒ出タルモノ

ハ 其他學校ヨリ不適當ト認メタルモノ

尙左ノ事項ニ該當スルモノハ當然退隊シタルモノトス

イ 本校ヲ卒業シタルモノ又ハ轉校シタルモノ

ロ 全治ノ見込ナキ疾病ニ罹リタルトキ

次ニ本隊ノ役員ハ總裁一名、副總裁一名、隊長一名、小頭若干トシ之カ任期ハ一年間トス

二 消防用ノ器具 腕用唧筒若ハ輕便唧筒ヲ完備シ之カ操法ハ公設消防組員ニ劣ラサ

ルノ現況ニアリ

三 服装及經費 同隊ハ白シャツ、半袴トシ活動上遺憾ナキ服装ヲナシ居ルモノニシテ經費ナク全クノ義務的組織ナリトス

第三節 青年消防隊

青年消防ハ公設消防組設置以前ヨリ組織セルモノニシテ各地方毎ニ編成セラレ居ルモノナリ之等ノ消防ハ多ク私設消防組ナリトス

第四節 義勇警察隊

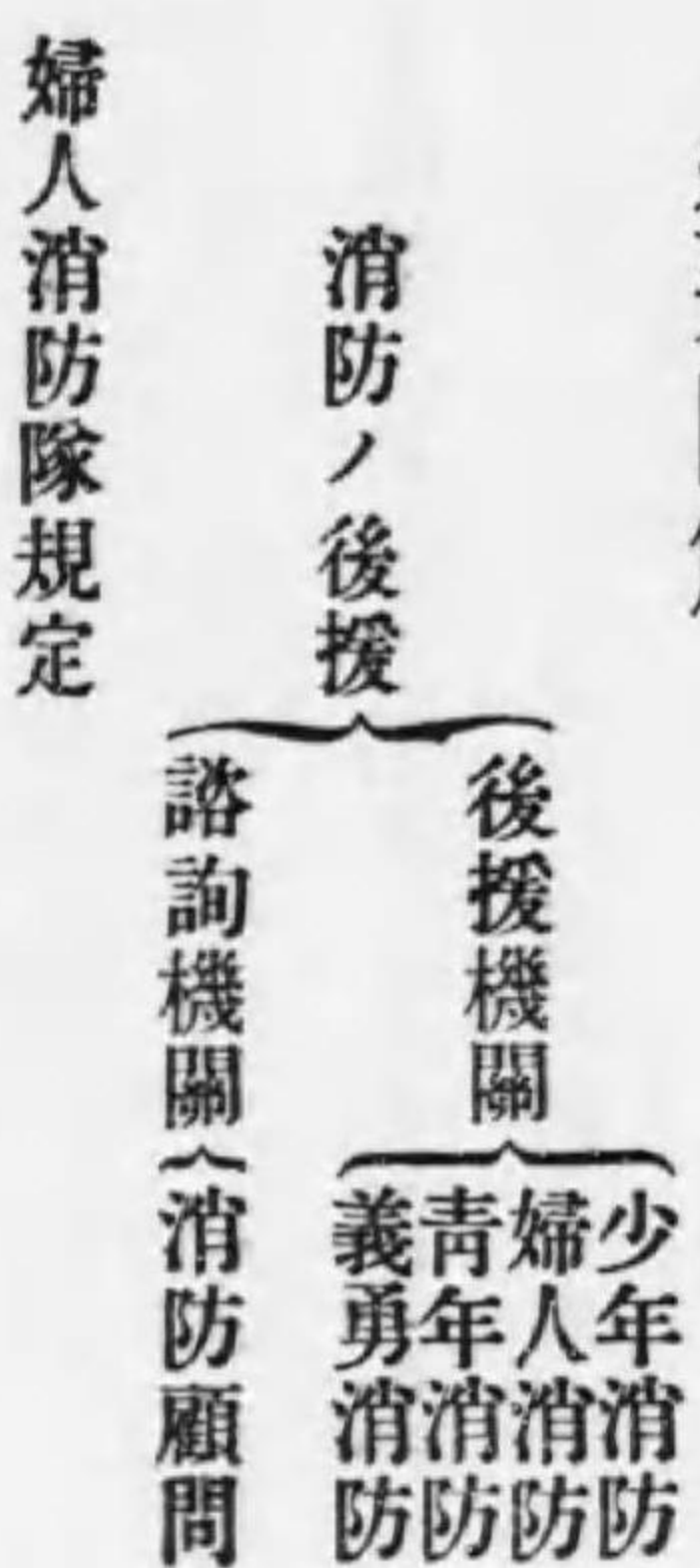
前述ノ如ク婦人、少年、青年ノ各消防組後援隊ノ組織ハ日ヲ追フテ各地方ニ其ノ實現ヲ見ルハ消防ノ發展上大ニ喜フヘキコトナリトス、然ルニ獨リ消防事務ノミニ限ラス警察事務ノ補完若クハ援助ノ目的ヲ以テ警察ニ類似シタル事務ヲ行フ義勇警察隊ナルモノアリ 國民警察ノ實ヲ舉ケントシ自主精神ニ因リ警察ト提携シ安察ノ保持上警察事故ノ發生ヲ防キ災害又ハ非常事變ノ際等ニ於テ救護及警戒ニ従事スルノ目的ヲ以テ茲ニ義勇警察隊ノ組織ヲ見タルハ静岡縣下ノ三島町義勇警察隊ナリトス 而シテ組織ハ總裁一名隊長一名副隊長一名班長五名其他隊員ヲ以テ組織シ常ニ警察官

署ト連絡ヲ保チ一定ノ服装ヲナシ一朝事變ノ發スル場合ハ命令一下直チニ出動シテ嚴シ得ルモノニシテ嚴重ナル紀律ノモノトニ活動シツツアルモノナリ

第五節 消防顧問

消防組後援隊ノ外ニ消防ノ諮詢機關トシテ消防顧問ヲ設ケ之レカ後援ヲナシツツアル町村アリ、其顧問タルヘキモノハ土地消防組ニ役員トシテ永年勤績シ退職シタルモノ及就職中相當功勞アリタルモノ又ハ町村有力者ニシテ消防ニ相當盡瘁シタルモノヲ推薦ス顧問ハ消防事務上重要ナル事項ノ諮問機關ナリ

參考圖解



名稱

第一條 本消防隊ハ本村消防組ニ屬シ婦人消防隊ト稱ス

目的

第二條 本消防隊ハ村内一般ノ婦人ヲシテ出火ヲ豫防シ大事ヲ未然ニ防キ有事ニ際シ男子不在ノ場合婦人自ラ之ニ代リ應急ノ手段ヲ講セシムルヲ目的トス

第三條 本消防隊ハ十六歳以上ノ婦人ヲ以テ組織ス

第四條 各區ニ於ケル消防隊ハ其ノ區ノ消防組各部ニ屬ス

役員

第五條 各部消防隊員中ニ總代一名ヲ置キ消防組役員ノ指揮ニ從ヒ隊務ヲ處理ス

方法

第六條 各支部ニ輕便ポンプ數臺ヲ備ヘ有事ニ備フ

第七條 本消防隊ハ消防組役員ノ命ニヨリ時々消火演習ヲ行フ
少年消防隊規程

第一條 本隊ハ尋常高等小學校第六學年以上ヲ以テ組織シ少年消防隊ト稱ス

第二條 本隊員ハ尋常科第六學年以上ノ男兒ヲ以テス 但シ左ニ掲クル各項ノ一ニ該當スル者ハ本隊ニ加ヘス

一 身體脆弱ニシテ學校醫ノ不適當ト認メタルモノ

一 保護者ヨリ特別ノ事情ヲ以テ不加ヲ願ヒ出タルモノ

一 其他學校ヨリ不適當ト認メタルモノ

第三條 本隊員ニシテ左ノ各項ノ一ニ該當スルトキハ當然其ノ職ヲ失フモノトス

一 本校ヲ卒業シタルトキ

一 他校ニ轉校シタルトキ

一 全治ノ見込ナキ疾病ニ罹リタルトキ

一 其他前條ニ抵觸シタルトキ

第四條 本隊ハ別ニ人員ヲ限定セス左ノ役員ヲ設ク

總 裁	一 名	副總裁	一 名
隊 長	一 名	小 頭	若干 <small>(隊員十名 每二一名)</small>

第五條 本隊役員選出方次ノ如シ

- 一 總裁ハ本小學校長之ニ任ス
- 一 副總裁ハ總裁ノ指名ニ依リ本校訓導中ヨリ其ノ任ニ當ル

- 一 隊長小頭ハ副總裁之ヲ選定シテ總裁ノ許可ヲ得ルモノトス
但シ小頭ハ時宜ニヨリ必要ト認メタルトキハ之ヲ増加スルコトアルヘシ
- 第六條 役員ノ任期ハ壹學年間トス
- 第七條 本隊員ハ共同一致ヲ旨トシ規律敏活ヲ尊ヒ抵抗違背ノ所爲アルヘカラス
- 第八條 消防機械器具一切ノ保管ハ各員責任ヲ以テ保存シ時々點檢ヲ行ヒ使用後ハ直チニ掃除シ副總裁ノ檢閲ヲ受クヘシ
- 第九條 本消防隊ハ火災豫防ヲ任務トスレトモ萬一左ノ項目ノ一ニ該當スル火災アリテ總裁ニ於テ本隊出動ノ必要アリト認メタルトキハ副總裁引率ノ下ニ繰出スコトアルヘシ
- 一 本校及ヒ本校附近ニ非常事變ノ生シタルトキ
- 一 晝間通學區域内ニ火災アリテ消防組ヨリ援助ヲ求メラレタルトキ
- 第十條 定期演習ハ毎年一月、三月、十月ノ三回ニ行ヒ定期練習ハ每週土曜日ノ放課後トス
- 第十一條 以上各條目ノ外消防組服務規約ヲ遵守スヘシ

青年消防隊規約

- 第一條 本消防隊ハ本村消防組ニ屬シ青年消防隊ト稱ス
- 第二條 本消防隊ハ村内一般ノ青年ヲシテ出火ヲ豫防シ火災ヲ未然ニ防キ有事ニ際シ消防組ノ補助ヲナシ萬一消防組不在ノ場合ニハ自ラ之ニ代リ應急ノ手段ヲ講セシムルヲ目的トス
- 第三條 本消防隊ハ拾六歳以上ノ青年ヲ以テ組織シ各部共貳拾名以内トス
- 第四條 各區ニ於ケル消防隊ハ其區ノ消防組各部ニ屬ス
- 第五條 各消防隊出火出場ノ場合ハ各部所屬ノ役員ノ指揮ヲ受クルモノトス
- 第六條 本消防隊ハ消防組役員ノ命ニ依リ消防演習ヲ施行ス
- 義勇警察隊々則
- 第一條 本隊ハ義勇警察隊ト稱ス
- 第二條 本隊ハ自主的精神ニ因リ警察官ト協力シ町内ノ安寧ヲ保持シ警察事故ノ發生ヲ防キ災害又ハ非常事變等ノ際救護及警戒ニ從事スルヲ以テ目的トス
- 第三條 本隊ハ町在住者ヲ以テ之ヲ組織ス但シ其任期ハ二個年トス

第四條 本隊ノ事務所ハ當分警察署内ニ置ク

第五條 本隊ハ左記事項發生シ又ハ發生ノ虞アルトキ警察官吏ヨリ應援ノ要求アリタル場合ハ直ニ出動スルモノトス但警察官吏ト連絡ヲ保チ其ノ職務執行ニ支障ヲ生セシムルコトアルヘカラス

- 一 風水害ノタメ公衆ニ危害ヲ生シ又ハ生セントスル虞アルトキ
- 二 騷擾其他ノ事變アリタルトキ
- 三 盜難警戒又ハ犯人逮捕上必要ナルトキ
- 四 道路破損ノ爲メ交通ニ危険アリテ應急修理ヲ必要トスルトキ
- 五 其他公衆ニ對スル急迫ノ事件發生シ救護ヲ必要トスルトキ

第六條 本隊ニ左ノ役員ヲ置ク

- 總裁 一名 但總裁ニハ警察署長ヲ推薦スルモノトス
- 隊長 一名
- 副隊長 一名
- 班長 五名

第七條 總裁ハ本隊ヲ董督シ隊長ハ副隊長以下ノ隊員ヲ指揮監督シ副隊長ハ隊長ヲ補

佐シ隊長事故アルトキハ之ヲ代理シ班長ハ隊長及副隊長ノ指揮ヲ受ケ班員ヲ監督ス

第八條 本隊ニ顧問若干名ヲ置ク

第九條 隊員ノ命免黜陟ハ隊長之ヲ專行ス

第十條 隊員ハ常ニ紀律嚴肅、品行方正ニシテ名譽ヲ尙ヒ賤劣、貪汚ノ所爲アルヘカラス

第十一條 隊員ニ對シテハ必要ニ應シ時々法令ノ講習ヲ爲ス

第十二條 隊員ニシテ紀律ヲ紊シ若クハ素行修ラスシテ本隊ノ體面ヲ汚損スルカ如キ行爲アリタルトキハ之ヲ除名スルコトアルヘシ

〔參考問題〕

- 一 消防組合後援ノ種類ヲ舉ケヨ
- 一 消防ノ諮詢機關トハ如何ナルモノナルヤ

第十四章 消防法規

第一節 官治及自治消防

官治消防トハ官廳ノ官吏カ直接ニ消防ニ從事スルモノニシテ其ノ規程ハ警視廳官制及特設消防署規程(大正二年勅令第一四九號及大正八年勅令第三五〇號)ナリ、自治消防トハ地方自治體ニ於テ義務的ニ設置セラレタルモノニシテ警察官署ノ指揮監督ヲ受クルモノナリ消防組規則(明治二十五年勅令第十號)アリテ何レモ其ノ設置、組織、費用其他ノ規程アリ凡ヘテ之レニ基クモノトス詳細ハ各法規ニ就キ知ルヘシ

第二節 建物其他ニ對スル使用處分

火災ニ際シ消防ノ目的ヲ以テ建物其他ヲ使用シ又ハ破毀スル場合其ノ處分ニ對スル法ノ根據ハ行政執行法第四條之レナリ

天災事變ニ際シ危害豫防ノ爲メ必要ト認ムルトキ又ハ生命身體若ハ財産ニ對シ危害切迫セリト認メ又ハ水陸ノ交通ニ危険ヲ及ホス虞アリト認メタルトキハ當該行政官廳ハ土地物件ヲ使用處分シ又ハ其ノ使用ヲ制限スルコトヲ得ルナリ(行政執行法第四條、同法施行令第二條參照)

第三節 出火ノ際ニ於ケル處置

出火ノ場合ハ巡查失火ノ合圖ヲナシ一般ニ知ラシムヘキモノトス、且ツ燒失ニ罹ル家ニアリテハ其家人ヲ助ケ消防ノ事ヲ勤ムヘク、消防ノ人員已ニ集ルニ至レハ勉メテ亂

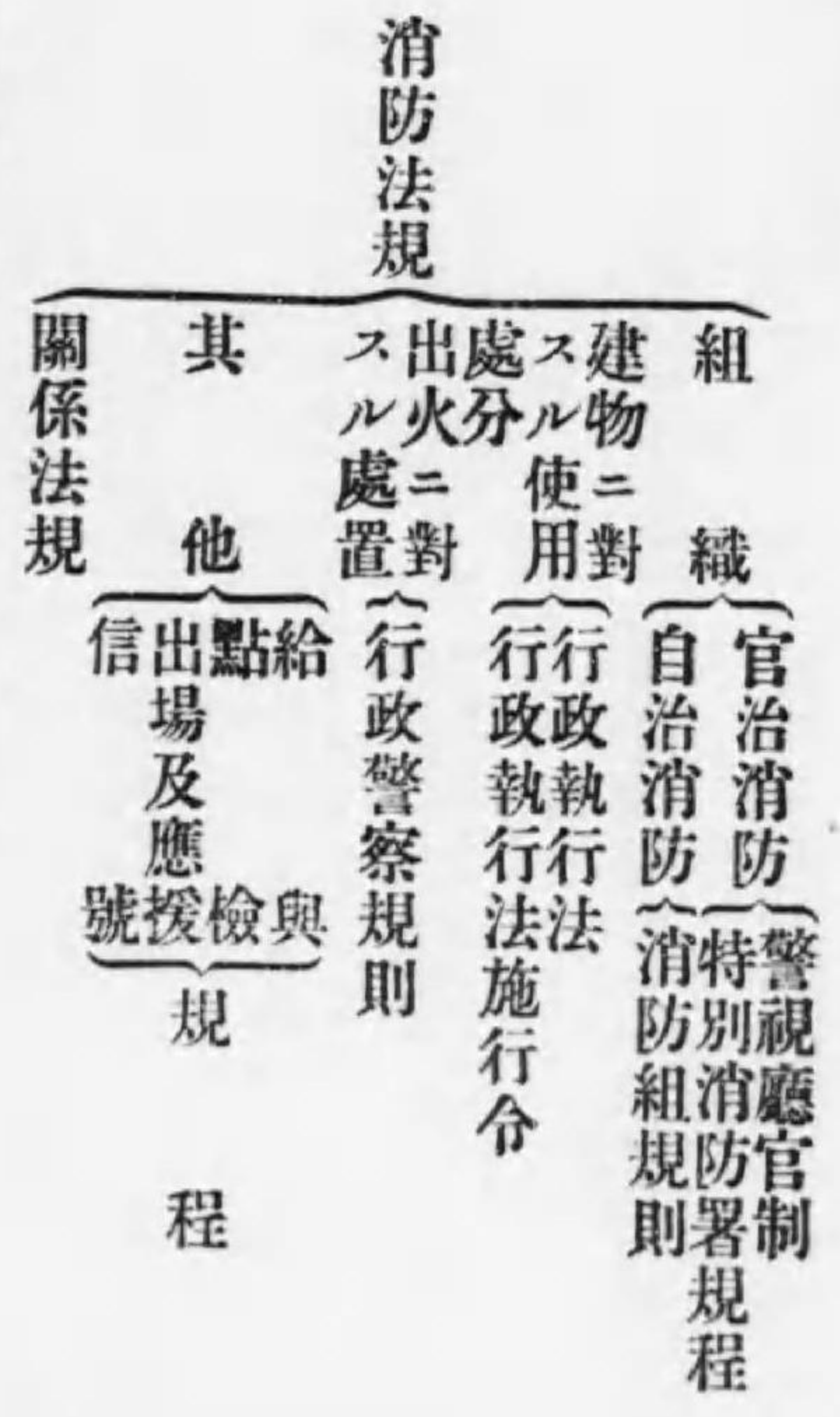
雜及ヒ竊盜ヲ防クコトニ注意スルヲ要ス

又出火ノ際ハ第一ニ人命ヲ救ヒ出シ、次ニ書類、財寶等ヲ出スコトヲ要シ、官廳其他公署ニアリテハ文書ヲ第一ニ取出スヘキモノトス(行政警察規則第二十五條、第二十六條參照)

第四節 其他ノ規定

其ノ外消防ニ關スル法令トシテハ省令、縣令ニ於テ給與規則又ハ點檢規則及出場應援規程並信號規程其他火災豫防上ノ制限施設ニ關スル規程アルモ茲ニハ説明ヲ省略ス

參考圖解



〔參考問題〕

- 一 火災時ニ於テ建物其他ヲ使用シ又ハ破毀スル法令ノ根據ヲ説明セヨ
- 二 官治消防ハ如何ナル法令ノ根據ニ依ルカ

第二編 常時ニ於ケル消防

第一章 消防組員ノ資格

消防組ノ組織ニ就テハ其ノ大要ヲ前編總論ニ於テ既ニ述ヘタリ、茲ニハ消防組員ノ資格即チ組員採用ニ付キ重要ナル條件ヲ説明セントス

一 區域内ノ居住者タルコト 官吏カ其職務ニ在ルトキハ勤務地ヲ猥リニ離ルルコト能ハサルカ如ク、消防組員モ亦其消防組設置區域内ニ居住スルモノナルコトヲ要ス之レ其職務ヲ充タス場合ニ於テ差支ヲ生セサラシメンカ爲メナリ、依テ消防組員タルモノハ其ノ設置區域内ニ居住スルモノヨリ採用スヘキモノトス

二 相當ノ年齢ニ達シタル男子タルコト 年齢ノ區別ハ各地方ノ狀況ニ依リ一定シ難シト雖モ滿十八歳以上五十歳以下ノ男子ヲ以テ組織スルヲ適當ナリトス、此ノ年齢

ニ對シテハ外國ニ於テモ一定セサルコトハ既ニ前編ニ述ヘタルカ如シ、而シテ男子ヲ採用スルハ女子ヨリ其活動及勤務ノ性質上適當ナルカ故ナリ、女子及少年ヲシテ消防ニ従事セシムルハ僅カニ消防組ノ後援隊トシテ其組織ヲ見タルニ過キス、而シテ女子ノ採用ハ未タ我國ニ於テ見サル所ナリ

三 失權者又ハ公費救助者タラサルコト 公權剝奪若ハ停止中ノ者、又ハ禁治產者、準禁治產者及公費ヲ以テ救助中ノ者ノ如キハ消防組員ニ採用セサルヲ至當ナリトス、之レ消防組ハ自治的公共機關タルカ故ナリ

四 身體強壯者タルコト 國ノ警備ニ強壯ナル軍隊ノ必要ナルカ如ク、常時ノ町村警備ニモ亦強壯ナル消防組員ノ必要ナルハ言ヲ俟タス、蓋シ組員ニシテ身體脆弱ナレハ其ノ職務ヲ遂行シ難ケレハナリ

五 其他 刑ノ執行猶豫者又ハ出獄後相當ノ日時ヲ經過セサルモノ及徵戒處分ニ依リ消防手ヲ免セラレ其後改悛ノ狀ナキ者或ハ平素粗暴過激酒癖アル者等ヲ採用スヘカラサルモノトス

以上列記シタル資格ヲ有スルモノヨリ組員ノ採用ヲナスヘキモノニシテ、此點ヨリ見

ルトキハ舊來採用シ來リシ所謂「爲人足」ナルモノハ近代思想ニ基ク義勇消防組ノ進歩發達ヲ著シク阻害シタルモノナリ、時勢ハ變遷推移シテ總テノ方面ハ改善ヲ企圖セラレサルヘカラス、故ニ常ニ組員ヲ指揮スヘキ組頭以下ノ役員タルモノハ常識ニ富ミ機智ヲ有シ尙膽力アリ品性高潔操行善良ナル人物ニシテ且恒産アル等ノ條件ヲ具備スルヲ以テ適當ナリトス、而シテ組員ハ青年團又ハ在郷軍人團等ノ團體ヨリ採用スルコトアリ、然レトモ如此キ場合ハ獨リ青年團ノミヨリ採用シ若クハ在郷軍人團ノミヨリ採用スルハ其一方ニ偏スル虞アリテ、青年團員タルヤ消防組員タルヤノ疑ヲ抱クカ如キ場合アリ、況ンヤ在郷軍人ハ一朝國家有事ノ場合一時ニ多數ノ組員ヲ戰線ニ送ルコトアリテ全ク消防組ノ空虛ヲ生スル虞ナシトセス、故ニ消防組員ノ採用ハ青年團、在郷軍人團、實業團又ハ商工團其他各種團體ノ中ヨリ適宜之ヲ爲スヘクシテ、要ハ其地方ノ中堅人物ヲ以テ消防組員タラシムルヲ適切ナル方法ナリトス

參考圖解

消防組員ノ資格

設置區域内居住者
 相當ノ年齢ニ達シタル男子
 失權又ハ公費救助ヲ受ケサル
 身體強壯者
 粗暴過激及酒癖ナキ者
 其他
 品性高潔ナル者
 操行善良ナル者
 恒産徳望アル者
 役員トシテハ以上ノ外

〔參考問題〕

- 一 消防組員採用上重要ナル條件ヲ列記セヨ
- 二 組頭以下役員タルヘキモノノ必要條件ヲ述ヘヨ

第二章 消防組員ノ任務

消防組員ノ任務ニ就テハ前編ニ其大要ヲ説明シタリ、本章ニ於テハ組員ノ常時ニ於ケル任務及非常時ニ於ケル任務ニ分チ之ヲ述ヘントス

第一節 常時ニ於ケル任務

一 水利調査 消防用水利ニ付テハ常ニ組員ヲシテ其ノ設置區域内ニ於ケル水利ノ所在ヲ熟知セシメ、一朝有事ニ方リ其應用ヲ遺憾ナカラシムルニ在リトス、而シテ之

レカ調査ノ周到ヲ期セントセハ消防組役員以上ヲ以テ之ヲ行ハシムルヲ適當トス、亦其町村ノ水利以外ニ隣接町村ニシテ應援區域内ノ水利等ニ對シテモ之ヲ調査シ應援消防上互ニ連絡ヲ計リ常時ニ於テ水利ノ熟知ニ努ムヘキモノナリ

二 道路調査 出火出動ノ際ハ必スヤ消防用機械器具ノ運搬ヲナササルヘカラス、此際ニ方リ途上道路及橋梁ノ破損等アリ爲メニ迂回シテ時間ヲ要スル場合ナシトセス故ニ平時ニ於テ役員ヲシテ常ニ間斷ナク調査セシメ少クトモ之ヲ器械、器具、藏置場前ニ揭示シ其組ニ周知セシメ以テ現場到着上遺憾ナカラシムルニ努ムヘキナリ

三 消防用機械其他ノ手入 組員ハ常持ニアリテハ消火器及唧筒(瓦斯倫、蒸氣、噴川)ノ修繕其他器具ノ手入等ヲ行ヒ有事ノ場合、突嗟ノ間ニ處シ使用上遺憾ナラシムルニ努ムヘキナリ

四 火災豫防 火災豫防ノ方法ハ竈及煙筒ノ検査、夜警及豫防宣傳等ナリトス、竈及煙筒ノ検査ニ在リテハ月一回若ハ冬期間ニ於テ一定ノ期間ヲ定メ之レヲ勵行スヘキナリ、豫防宣傳ニ在リテハ各種ノホスターヲ作り之ニ依リテ宣傳ヲ行フカ又ハ自轉車、自動車、飛行機、商品廣告利用ノ宣傳ビラノ散布若ハ配布或ハ活動寫眞ニ依ル

宣傳等ニシテ其他ハ揭示板、俚謠募集、新聞紙ノ掲載、講演等ニ依ル宣傳ナリトス
五 其他 消防組ハ年中行事ノ計畫ヲ立テ、或ハ後援隊即チ婦人、少年、青年消防隊又ハ義勇警察隊等ト常ニ連絡ヲ採リ其目的ヲ達スヘキコトニ努ムヘキナリ、又實務演習及消防講習等ニ依リ消防上ノ改善發達ヲ期スヘキコトニ努メ、且消防組ニ關スル書類簿冊等ニ在リテハ精密ニ之カ加除訂正並ニ組ノ沿革、組員ノ移動等ノ記録整頓ニ努ムヘキモノナリ

第二節 非常時ニ於ケル任務

一 火災ノ發見 「火災ハ最初ノ五分間」ニアルヲ以テ常ニ之レカ發見ノ迅速ヲ期スヘキナリ、火災發見ノ緩急ハ如何ニ火災ノ損害ニ影響ヲ及スカハ從來ノ例ニ徴シテ明ナリ、尙火災ノ發見ト共ニ迅速出動ノ準備ヲナスヘシ

二 出動 火災ノ發見ト共ニ現場出動ハ最モ重要ナル事項トス、如何ニ迅速ニ火災發見ヲ爲スニ努ムルト雖モ其出動ニシテ遲滯セハ何等ノ効力ナキモノナリ、消防ノ要訣ハ迅速ト機敏ニアリ、即チ小火中ニ消防ニ着手スルトキハ少數ノ入員ト少數ノ機械トヲ以テ克ク防禦スルコトヲ得ヘシ、然ルニ此ノ要訣ヲ欠キ爲メニ延焼ヲ擴大ナ

ラシムルモノ多キハ最モ遺憾トスル處ナリ

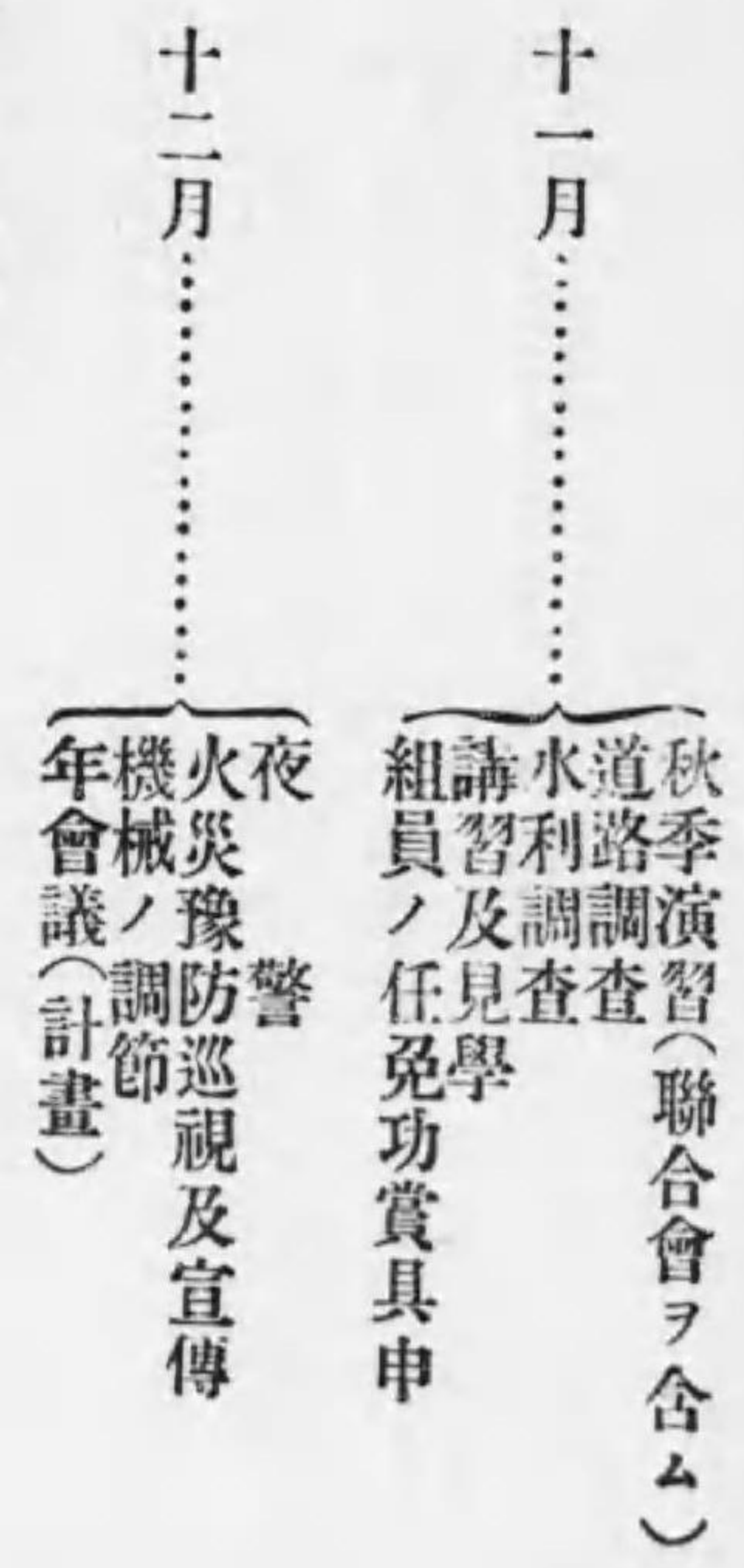
三 火災防禦 現場到着ノ上ハ火災防禦ニ方リ機敏、臨機ノ行動ヲ採リ各組員ノ動作ハ秩序整然タルモノナルヲ要ス、豫メ燃燒物體即チ家屋其他ノ構造及市街ノ形狀等ニ依リ必要ナル消防機械ト人員ヲ定メ、又ハ用水消防ニ依ルヘキカ、窒息消防ニ依ルヘキカ、或ハ破壊消防ニ依ルヘキカヲ考量シ適切ナル防禦方法ヲ講スヘキナリ、其他水利ノ關係、強風ニ依ル延焼ノ迅速或ハ無風ノ場合ニ於ケル防禦法等ニ就テモ亦相當ノ考量ヲ爲シ以テ其ノ目的ヲ達スヘキナリ

以上説明シタル火災ノ發見、出動及防禦ハ共ニ非常時ニ於ケル消防上重要ナル事項ニシテ、其一ヲ缺如スルトキハ消防ノ生命ヲ失フニ至ルヘケレハ常ニ三者同一ノ行動ヲ採ルヘキモノナリ、其他現場ニ於ケル火災場ノ取締ニ付テハ迅速ニ非常線ニ依ル警戒ヲ行ヒ、消防ノ行動又ハ罹災民ノ避難ヲ容易ナラシムルト共ニ盜難警戒ニ努メ、一面罹災民救護等ニ對シテハ最モ丁寧親切ナルコトヲ要ス、尙火災ノ鎮滅ヲ爲シタルトキハ出火ノ原因又ハ消防上防禦ノ方法其宜シキヲ得タルヤノ研究ヲ怠ルヘカラス

參考

消防組ノ年中行事

- 一月……………〔出初式(聯合會ヲ含ム) 夜 警〕
- 二月……………〔夜 警〕
- 三月……………〔年度豫算編成 夜 警 講習及見學 家族慰安會〕
- 四月……………〔春季演習 道路調査 水利調査〕
- 五月……………〔消火器藥品詰替〕
- 六月……………〔各機械ノ手入〕
- 七月……………〔ホースノ手入及土用干〕
- 八月……………〔水防警備〕
- 九月……………〔水防警備〕
- 十月……………〔消火器藥品詰替〕



參考圖解



[參考問題]

第三章 消防用機械器具

第一節 消火器

消火器ハ火災ノ當初ニ於テ其ノ鎮滅ヲ計リ機敏ニ之ヲ利用スルトキハ、大事ニ至ラシメスシテ克ク消火ノ目的ヲ達スルコトヲ得ヘキ最モ輕便ニシテ且必要ナル消防用器具トス、而シテ消火器ヲ大別セハ粉末消火器、液體消火器ノ二トス

一 粉末消火器 金屬製ノ筒内ニ裝置セル粉末(砂、重曹、鹽、其他ノ物ヲ混合セル粉末)ヲ投散スルニ依テ火災ヲ鎮消セシムルモノナリ、本器ハ平面若ハ側面等ノ比較的的低個所ノ火災ニ對シテハ有効ナルモ、反之、天井、屋根裏、床下等ノ火災ニ對シテ應用不便ナルヲ以テ一般的消火ノ効尠シ

二 液體消火器 液體消火器ハ水液ヲ放出セシムル作用ナルヲ以テ、如何ナル個所ノ

第二編 常時ニ於ケル消防 第三章 消防機械器具

火災ニ對シテモ自由自在ニ放水シ得ラル便アリテ頗ルル有効ナリトス、本器ニハ罐内ニ裝置セル壘(強硫酸ヲ入レタルモノ)ヲ破壊シテ使用スル破壊式ト罐體ヲ廻轉シ逆ニ爲シテ使用スル廻轉式トアリ

三 液體消火藥品及其有効期間

藥品配合ノ分量	淡水	強硫酸	重曹
	三升入 五升入 六升入	三十勿 五十勿 六十勿	五十勿 六十勿 九十勿

破壊式ニ用ユル強硫酸ニシテ壘中ニ密閉シタルモノハ其効力永久トス、然ラサルモノハ六ヶ月乃至一ケ年ヲ以テ有効期間トスヘシ、重碳酸曹達水ハ六ヶ月乃至一ケ年ヲ以テ有効期間トス

四 藥品検査法 罐中ノ藥品効力ノ有無ヲ検査スルニハ、放水試験ニ依ラス罐内ノ重碳酸曹達水ヲ茶碗等適宜ノ器物ニ取り、之ニ壘中ノ強硫酸ヲ滴下スルトキハ、藥品ニシテ効力アルモノハ直ニ炭酸瓦斯ヲ發生スルモ、其ノ効力ナキモノハ何等ノ作用ヲモナササルモノトス、之レ簡便ナル試験法ナリ

其他輕便消火器ナルモノアリテ藥品ヲ應用セサル即チ唧子ヲ上下シテ放水ヲナスモノアリ、此ノ種類ニモ水槽ヲ備付ケタル貯水式ノモノト又使用ノ際供水方法ヲ採リ行フモノトアリ、之等ハ多ク少年、婦人消防隊ニ於テ使用シツツアルモノナリ尙自家用トシテ防火液及消火バケツ等ノ種類アルモ茲ニハ之ヲ省略ス

第二節 腕用唧筒

腕用唧筒ニハ「甲號」佛蘭西形及「乙號」獨逸形ノ二種アリ、左ニ其ノ検査方法ヲ簡單ニ述ヘン

- 一 無氣及壓力検査方法 無氣検査ハ吸口ニ真空計(バキュームゲイジ)ヲ使用シテ約五分間唧筒ヲ運轉シ「ゲイジ」ニ廿五吋以上ヲ示スモノヲ可良トス、壓力ハ放口ニ水壓計ヲ付ケ約一分間唧筒ヲ運轉シ「ゲイジ」二百二十封度以上ヲ示スモノヲ可良トス、但シ構造ノ如何ニ依リ右以下ノ度数ヲ示スモ強チ故障アリト云フニアラス
- 二 手掌ニ依ル検査方法 手掌ニ依ル検査ハ唧筒ニ對シ手掌ヲ以テ氣力及排出力ノ良否ヲ甄別スルノ方法ナリ、而シテ無氣力ニアリテハ吸口ニ付キ之ヲ行ヒ、排氣力ニアリテハ吐口ニ付キ之ヲ行フモノトス、其方法ハ無氣引力ノ検査ハ先ツ手掌ヲ正シ

ク吸口ニ充テ之ヲ密閉シ數回ノ衝動ヲ行ヒ、其ノ衝動中手掌充分ニ吸口ニ吸引セラ
ルルニ於テ一方唧子ヲ上昇セシムルト同時ニ、他ノ一方ハ激シク降下シテ之ヲ試ム
ルモノトス、排氣力ノ検査ハ手掌ヲ正シク吐口ニ充テ數回ノ衝動ヲ行ハシメ然ル后
唧子ヲ一方ニ強ク降下シ其ノ状態ヲ試ムルモノトス

三 放水ニ依ル検査方法 放水検査ニ於テバチ〜發音スルトキハ空氣ノ侵入スルモ
ノナレハ吸管及其接合部ニ注意ヲ要ス

四 分解検査方法 分解検査ハ其主要部分ヲ分解シ故障ヲ發見スルモノトス、左ニ分
解及ヒ組立ノ順序ヲ記サン

(一) 分解ノ順序方法

- 一 圓筒上部ノ圓環ヲ取り外ツス
- 二 搖桿ノ軸栓ヲ抜キ取ル
- 三 搖桿ニ唧子附着ノ儘之ヲ抜キ取ル
- 四 搖桿ト唧子トヲ分離ス
- 五 搖桿支鐵ヲ止メアル母螺ヲ外ツシ支鐵ヲ取り外ツス

六 搖桿臺盤四隅ノ母螺ヲ外ツシ臺盤ヲ取り外ツス

七 吸口及放口ヲ外ツシテ吸口曲管並ニ放口曲管ヲ取り外ツス、吸口曲管ニ無氣
室ノ附着セルモノ又ハ放口曲管ニ分水嘴子ノ附着セルモノナルトキハ其ノ附着
セル儘取出シ後之ヲ分離スヘシ

八 機械全體ヲ水槽内ヨリ取出タス

九 二個ノ圓筒ヲ取り外ツス

十 空氣室ヲ取り外ツス

十一 吸吐兩弁ヲ取り外ツス

注意

唧筒ノ解剖ハ前記検査法ニ依リ其内部ニ故障アルヲ發見シタル場合ノ外濫リニ分
解ヲナスヘカラス、尤モ永年手入ヲ爲ササル爲メ要部ノ各所ニ酸化腐蝕等ヲ生シ
故障ヲ起スノ虞アルトキハ此限ニ非ラス

一定ノ故障ヲ目的トシテ分解スルトキハ濫リニ之ヲ細カク分解セス、其關連シタ
ルモノハ出來得ル限り附着セル儘取り外ツスコトヲ要ス

母螺、螺旋其他相密着スルモノヲ取り外ツストキハ、最初之ニ符號ヲ付クルカ、若ハ置場ヲ定メ其混亂セサル様注意ヲ要ス

(二) 組立ノ順序方法

一 無氣室ヲ取付ケタル吸口曲管ト分水嘴子ヲ取付ケタル放口曲管トヲ水槽内ニ藏ム

二 吸吐兩弁ヲ取付ケ、次キニ空氣室及二個ノ圓筒ヲ取付ケタル后之ヲ水槽内ニ藏ム

三 吸口曲管及放口曲管ヲ各其位置ニ取付ク

四 搖桿臺盤ヲ水槽上部ニ載セ搖桿支鐵ヲ取付ク

五 唧子ヲ付ケタル搖桿ヲ取付ク

六 圓筒ノ圓鑲ヲ締ム

七 最後ニ吸口曲管及放口曲管ノ座金ヲ締ム

注意

座金ノ締方ハ一方ニ偏セス、又吸放兩曲管ノ取付ハ間隙ナク、尙座金ノ下ニ合革

ヲ入ルルコトヲ忘ルヘカラス

空氣室、圓筒其他ノ取付部ニ於ケル母螺ヲ締付クルニハ一方ニノミ偏セス平均ニ締付クルコトヲ要ス

各要部ノ接續部ニ用ユル衛帶ニハ白「ペンキ」ノ如キモノヲ塗布シタル後取り付クルヲ良シトス、母螺及螺旋、座金ノ如キモノハ前ニ用ヒシモノト間違ハサルコトニ注意スヘシ

第三節 蒸氣唧筒

一 機關運轉ニ要スル注意 機關運轉ヲナサントスルトキハ實驗上ニ於テハ罐内蒸氣壓力四十磅以上、實地演習等ノ場合ノ如キ急速使用ノ必要ナキトキハ其壓力六十磅以上ヨリ徐々ニ運轉ヲ始ムヘシ、而シテ運轉前油箱ニハ必ス注油シ、立管ニ毛糸ヲ挿入シ、摩擦部ニハ直接注油シ置キ、各嘴子弁ハ支障ナキ限り先ツ開閉シテ之ヲ試ミ放水口ヲ開クヘシ、運轉並ニ放水準備全ク終ラハ塞汽弁(ストツブヅワルブ)ヲ徐々ニ開キテ機關ヲ發動セシム、運轉中ハ汽壓、罐水、摩擦部其他機關ノ音響等ニ注意スヘキモノトス

二 機關運轉終了後ノ處置 機關運轉終了セハ直ニ油箱内ノ毛糸ヲ立管ヨリ抜キ取り
 氣管及滑弁筐(トライインユツク)ヲ開放シ、吸水管ヲ取り外シ少シク塞汽弁(ストツ
 プザワルプ)ヲ開キテ機關ヲ空運轉セシメ唧筒ノ殘留水ヲ放出シ終テ之ヲ停止スヘ
 シ、各弁嘴子ヲ舊ニ復シ機關各部ノ異狀ノ有無ヲ檢ス、汽罐ハ直ニ炭火ヲ搔キ出シ
 蒸氣ノ昇騰セサル様罐水等ヲ補給シテ消火セシメ更ニ掃除ヲナシ且ツ點火用意ヲナ
 シ置クモノトス

三 石炭ノ品質見分 石炭ノ良否ヲ簡單ニ見分クルニハ、漆黒ニシテ光澤アルモノハ
 炭素多ク、灰色ノモノハ硫黃及灰多シ、軟質ノモノハ硬質ノモノヨリ善良ナリ、重
 量少ナキモノハ其重キモノヨリ善良ナリトス

四 汽罐汽機ノ保存法 汽罐ノ保存ニハ乾燥法ト滿水法ノ二種アリ、消防用機關ハ其
 ノ性質上突作ノ用ニ備フルカ爲メ滿水法ヲ以テ便トス、而シテ汽機ノ保存ハ内部ト
 外部トニ區別スルコトヲ得、内部ニ屬スルモノハ氣管内摩擦部ニシテ外部ニ屬スル
 モノハ其他ノ部分ナリ、内部ニハ好良ナル鑛油ヲ塗布シ外部ニハ白「ペンキ」ヲ「グ
 リース」ニ混シテ溶解シタルモノヲ塗布シ置クモノトス

第四節 瓦斯倫唧筒

一 瓦斯倫唧筒運轉法ノ大要 唧筒ノ運轉ヲ開始セントスルトキハ、油箱(ガスリン
 タンク)ノ下部ニアル「コツク」ヲ開キ揮發油氣化器(カーボレーター)内ニ揮發油ヲ
 導クコト

揮發油氣化器ノ下部ニアル針並ニ混合氣ノ入ル節制機ノ把手ヲ加減スルコト
 起動ヲ迅速ナラシムルタメ「シリンダー」ノ側面ニアル「スタートコツク」ヲ開キ置ク
 コト

發動機ニ動力ヲ起サシムルタメ「スターテングハンドル」ニカヲ入レテ右ニ廻轉スヘ
 シ起動セハ直ニ「スタートコツク」ヲ閉スコト

既ニ起動セハ「クラツチ」ヲ以テ唧筒部ト連絡シ爾後ハ揮發油氣化器ニ依テ瓦斯ノ送
 量ヲ増減シ以テ機關ノ速度ヲ加減ス

起動中ハ「メタル」摩擦面ノ部分ニ注目ヲ怠ルヘカラス

二 機關ノ運轉不能ノ原因 運轉不能ハ多ク混合氣稀薄ニ過クルトキ即ニ瓦斯倫少ナ
 キトキ、瓦斯倫内ニ水分混シ居ルトキ、又ハ瓦斯倫槽ヨリ瓦斯倫ノ供給ヲ絶タレタ

ルトキ、或ハ冬期機關ノ甚シク冷却シタルトキ及點火用開閉器カ入り居ラサルトキ等ナリ、其他點火裝置ニ故障ヲ生シ爲メニ發電セサルカ、發電スルモ途中ニ於テ電流カ他ニ漏ルル場合等トス

三、機關保存上ノ注意 瓦斯倫槽ニハ常ニ瓦斯倫ヲ充滿シ置クコト、各滑油壺ニハ滑油ヲ充滿セシメ置クコト、點火裝置ノ電線ニ弛緩ナキヤ否ヤヲ時々検査スルコト、冬期ハ冷水槽及氣笛ノ冷水套内ノ水ヲ排除シ置クコト、長時間運轉シタル時ハ終了後氣笛ノ點火栓ヲ抜キ取り齒磨揚子ニ揮發油ヲ含マセテ其ノ兩極ヲ掃除スヘシ

第五節 水管車

水管車ニハ消火栓ニ直チニ連結シ放水ヲナスコトヲ得ヘキモノト、唧筒ニ連絡ノ上放水スヘキモノノ二種ニ分ツコトヲ得、而シテ水管車使用ハ水管ヲ伸ハスニ機敏ナルト水管上ヨリ生スル損害トヲ豫防スルニハ本車ヲ使用スルヲ利益トス、殊ニ本機ノ水管ハ多數延長セラルル場合ハ勿論、伸長短縮ニ迅速ナルノミナラスシテ摩擦上ノ被害ヲ減少スルコト尠少ナラス、而シテ水管車ニハ人輓用水管車、自動用水管車等アリ又自動車唧筒ニ車輅ヲ備付ケタルモノアリ

消防用機械トシテハ前述ノ外消火機自動車及機械梯子、運水車等アルモ茲ニ省略ス

第六節 其他ノ器具

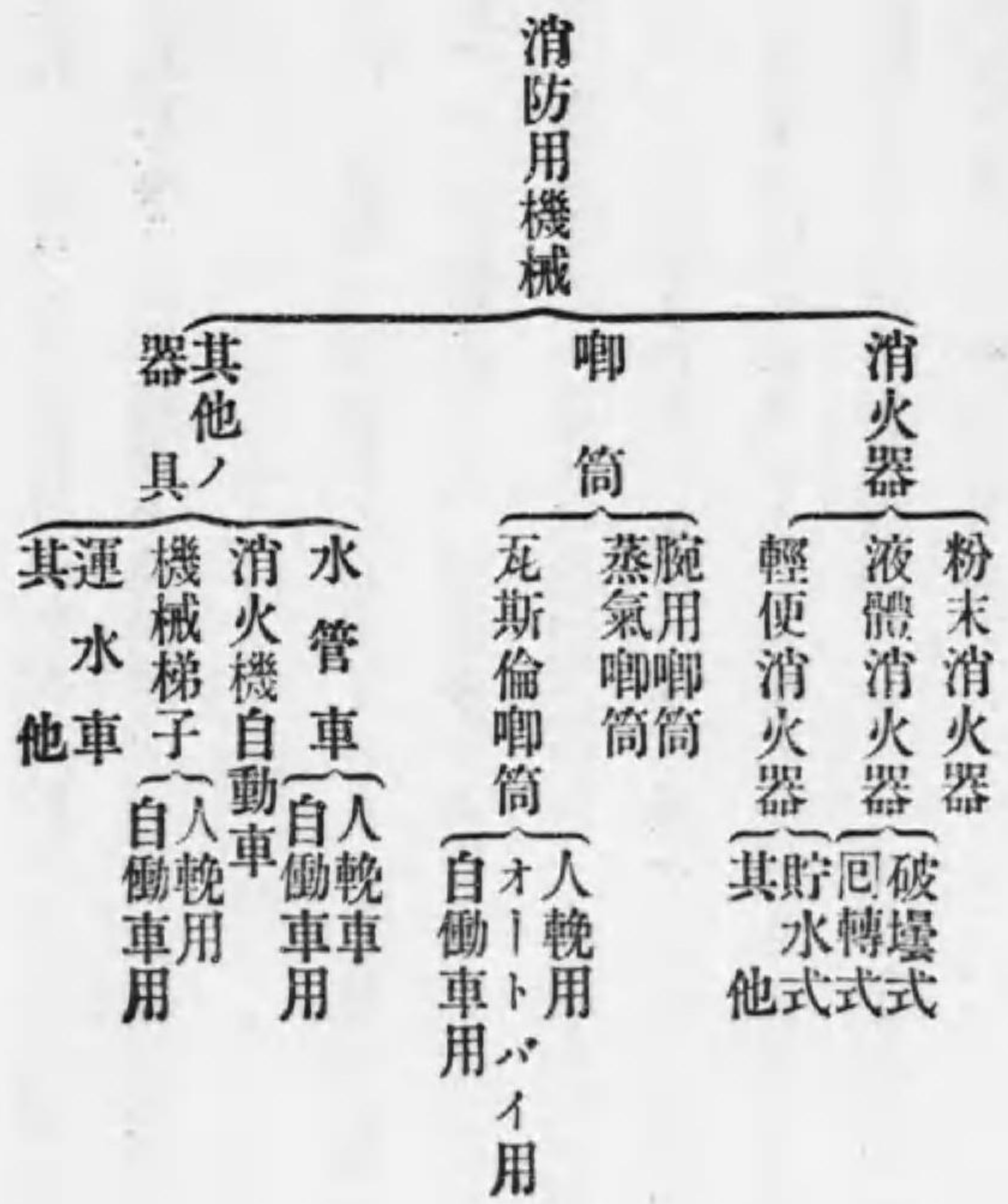
一 吸管 吸管ハ護謨製管ノ外部ヲ綿糸其他ヲ以テ包裝シタルモノニシテ、其ノ容積嵩ミ且重量ニシテ取扱上稍困難ナルモ、唧筒吸水上空氣ノ注入ヲ防キ最モ有効ナルモノトス

二 水管 水管ハ麻糸製ノ布ホースニシテ護謨水管ニ比スレハ唧筒ノ水壓力ヲ比較的減スルノ缺點アルモ、容積少ナク輕量ニシテ取扱上容易ナルモノトス而シテ布ホースノ品質ヲ検査スルニハ糸ノ品質良否、織ニ斑ナキヤヲ取調フヘキモノトス、水壓ニ對スル成績ハ外國製ハ百五十封度、内國製ハ普通百二三十封度トス次ニ使用及保存法トシテハ水管車ヲ用ヒ（地上引擦リ廻サヌ様）放水後ノ取扱ハ甚タ困難ナルヲ以テ、此際ハナルヘク折目ヲ壓迫セス乾燥後ニ整頓スヘシ（整頓スヘキ場合ハ其ノ都度折目ヲ變更シ置クコト）

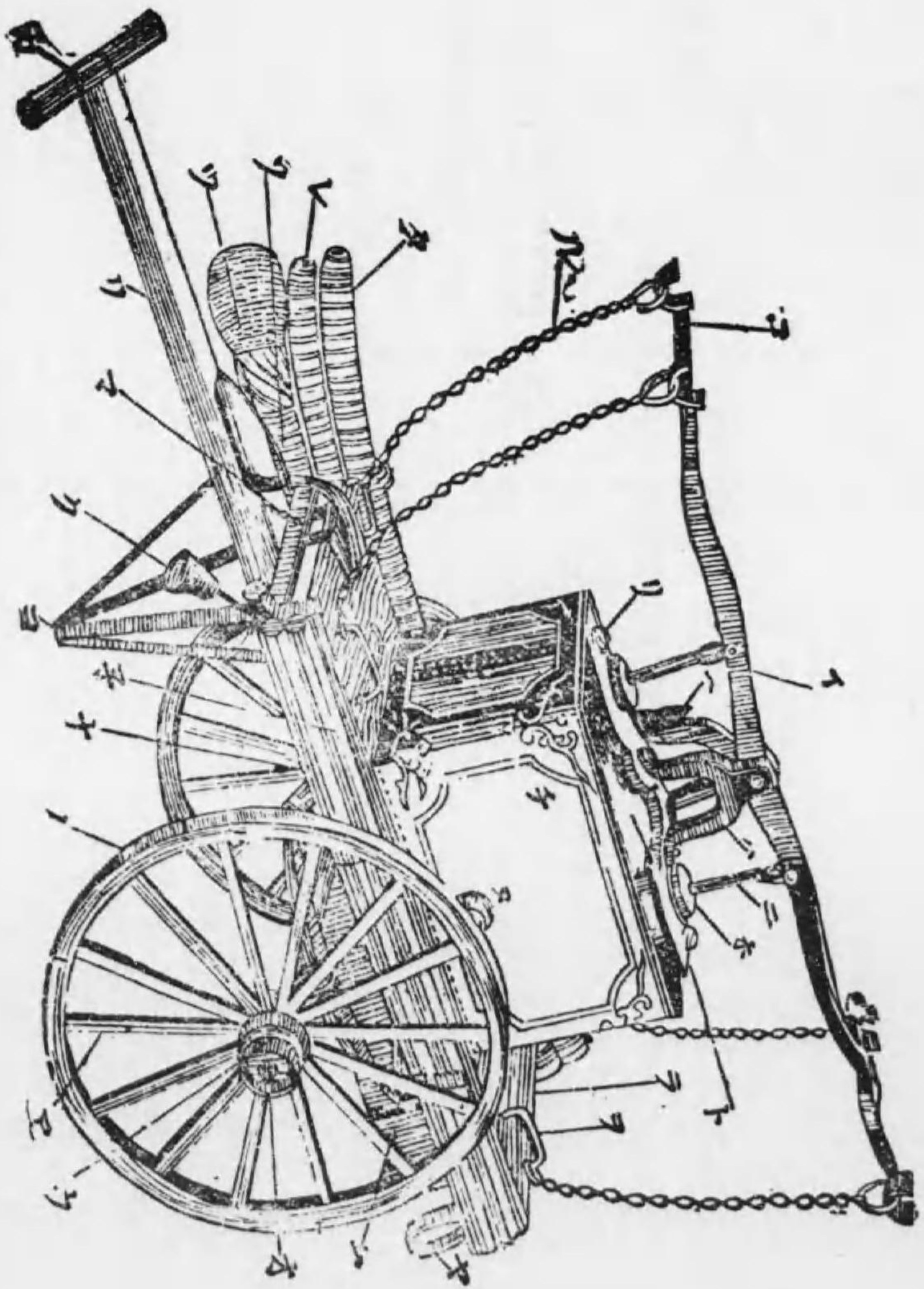
尙布ホース修繕ノ場合ハ其ノ破損ノ部分ヲ左ノ材料及用具ニテ修整スヘシ

（一）材料 銅鋸、座金、革皮

(二)用具 喰切、目打、座金押(マルヘシ)、鐵槌、當金、鑽、革切庖刀、釘(ヘシ)
 參考圖解



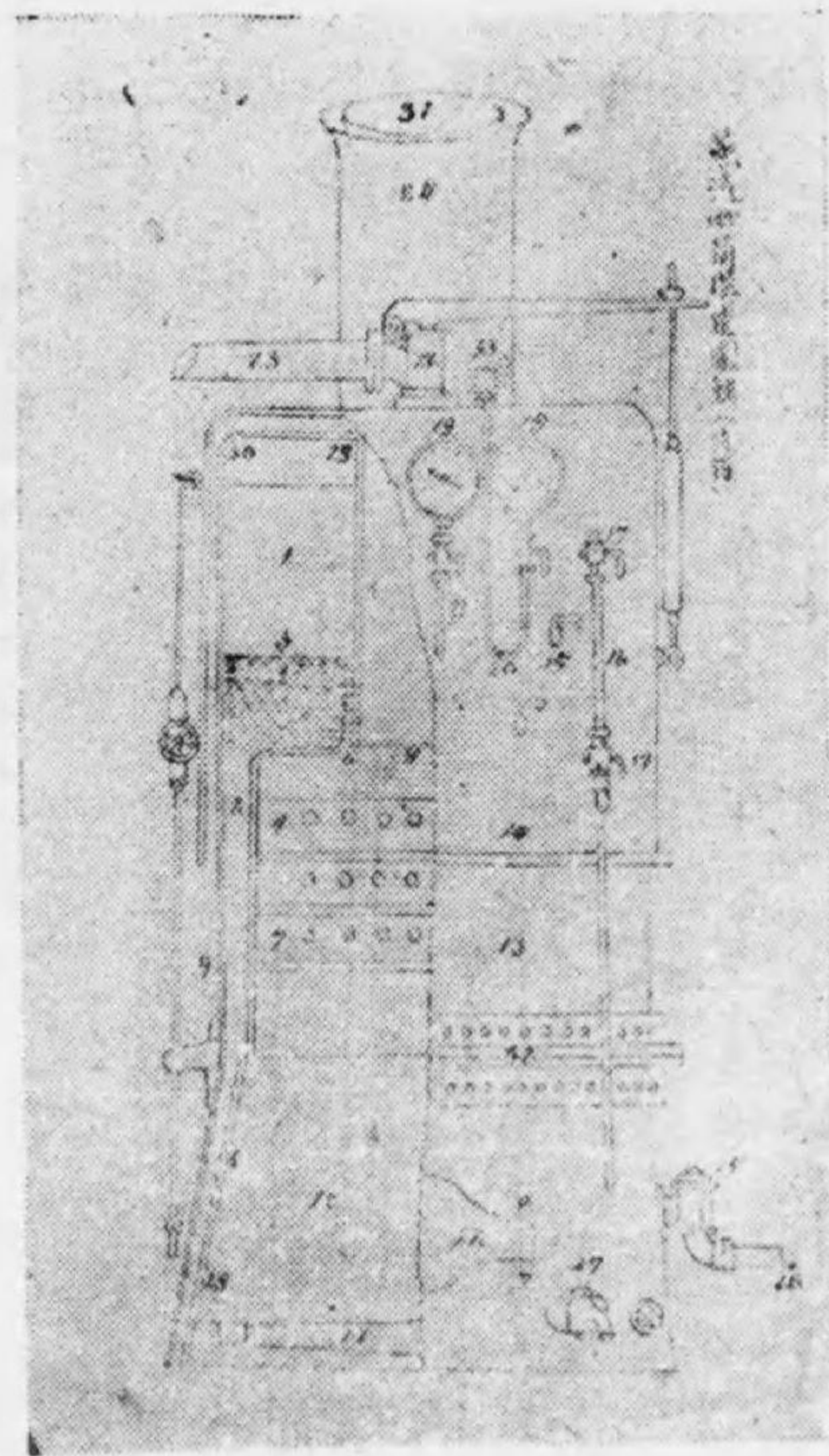
腕用唧筒構造圖解



第二編 當時ニ於ケル消防 第三章 消防機械器具

フアイヤー蒸汽唧筒構造圖解

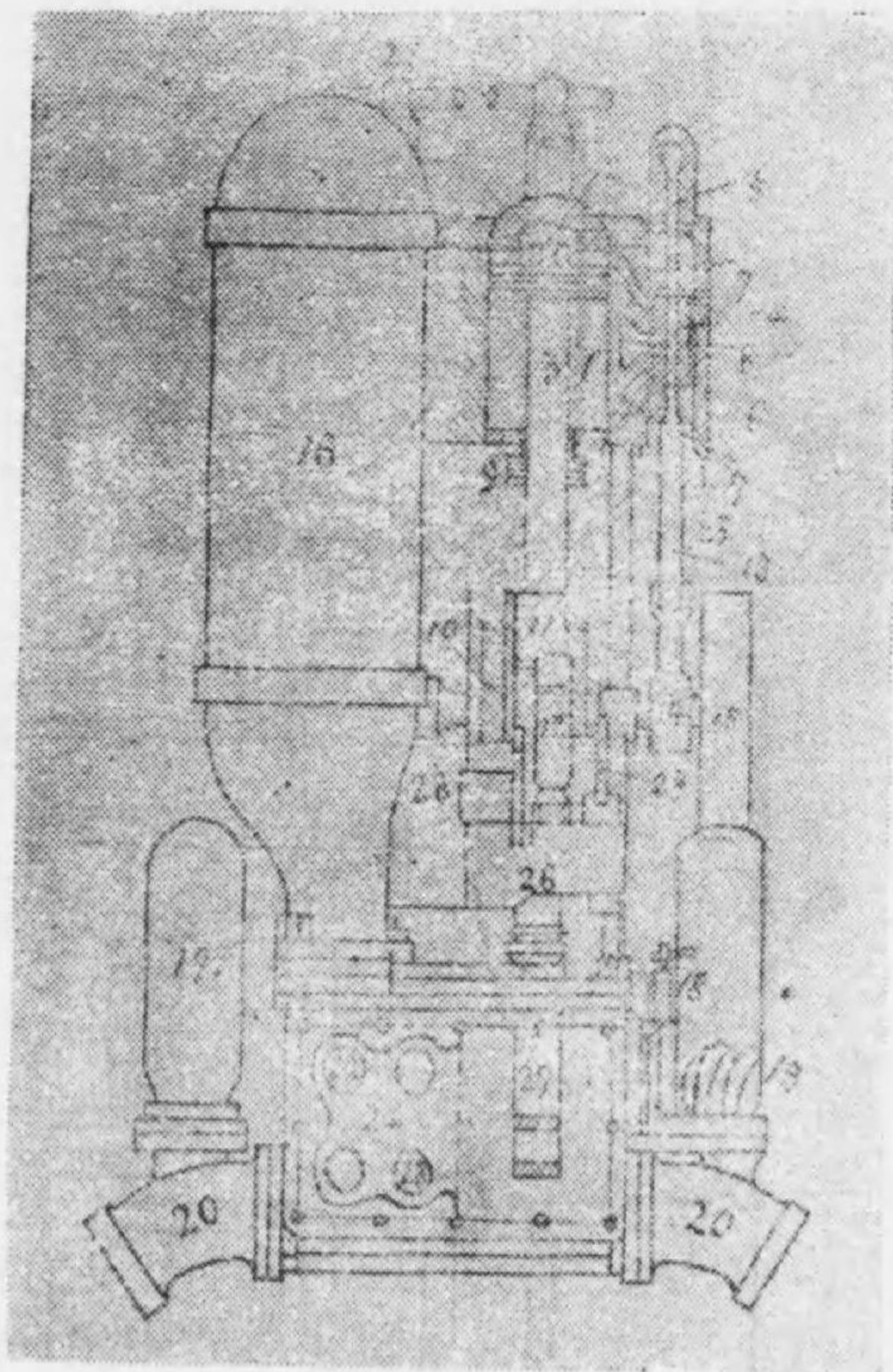
直立水管式汽罐 其ノ一



汽罐ノ名稱

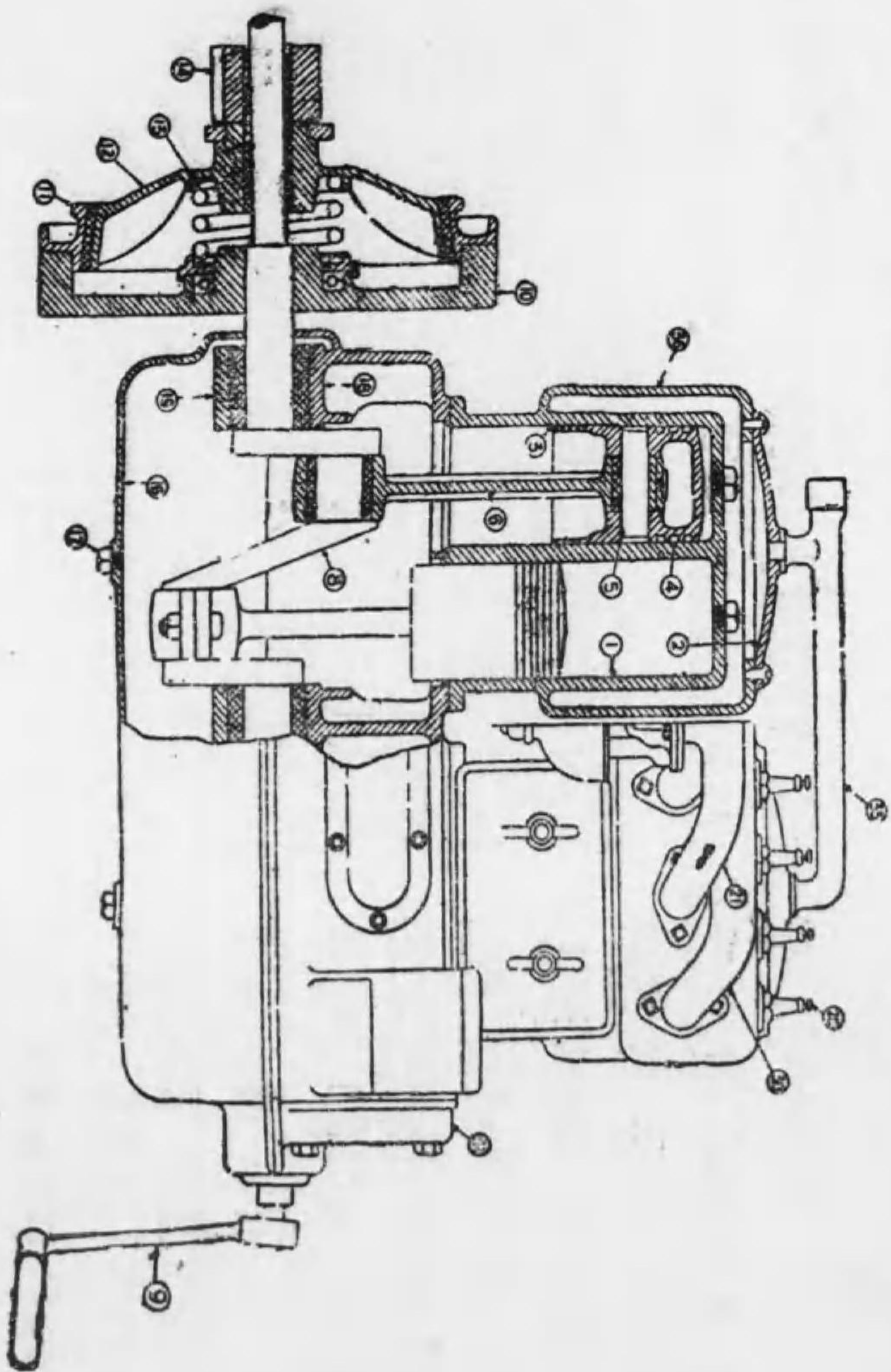
- | | | |
|-----------|-----------|-----------|
| (1) 汽室 | (2) 水室 | (3) 水 |
| (4) 燃焼室 | (5) 燒 | (6) 燒局頂板 |
| (7) 細管 | (8) 煙箱 | (9) 煙箱 |
| (10) 煙箱 | (11) 火架 | (12) 燒局戸 |
| (13) 煙箱 | (14) 煙箱 | (15) 煙箱 |
| (16) 驗水嘴子 | (17) 驗水嘴子 | (18) 驗水嘴子 |
| (19) 水壓計 | (20) 水壓計 | (21) 水壓計 |
| (22) 安全弁 | (23) 安全弁 | (24) 安全弁 |
| (25) 給水管 | (26) 給水管 | (27) 給水管 |
| (28) 給水管 | (29) 給水管 | (30) 給水管 |
| (31) 給水管 | (32) 給水管 | (33) 給水管 |

其ノ二



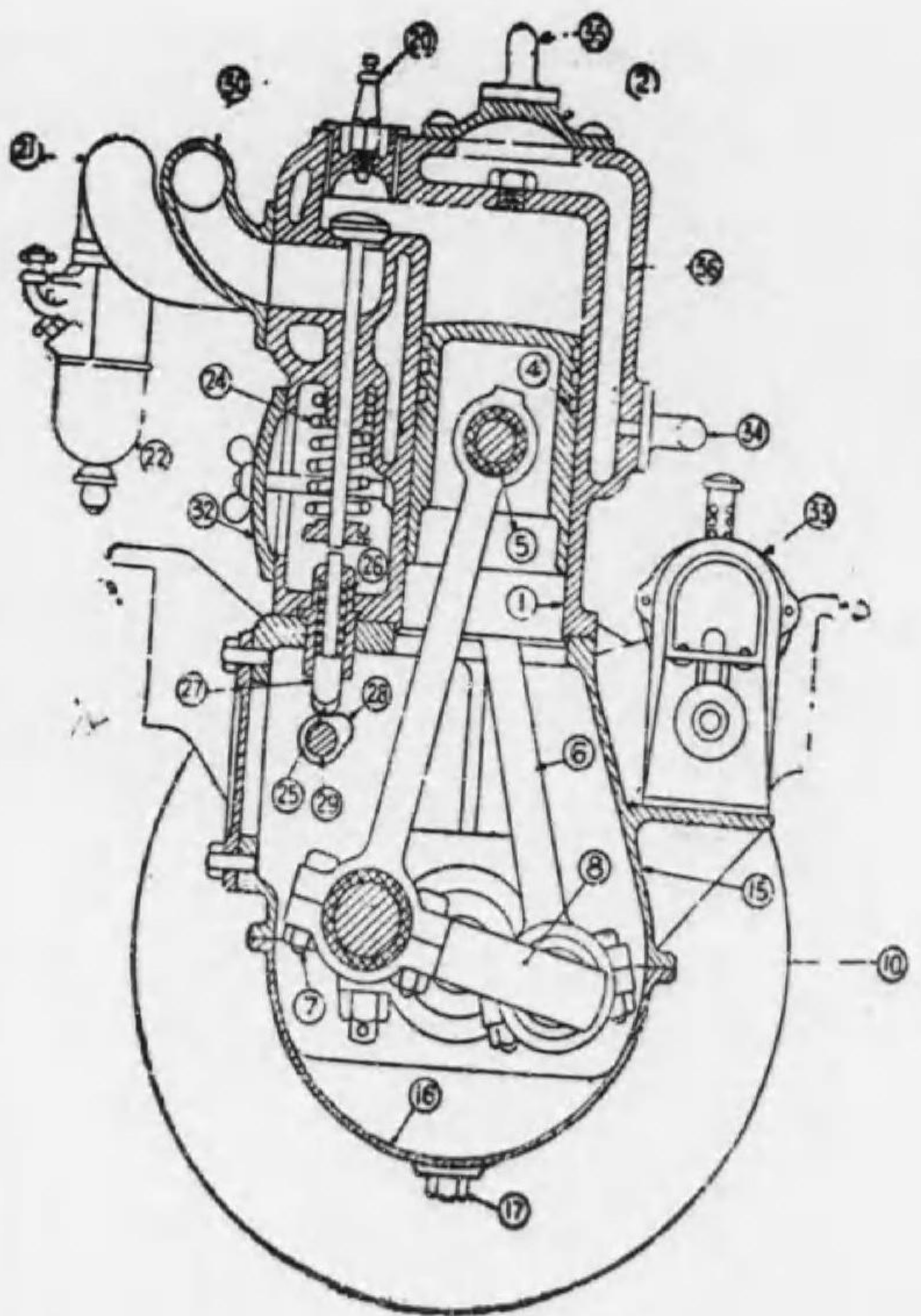
汽機及唧筒ノ名稱

- | | | |
|--------|--------|--------|
| (1) 汽筒 | (2) 吸鑊 | (3) 吸鑊 |
| (4) 滑弁 | (5) 滑弁 | (6) 滑 |
| (7) 汽孔 | (8) 廢 | (9) 廢 |
| (10) 廢 | (11) 廢 | (12) 廢 |
| (13) 廢 | (14) 廢 | (15) 廢 |
| (16) 廢 | (17) 廢 | (18) 廢 |
| (19) 廢 | (20) 廢 | (21) 廢 |
| (22) 廢 | (23) 廢 | (24) 廢 |
| (25) 廢 | (26) 廢 | (27) 廢 |
| (28) 廢 | (29) 廢 | (30) 廢 |



其ノニ

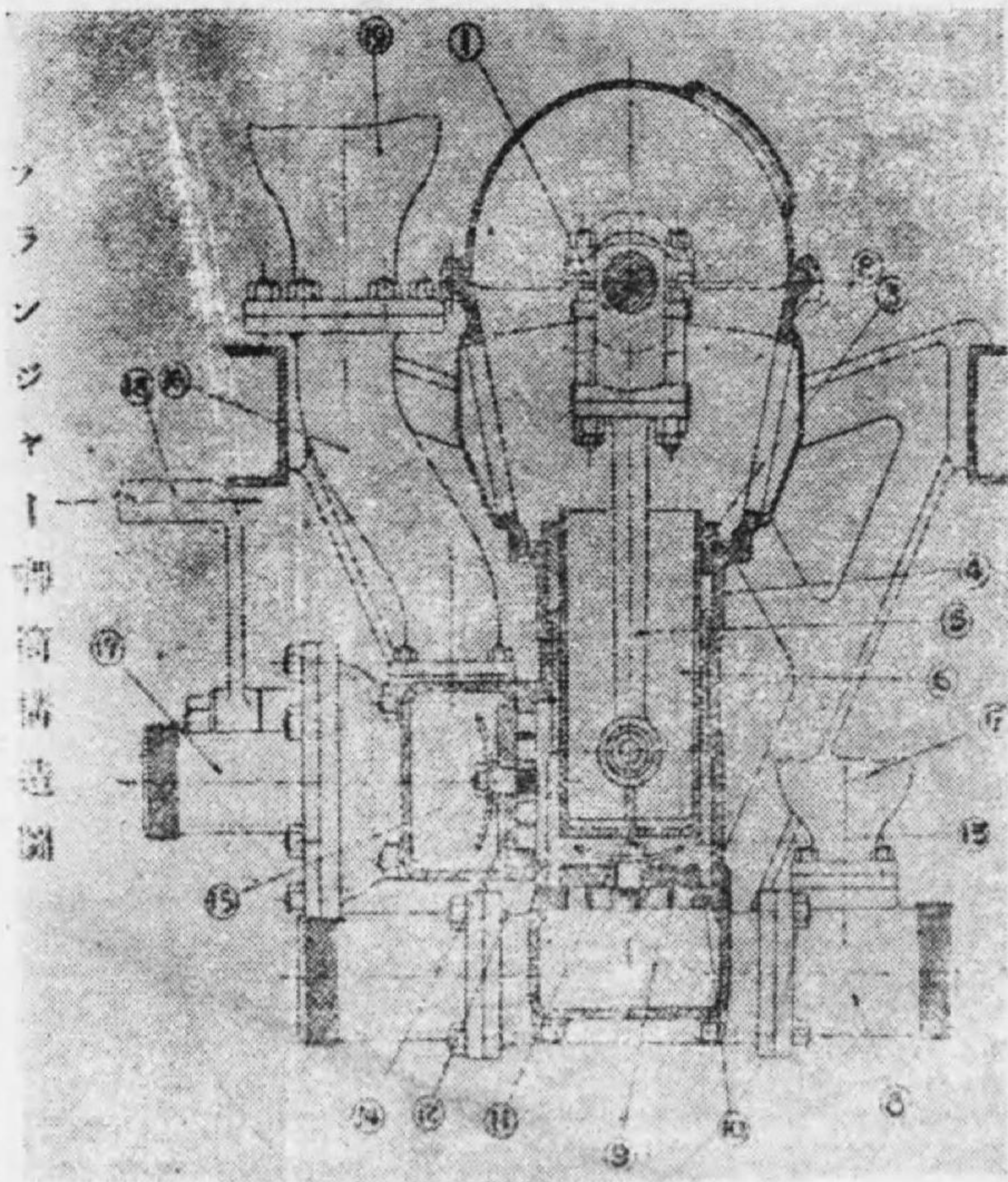
- 揮發油氣化器 23 吸入瓣、排氣瓣 24 瓣撥條 25 カムロール 26 カム撥條 27 カム棒
- 28 偏心板 29 偏心軸 30 排氣管 31 齒車函 32 撥條蓋 33 高壓發電器 34 冷却水入口
- 35 冷却水出口 36 冷却水套 37 滑油注入口



- 1 氣筒 2 氣筒蓋 3 唧子
- 4 唧子環 5 唧子串
- 6 連接桿 7 曲柄軸 8 曲柄軸
- 9 始動柄 10 ハヅミ車 11 クラッチ帶金
- 12 クラッチ車 13 クラッチ撥條 14 傳導齒車 15 曲柄管
- 16 油槽 17 排油栓 18 軸承 19 上部軸受
- 20 發火栓 21 吸氣管 22

プランジ唧筒

之レハ唧子ノ往復作用ニヨリテ吸水及排水ヲ行フモノニシテ蒸氣唧筒（瓦斯倫ニモア



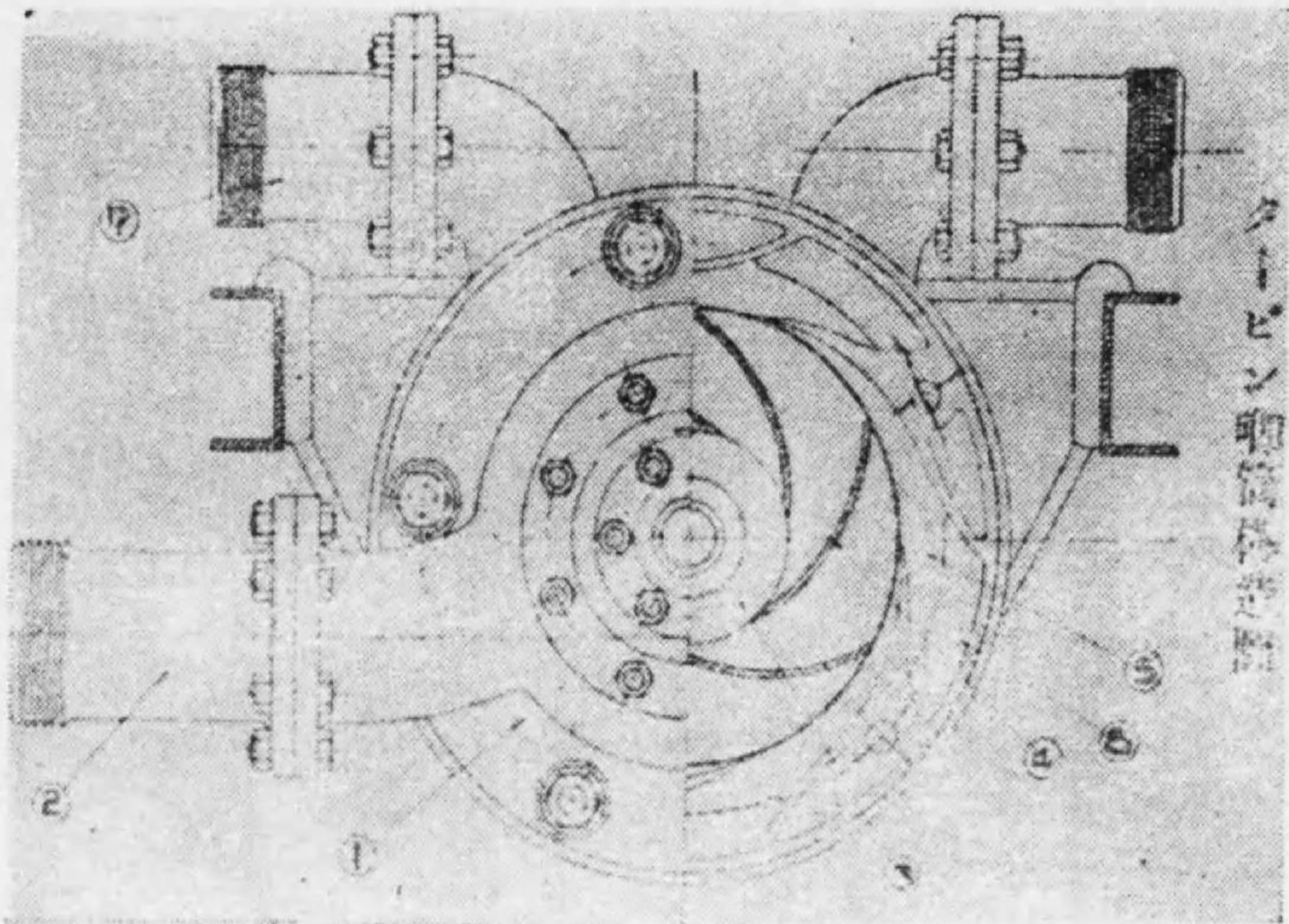
プランジ唧筒構造圖

- 1 曲柄軸
- 2 曲柄管
- 3 充填環
- 4 充填管
- 5 束接桿
- 6 活塞
- 7 吸入側空氣室
- 8 吸入口
- 9 吸入瓣管
- 10 吸入瓣座
- 11 吸入瓣
- 12 吐出瓣座
- 13 水筒
- 14 吐出瓣
- 15 吐出瓣管
- 16 曲管
- 17 吐出口
- 18 分水器把手

タービン唧筒

之ハ廻轉運動ニ依リ生スル水ノ遠心力ヲ利用シ吸水及排水ヲ行フモノナリ多ク瓦斯倫

唧筒（自動車唧筒）ニ此ノ式ヲ用ユ

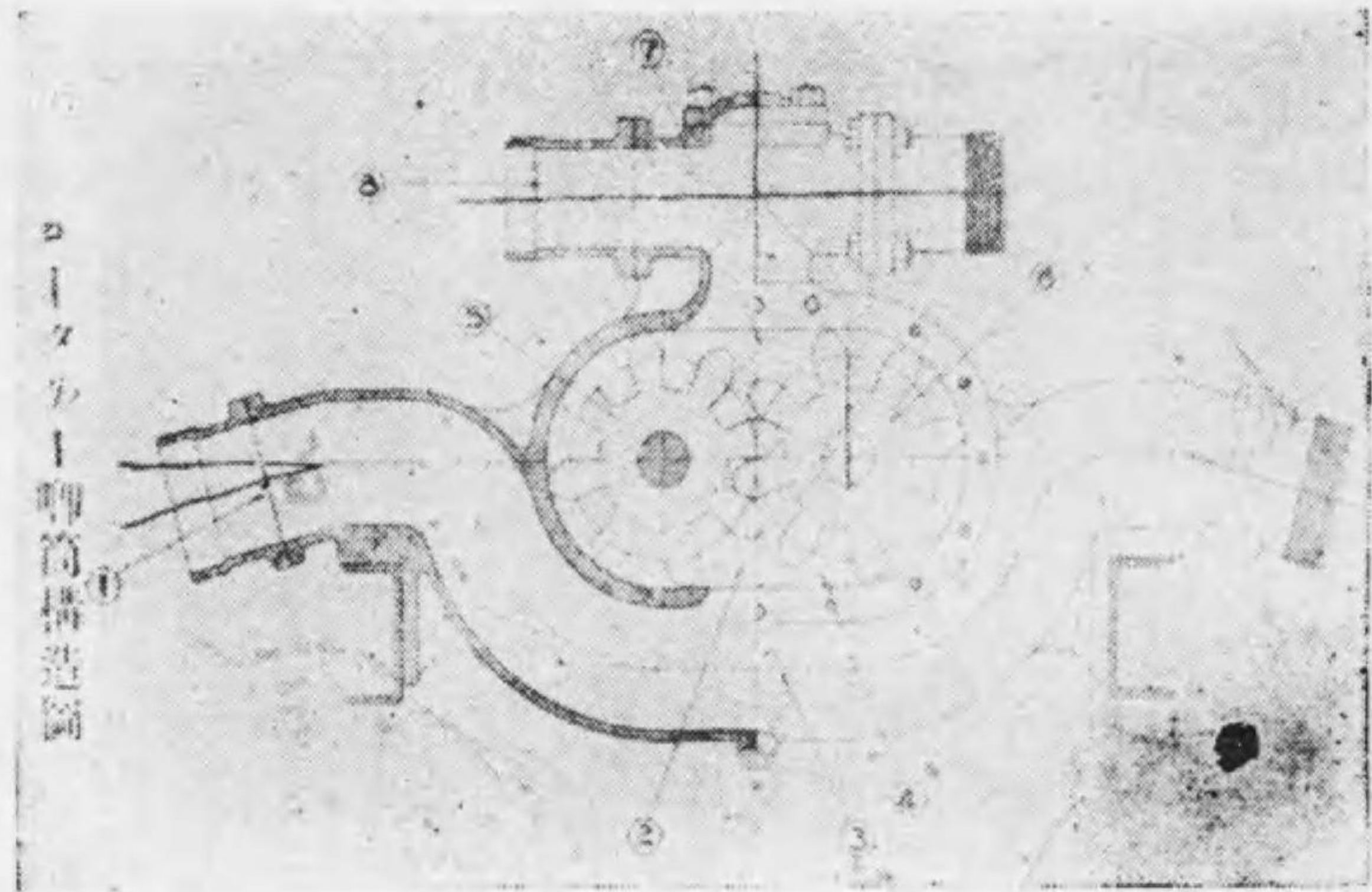


タービン唧筒構造圖

- 1 唧筒體
- 2 吸入口
- 3 翼車入口
- 4 翼車
- 5 導翼
- 6 導翼出口
- 7 吐出口

ロータリー唧筒

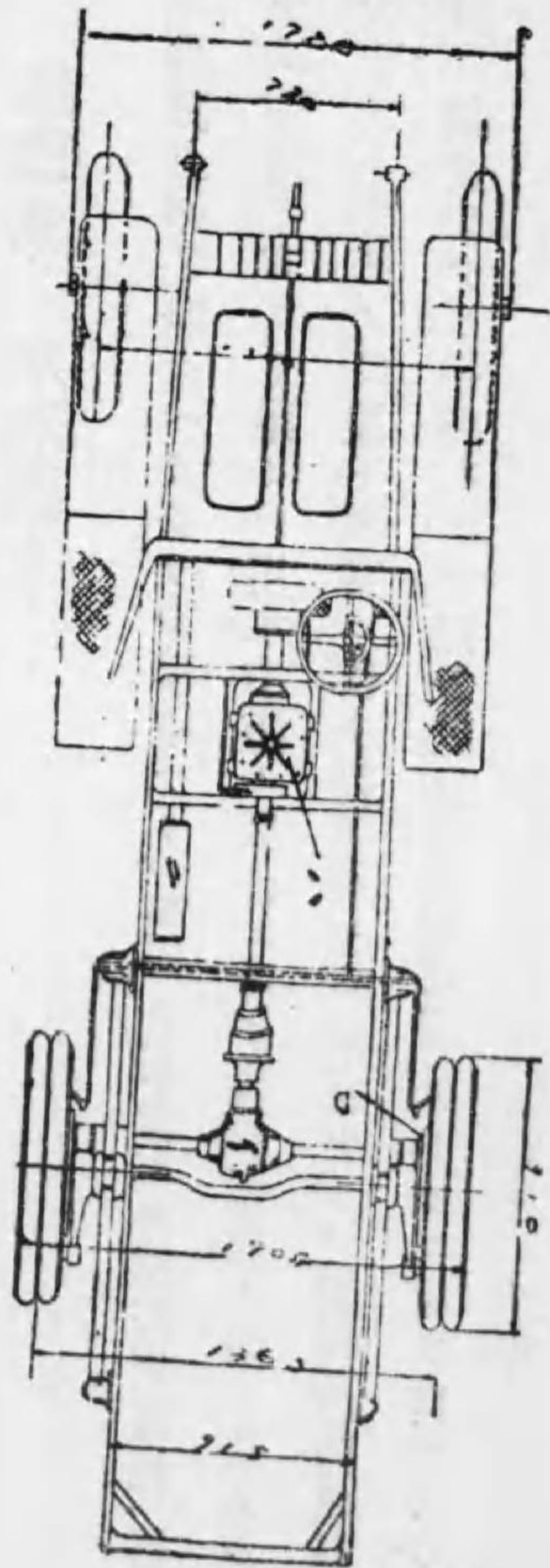
之レハ二個ノ廻轉軸ニ同形又ハ異形ノ廻轉體ヲ作り之レヲ金屬製ノ筐中ニ於テ廻轉セシメ吸水及排水作用ヲ行フモノナリ（米國製ノーザン式）



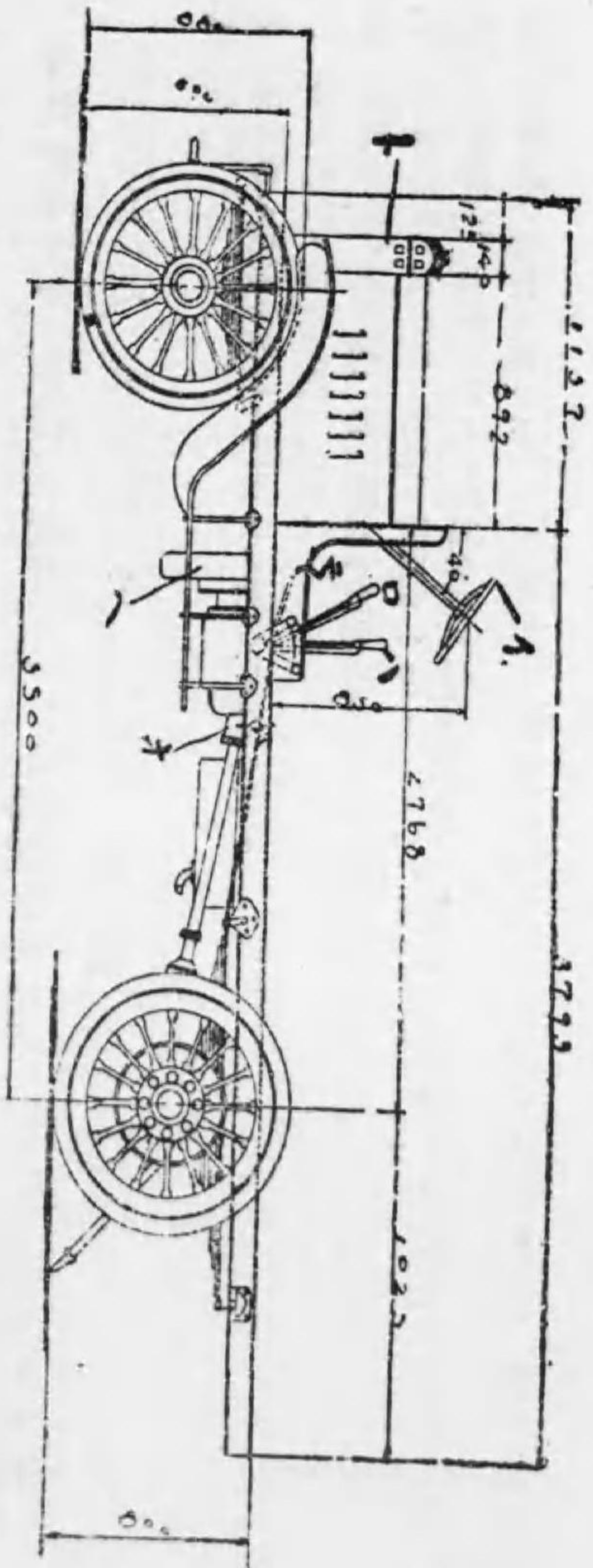
- | | | | | | | | |
|-----|-----|---|----|-----|-----|-----|-----|
| 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 吐出口 | 吐出側 | 同 | 齒車 | 唧筒體 | 吸入道 | 吸入側 | 吸入口 |

ポンプの構造圖

ニハロイ
差動機
變速機
消音器
合



自動車ノ構造圖解



其二

- イ 操舵把手
- ロ 變速機把手
- ハ 手働制動機把手
- ニ 足踏制動機踏子
- ホ 自在接手
- ヘ クラッチ
- ト 放熱器

〔參考問題〕

- 一 消火器ノ種類ヲ列舉シ應用上ノ利害得失ヲ述ヘヨ
- 二 腕用唧筒ノ検査方法ヲ列記セヨ
- 三 蒸汽唧筒ノ運轉終了後ノ處置ハ如何ニスヘキヤ
- 四 汽罐汽機ノ保存法ヲ簡單ニ説明スヘシ
- 五 瓦斯倫唧筒機關保存上ノ注意事項ヲ列記セヨ
- 六 水管車ノ特徴ヲ述ヘヨ

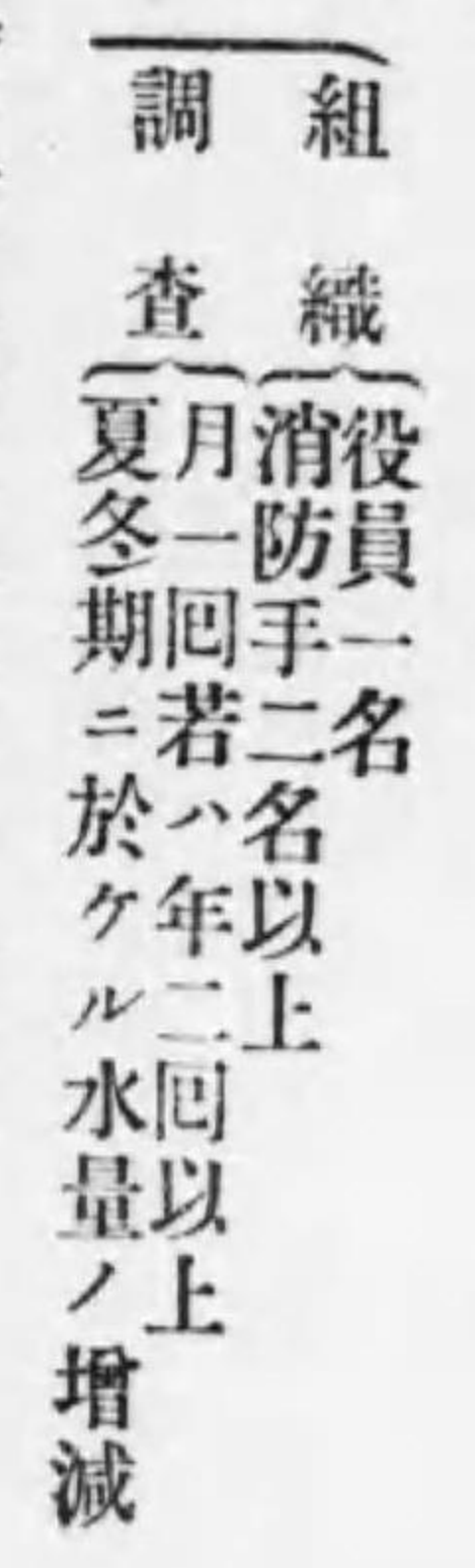
第四章 水利調査

水利ノ調査ハ消防上必要缺クヘカラサル事項ナリ、如何ニ完全ナル消防用機械、器具ヲ備ヘ且精銳ナル消防手有リト雖モ、用水消防ノ場合ニ於テ若シ水利ノ便ヲ缺カンカ、其損害ノ多大ナルハ從來ノ經驗ト事實ニ依リ證明セラルル所ナリ、故ニ消防組員ハ常時ニ於テ水利ノ調査ヲナシ一朝有事ニ際シ其活動上遺憾ナカラシムルヲ期スヘシ而シテ之カ調査ノ方法ハ少クトモ二名以上ノ組員ヲ以テ組織シ之ニ一名ノ役員ヲ附シ

警防區域内ノ水利ノ調査ヲナサシメ月一回以上巡回視察シ、夏期及冬期ニ於ケル水量ノ増減等ニ注意セシムヘキナリ、而シテ其狀況ハ其都度日誌上ニ記載シ組頭ノ檢閲ヲ受ケシム、ク、尙組頭ハ隣町村消防組ニ對シテモ常ニ水利ニ關スル連絡ヲ採リ、以テ應援ノ場合水利上遺憾ナカラシムルニ努ムヘキナリ、其他積極的事業トシテハ多少經費ヲ要スル問題ナルモ、水利ノ不便ナル地方ニアリテハ貯水池ヲ設置シ又ハ消火器等ノ設備ヲ完全ニ行ヒ、或ハ水利圖又ハ貯水池消火器ノ設備箇所ヲ一定ノ場所ニ揭示シ一般ニ周知セシムル等、適切ナル方法ヲ講スヘキモノトス

次ニ水利調査ト共ニ消防組ハ平素其ノ出場區域内ニ於ケル各種建物ノ視察ヲ爲シ、建設物及構造上特殊ノモノニアリテハ豫メ内外ニ於ケル諸般ノ狀況等ヲ知悉シ置キ、以テ有事ニ際シ其ノ活動上遺憾ナカラシムルヲ期スヘシ

參考圖解



水利調査種別

天然水利
人工水利
連絡
隣接消防組
又ハ後援隊
簿冊ノ整理記事登載ノコト

注意

- 一 水利調査ニ際シ一面唧筒運轉上支障ナキ地點ヲ調査スルコト
- 一 (水利便ナルモ唧筒据置上不便ノ地面アラハ豫メ地均シヲナシ置クヲ可トス)
- 一 水利調査ノ場合ハ水深ノ程度、流水、停水等モ調査スルコト
- 一 (流水ノ場合ハ水源ニ限ナク停水ノ場合ハ水量ニ限リアルコト)
- 一 河川沼湖ニアリテハ水草及塵芥ノ有無ヲ調査スルコト
- 一 (ロータリーポンプ)(ギアポンプ又ハ旋廻唧筒)使用ノ場合ハ損傷又ハ自然摩滅ヲ生スルノ虞アリ)
- 一 貯水池ニアリテハ貯水ノ石數(水量)及唧筒ノ種類ニ依リテ使用シ得ラルル時間ヲ調査シ置クコト
- 一 (石數、使用時間等ハ表札ヲ以テ明示シ置クコト)

一 消防用水利トシテ使用上便宜ノ井戸其他カ建物内ニアルトキハ此ノ旨屋外見易キ場所ニ表示スルコト

一 貯水地ニアリテハ年一回以上水替ヲナスコト

(蟲類ノ繁殖シタルトキハ石油類ヲ投入シ又ハ水替ヲナスコト)

一 總テ水利ニハ「消防用水利」ト赤色面ニ白字ヲ以テ其場所ニ表示スルヲ可トス

〔参考問題〕

- 一 水利調査上組員ノ編成ハ如何ニスヘキカ
- 二 水利調査ハ如何ナル時期ニ行フヘキカ

第五章 道路調査

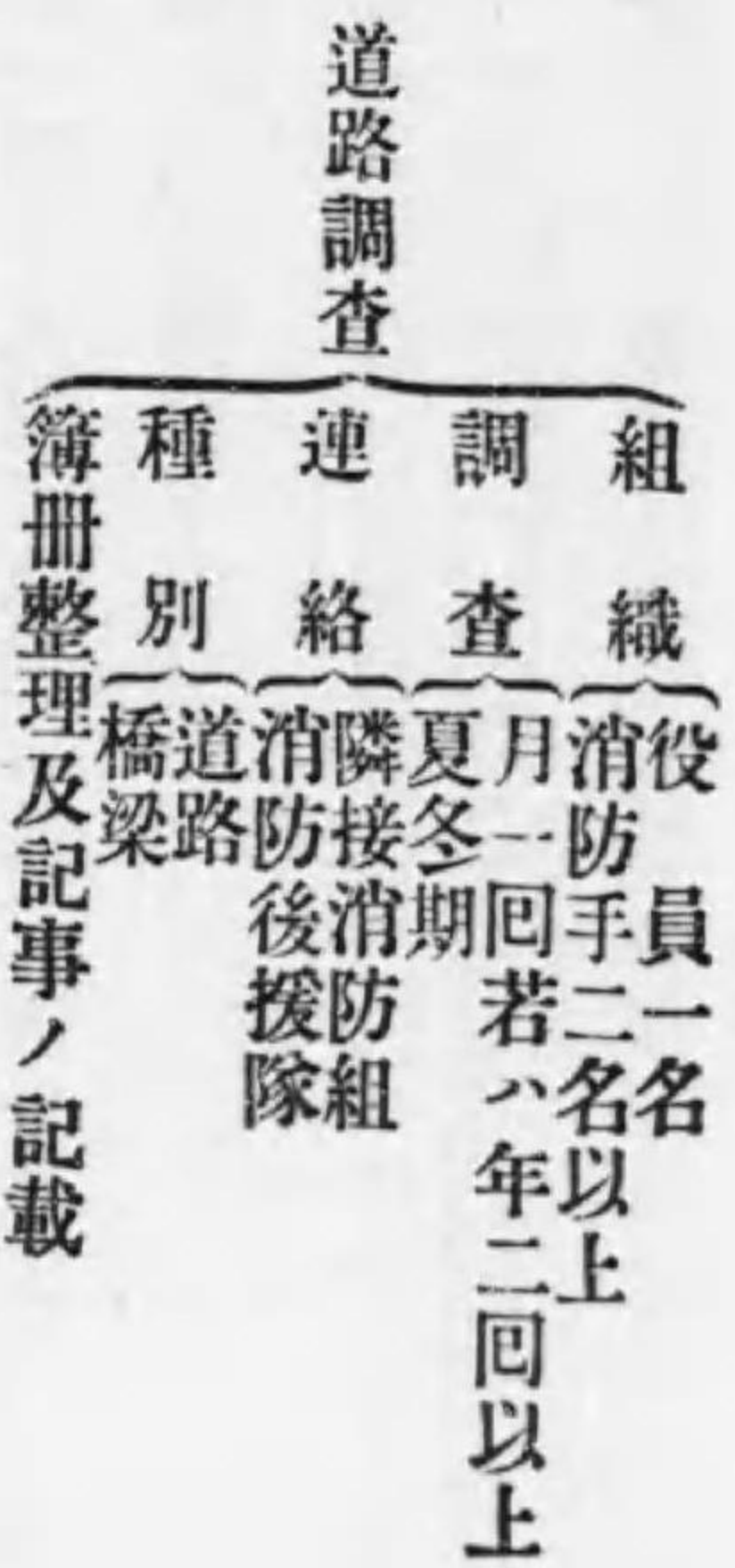
消防上道路調査ハ水利ト共ニ必要ナル事項ナリ、一度出火ノ警報ニ接スルトキハ迅速ニ其ノ現場ヘ馳驅セサルヘカラス、若シ道路及ヒ橋梁ノ破損又ハ修繕ノ爲メ一時交通杜絶シ若ハ漸ク人畜ノ歩行ニ止マル場合アリ、或ハ道路上ニ長大物件ノ積置等アリテ出動途上ニ於ケル障害ノ爲メ道路ノ迂回ヲナス等迅速現場ヘ到着スルニ適當ノ時間又ハ勞力ヲ要スル如キコトアルハ消防出動上最モ不利ナル問題ナリ之レ豫メ道路調査ノ

必要ナル所以ナリ

而シテ道路ノ調査方法ハ二名以上ノ組員ヲ以テ編成シ（自轉車ヲ用ユルヲ可トス）之ニ役員ヲ附シ月一回以上若ハ火災期節ニ於テハ二回以上其警戒區域内ノ道路ノ調査ヲ行ハシムルヲ可トス、而シテ其結果ハ消防用揭示板又ハ器械藏置場前ニ掲載シ且ツ日誌ニ記シテ其ノ都度組頭ノ檢閲ヲ受クヘク、組頭ハ其狀況ニ依リテハ相互ニ隣接應援區域タル市町村消防組ヘ其旨通報スヘキモノトス、之レ出火應援ノ場合相互ノ便宜ヲ計ルカ爲ナリ

其他自村警備區域内ニシテ僻地ニ散在シアル部落等消防出動ノ場合道路ノ曲折迂回ノ爲メ多數ノ時間ヲ要スル地方ニアリテハ、數年ノ繼續事業トシテ道路ノ曲折ヲ直シ其應援ニ便ナラシムヘキ通路ヲ作ランカ爲メ、山野ヲ開鑿シ又ハ橋梁ヲ設備スルカ如キ積極的勞作ヲ爲ス消防組アリ但シ如此キハ經費ト勞力ヲ要スル問題ナレハ適宜ノ處置ヲ採ルヲ可トスヘシ、而シテ道路ノ調査ハ水利調査ト併セテ行フコト一面經費ト勞力トヲ省ク經濟的方法ナリトス

參考圖解



注意

- 一 道路ノ調査ハ水利ノ調査ト共ニ行フヲ經濟的調査方法トス
- 一 調査ノ場合ハ消防組カ使用シツアル唧筒其他ノ器具ヲ現場ニ運搬スヘク支障ナキ道巾ヲ有スルカ又ハ橋梁ハ機械其他ノ重量ニ堪ユルヤ否ヤヲ調査スルコト
- （道巾ヲ有スルモ惡路、坂路等ノ程度、橋梁腐朽ノ程度ヲ調査スルコト）
- 一 人家稠密ノ場所ニシテ水利ノ關係上唧筒ヲ街路ヨリ宅地内（空地又ハ路地内）ニ進入セシメ、消火ニ努ムルコトヲ得ヘキ箇所ニハ其ノ旨見易キ場所ニ表示スルコト
- （人家ト人家トノ區間ニ唧筒ノ進入シ得ラルル處ニシテ其ノ人家ノ裏ニ水利ノ便宜シキ箇所アラハ其ノ入口ニ「唧筒進入口」ノ文字ヲ明示スルコト）

一 人家稠密ノ場所ノ道路調査ヲナストキハ路上備付又ハ屋外ニ設置シアル消火器ノ個數及効用程度ヲモ調査スルコト

〔參考問題〕

- 一 道路調査上組員ノ編成及調査ノ方法ヲ簡單ニ述ヘヨ
- 二 道路ノ調査ハ道路以外ニハ調査必要ナキヤ

第六章 火災豫防法

第一節 火災豫防

廣義ノ火災豫防トハ火災ノ未然防止ト火災既發ノ場合ニ於ケル防止ヲ云フ、狹義ノ火災豫防ハ即チ火災ヲ未然ニ防止スヘキ施設其他ニ依ル豫防方法ナリ、茲ニ火災豫防トハ狹義ノ火災豫防ヲ指稱ス

火災豫防ハ常ニ市町村民ノ生活状態ヲ察シ、現在ノ建築方法ニ鑑ミ之ニ順應セル手段ヲ講セサルヘカラス、如何ニ警察及消防組ノ協力ヲ以テシテ之カ豫防ニ努ムルト雖モ、民衆各自ノ一致アリテ其豫防ヲ爲スニアラサレハ、獨リ警察、消防組ノミ焦慮スルモ

遂ニ萬全ナル成績ヲ收メ得サルコト明カナリ、故ニ當事者ハ民間各自ノ協力賛同ニ依リ以テ豫防方法ヲ講スルヲ可トシ、尙進ンテ積極的ニ之ヲ指導シ應援シ以テ火災ヲ未然ニ防止スル施設ヲ爲ササルヘカラス、左ニ常時ニ於ケル火災豫防ノ方法ヲ數節ニ分チテ説述スヘシ

第二節 竈及煙筒検査

火災ノ原因ハ竈及煙筒等ノ構造不完全又ハ平時ノ掃除ノ不行届若ハ燃料ノ不始末ニ依ルモノ多シ、此等ハ些末ナル事ナレトモ常ニ繁忙其他疲勞等ノ爲メ忽諸ニ附シ遂ニ火災ヲ發生セシムルニ至ル、故ニ月二回以上若ハ冬期ニ於テ竈及煙筒ノ検査ヲ行フコト必要ナリ、而シテ其ノ方法ハ消防組員二名以上トシ之ニ役員一名ヲ加ヘ、竈及煙筒ノ構造不完全ナルヤ又ハ平時ノ手入ノ不行届或ハ燃料ノ積置場ハ果シテ適當ナル方法ヲ講シ居ルヤ否ヤ、又取灰其他ノ處置等ニ付テモ充分調査ヲナスヘキモノナリトス、尙勝手元巡視ヲ爲ス等（臺所改善ノ動機ヲ與フル）相當ノ効果アリ、然レトモ消防組員カ之等勝手元巡視又ハ灰取場ノ設置其他防火施設ヲ行フニ方リ、各戸ニ臨檢シ又ハ個人ニ警察義務ヲ命スルカ如キ權限ナキヲ以テ（警察官ト雖モ法規ニ別段ノ定メアル場合ノ外）一村落若ハ一區域ニ於テ

火防上遵守スヘキ規定ヲ設ケ、之カ巡視監督ヲ消防組員ニ委任シタル場合ニ於テ消防組員ハ其巡視ニ方リテ最モ其言動ニ注意シ且又猥リニ一家ノ秘密ヲ侵スカ如キコトナカルヘキハ勿論、成ヘク警察署長ノ指揮監督ノ下ニ之レト協力シテ行ハシムルヲ以テ適當ナル方法ナリトス

尙近年各地ノ消防組ハ少年消防隊ヲ監督シ竈戸及煙筒ノ検査又ハマツチ箱ノ置場等ノ視察ヲナサシメ其好成績ヲ舉ケツツアリ

參考

勝手元ニ貼付スル宣傳ビラ

宣	傳
勝手元ノ整理ハ	
第一火災豫防 第二衛生 第三經濟 ノ三徳カアリマス 即チ	
(一)勝手元ノ注意ハ唧筒ヲ用ヒスシテ火ヲ消スノ秘訣デアリマス (二)キレイニナツテ居ル勝手元カラハ病氣ハ出マセン (三)整理ノヨイ勝手元ハ費用ヲ省キ仕事ノ能率カ増進シマス	

第三節 夜警

火災豫防ニ對スル夜警ハ年中行事トシテ勵行スル地方アルモ、其多クハ冬期即チ火災季節タル十二月ヨリ三月マテノ間ニ於テ夜間適當ナル時間ニ於テ之ヲ行フ、其方法ハ夜警詰所若ハ消防機械藏置場内ニ集合シ警戒區域内ノ巡邏又ハ見張警戒ヲナシ、又ハ民間ノ冬期ニ於ケル夜警番ノ間接監督或ハ其勵行ヲ爲サシムル等之レナリ、而シテ一詰所ニハ必ス消防組員ノ外一名以上ノ役員ヲ加フヘキモノトス、其他夜警上最モ注意ヲ要スルハ風威ノ特ニ強烈ナル場合ハ常時警戒ノ外更ニ非常警戒ヲ實施シ、以テ警戒ノ一層周密ナルヲ計ルト同時ニ有事ノ際、消防力ノ充實ヲモ期スル如クセサルヘカラス、非常警戒ノ方法ヲ定ムルハ人家稠密セル部落ニ於テ特ニ其ノ必要ヲ認ム、而シテ非常警戒ノ方法ハ消防組ノ組成ノ状態ニヨリ一定セスト雖モ概ネ左ノ方法ニ依ルヲ可トス

- 一 非常警戒上必要ナル人員ノ召集
- 二 特種勤務方法ヲ定ムルコト
- 三 臨時ノ施設

四 消防機械ノ調節

第四節 火災豫防宣傳

火災ノ豫防宣傳ハ其ノ地方ニ依リ一様ナラスト雖モ左ノ數種ノ方法ニ依ルヲ通例トス、而シテ火災豫防ノ宣傳ハ人心ノ趣好ニ適シ痛切ニ警火思想ヲ喚起セシムルノ工夫ヲナスヘキモノニシテ、相當ノ經費ト時間トヲ消費スルノ關係アレハ努メテ經濟上ノ諸點ヲ考慮シ、徒ラニ時間ノ延長ト經費ノ膨張ヲ來サシメサル様注意スヘシ、尙一面施行當日ニ方リテハ其區域内ノ民衆ト協力シ、宣傳ノ何タルヤヲ詳解セシメ、俗ニ御役目又ハ御祭り騒キ的ニ陥ラシメサルノ方法ヲ講シ、以テ十二分ノ效果ヲ舉クルニ努メサルヘカラス

一 「ホスター」ニ依ル宣傳 「ホスター」ハ最近歐米諸國ニ於テ災害防止策トシテ試ミタリシモノニシテ、我國ニ於テモ近來交通事故及此火災事故等ノ防止又ハ衛生、經濟ノ對策トシテ行フニ至リシモノナリ、其ノ方法ハ適當ナル洋紙其他ニ火災豫防上ノ標語或ハ俚語又ハ火災原因及損害統計等ヲ記載シ、之ニ種々ノ插畫ヲ加ヘタル美術的印刷物ヲ作成シ、之ヲ交通繁多ナル路上又ハ多數人ノ集合スヘキ場所ニ貼掲シ、

以テ公衆一般ニ供覽セシメ火災豫防ノ目的ヲ達セントスルニ在リトス

二 宣傳ビラ 宣傳ビラハ小形ノ紙片ニ「ホスター」ニ類似スル火災豫防上ノ文字又ハ插畫ヲ記載シタルモノニシテ、此ノ宣傳方法ハ「宣傳ビラ」ヲ新聞紙ニ添付シ又ハ市町村役場ヨリ市町村民ニ配布スルコトアリ、或ハ商品廣告ヲ利用シ其ノ廣告欄内ニ火災豫防ノ文字ヲ加ヘ之ヲ一般公衆ニ散布スルコトアリ、又ハ宣傳ノ區域ヲ限リ警察、消防組等ノ協力ヲ以テ自動車、自轉車ニ乘シ宣傳札ヲ散布スルコトアリ、其他飛行機上ヨリ散布スルカ如キ地方(靜岡縣磐田郡見付町)アルモ其方法ニ至リテハ經費上ニ鑑ミ各地方ノ狀況ニ準シテ適宜ノ手段ヲ採ルヲ可トスヘシ

三 活動寫真ニ依ル宣傳 此ノ宣傳方法ハ火災豫防上ニ付キ種々考量シタル筋書ヲ作成シ、之ヲ劇ニ仕組ミ(例ハ自治ノ花、響、血染ノ馬籠)一般演劇寫真ト同様映寫シ悲劇アリ慘劇アリ以テ火災ノ恐ルヘキコトヲ一般觀覽者ヲシテ周知セシムル方法ナリ、其他火災及燒跡ノ慘狀ヲ映寫シ火災豫防上ノ自覺ヲ促スカ如キモ一策ナリトス

四 掲告板 之ハホスタート稍同一主旨ノモノニシテ、一定ノ掲示板ヲ交通頻繁ナル場所又ハ公衆人ノ出入スル場所ニ設置シ、一週又ハ一ヶ月毎ニ掲示ノ方法例ヘハ標

語或ハ繪等ヲ逐次ニ變更シ、總テノ火災豫防上適切且嶄新ナル宣傳ノ告知ヲナスモノナリ

五 都々逸其他俚謠ニ依ル宣傳 之ノ宣傳方法ハ宣傳上相當考慮シタルモノニシテ、眞面目ナル方法ニテハ到底尋常ノ宣傳ヲナスコト不可能ナル場合ニ、都々逸又ハ一ツト節ニ火災豫防宣傳ノ意味ヲ綴リ、以テ一般民ヲシテ談笑裡ニ、不知不識、火災豫防上ノ智識ヲ腦裡ニ印セシメントスルモノニシテ、其方法トシテハ一定ノ廣告ヲ以テ火災豫防ニ適切ナル俚謠ノ募集ヲ爲シ、其當選シタル者ニ賞金ヲ與フル等獎勵ノ途ヲ講スルヲ宜シトス

其他新聞紙、雜誌又ハ講演、演劇等ニ於テ火災豫防上ノ宣傳ヲナシ或ハ火災豫防展覽會ヲ開催スル等ノ方法アリ

以上記述シタル豫防宣傳中ホスター、掲告板、及新聞、雜誌、講演等ニ依ル宣傳方法ハ比較的經費及時間節約ニ効アリ、宣傳ビラ散布、活動寫眞等ニ依ル宣傳ハ經費及時間ヲ要スル方法ナリト雖モ比較的一般公衆ニ徹底セシムルコトヲ得ヘシ

第五節 火防規約

火防規約トハ隣保相團結シ火災ヲ未然ニ防止シ之レニ因ル不慮ノ災害ナカラシムルカ爲メニ其ノ區域内ニ豫防上遵守スヘキ規定ヲ設ケ、以テ其ノ實ヲ舉クルニ努ムルヲ目的トス、其規定ハ地方ノ狀況ニ依リ一定セサルモ、多クハ火災ノ原因トナルヘキ事項ニ就キ種々注意シ、遵守スヘキ條目ハ必然的ニ履行スヘク定ムルモノニシテ、要ハ火災ナカラシムルコトヲ相互ニ規約シ實踐セシムルニアリ、蓋シ之レ自治自警ノ觀念ヨリ出タルモノナリ

參考

火災豫防組合規約

- 第一條 此ノ規約ハ隣保相團結シ互ニ火災豫防ノ實ヲ舉ケ不慮ノ災害ナカラシムルヲ以テ目的トス
- 第二條 此ノ規約ハ各區ヲ以テ申合せ一區域トス
- 第三條 此ノ規約ハ本籍寄留ノ別ナク區域内ノ現住者ヲ以テ申合員トス
- 第四條 此ノ規約實行ノ爲メ豫防係若干名ヲ置キ適宜之ヲ撰フモノトス
- 第五條 豫防係ハ毎年十一月ヨリ翌年三月迄ハ毎月二回以上其ノ他ハ時々申合區域内各戸ヲ巡回シ火災豫防上ノ施設ヲ監督指示スルモノトス
- 第六條 此規約申合員ハ左ノ事項ヲ遵守スルモノトス
 - 一 豫防係ヨリ火災警防上指示セラレタル事項ハ出來得ル限り速ニ實行スルコト
 - 二 毎年十二月一日ヨリ翌年三月末日迄定時キ夜警ヲ爲サシムル事
 - 三 火氣取扱粗瀆ニ失シ又ハ豫防係ヨリ指示サレタル事項ノ實行ヲ怠リタルモノアルヲ認メタル時ハ互ニ

- 相忠告シ又ハ豫防係ニ報告スヘキモノトス
- 四 公衆ノ出入及多衆ノ來集等ヲ目的トスル營業者其ノ他ノ家屋及建物ニハ適當ノ消火器及屋上水柄ヲ設備スルコト
- 五 火器ヲ使用スル營業者ハ其ノ使用火爐火焚場ハ不燃質物ヲ以テ堅牢ニ構造シ常ニ破損ノ有無ニ注意シ尙適當ノ消火器ヲ設備スルコト
- 六 竈、風呂場等總テ多ク火ヲ焚ク場所ニシテ煙筒ノ設アルモノハ之レカ掃除ヲ怠ラサルト同時ニ煙筒突出部周圍ノ破損ノ有無ニ注意スルコト若シ煙筒ノ設ケナキトキハ天井裏ハ厚壁又ハ鐵葉板張トナシ火氣ノ移ラサル様施設スヘキコト
- 七 竈、風呂場等附近ニハ燃質物殊ニ焚付即チ松葉、柴、木屑、鮑屑、藁等ノ類ヲ置カサルコト
- 八 爐、竈、風呂場等ハ使用ノ後ハ殘火ニ注意シ可成水ヲ注キ火氣ナカラシムルコト
- 九 爐、竈、風呂等ノ附近ハ焚付類ノ燃ヘ易キ物件ハ常ニ一定ノ箱ニ格納シ飛散セサル様ニ注意シ火氣ノ移ラサル手段ヲ爲ス事
- 一〇 烈風ノ日ハ焚火其ノ他火氣ニ特ニ注意シ飛火セサル様便宜ノ措置ヲナスコト
- 一一 餅搗、味噌煮等多量ノ焚火ヲ爲シタル時ハ殊ニ火氣ニ注意シ使用後再三見廻リヲナス事
- 一二 小兒ニ焚火ヲ委シテ外出セサルコト又留守中小兒ヲシテ焚火ヲセシメサルコト
- 一三 如何ナル場所タリトモ小兒ヲシテ焚火ヲ爲サシメ煙火ヲ弄スル遊戯ヲナサシメサルコト
- 一四 燐寸其他發火質ノモノハ常ニ小兒ノ手ノ及ハサル場所ニ藏置シ妄リニ小兒ヲシテ玩弄セシメサルコト
- 一五 燐寸及燃ヘ殘リ蠟燭等ノ蕊ハ場所ヲ擇ヒ妄リニ投棄セサルコト
- 一六 燐寸其ノ他自然發火ノ虞アルモノハ可成不燃質物ノ容器ニ格納スルコト
- 一七 薪炭ニ火ヲ移サンカ爲メ石油ヲ使用セサルコト
- 一八 洋燈ハ可成金屬製油壺ヲ使用シ就寢後ハ可成消燈スルコト

- 一九 洋燈ヲ使用スル家屋室内ニハ輕便消火器ヲ設備スルカ又ハ大凡三升入ノ袋ヲ製シ之ニ木灰又ハ砂鹽ヲ滿タシ適當ノ場所ニ吊シ置キ若シ火ヲ失シタル時ハ之ヲ撒布シ防火スルコト
- 二〇 洋燈ハ完全ナル自在ヲ以テ折り釘ニテ吊シ置キ顛落セサル様設備スルコト
- 二一 石油ハ常ニ火氣ノ及ハサル一定ノ場所ニ藏置シ夜中又ハ火ヲ點シツツ取扱ハサル事
- 二二 炬燵、爐檯及其ノ周圍并ニ爐底火焚場風呂等ハ不燃質物ヲ以テ堅牢ニ構造シ常ニ破損ノ有無ヲ檢スルコト
- 二三 行火ハ顛倒ノ虞ナキモノヲ用ヒ就寢ノ際必ス使用セサルコト
- 二四 炬燵、行火ニテ小兒ノ衣類其ノ他ヲ乾燥セシムルコトナク使用シタルトキハ他出ノ際ハ火氣ヲ檢査シ危險ナカラシムルコト
- 二五 松明蠟燭其他一切裸火ヲ使用セサルコト殊ニ納屋厩又ハ燃質物ヲ收藏ノ場所或ハ其附近ニテハ防圍アルモノニ非ラサレハ使用セサル事
- 二六 穀物藁稈ヲ取扱フ際ニハ必ス喫煙セサルコト殊ニ夜間ハ裸火ヲ使用セサルコト
- 二七 煙草ノ吸殻ハ場所ヲ擇ヒ妄ニ放棄セサルコト
- 二八 神佛ニ供スル燈火ノ附近ニハ神佛札ノ燃質物ヲ散亂セサルコト又ハ燈火ヲ附ケ放シニナササルコト
- 二九 家屋ノ内外ヲ間ハス焚火ヲ爲ストキハ必ス看守人ヲ附スルコト
- 三〇 取リ灰ハ建物ヲ距ル適當ノ場所ヲ撰ミ不燃質物ヲ包被シタル納屋内ニ藏置スルカ又ハ危險ノ虞ナキ場所ニ火容ヲ設ケ藏置スル事
- 三一 取灰ハ火氣ヲ全ク去リタル後ニアラサレハ燃質容器ニ收納セサル事
- 三二 毎月防火用トシテ特ニ貯水ノ準備ヲ爲ス事
- 三三 家屋及建物新築又ハ修繕ヲ爲ストキハ屋根又ハ材料等ハ不燃質物ヲ以テスル事
- 三四 宅地ノ空所ニハ飛火ヲ防ク爲メ可成樹木ヲ植付ケル事
- 三五 一旦誤テ火ヲ失シタル時ハ事ノ大小ニ拘ハラズ必ス隣家及警察官署ニ急告スル事

參考圖解



注意

- 一 竈及煙筒ノ檢査ハナルヘク少年消防隊ヲシテナサシムルコト (少年隊ヲシテ檢査ヲナサシムルハ情實ニ拘ラスシテ克ク其ノ目的ヲ達シ得ラル)
- 一 竈及煙筒ノ檢査ヲナサシムルトキハ「マツチ」ノ置場及注意書又ハ標語ノ添付ヲ兼ネシムルコト
- 一 竈及煙筒ノ檢査ハ常ニ臺帳若ハ成績表ニ記載シ及統計表ヲ作成シ置クコト
- 一 夜警ハ巡邏ノ際ハ一組二名以上トシ一定區域線ヲ定ムルコト
- 一 夜警ハ見張又ハ詰員ヲ殘留シ巡邏警戒ヲナスヘキコト
(役員ハ常ニ殘留シ見張及詰員ヲシテ何時タリトモ出動ヲナシ得ヘキ準備ヲナシ置カシムルコト)
- 一 夜警ハ細大ノ事故ニ限ラス日誌ニ記入スルコト
(風位、風力、溫度、晴雨、其他ヲ記入スルコト)
- 一 豫防宣傳ノホスターハ彩色ヲ少ナクシテ鮮明且簡單ナルヲ可トス
- 一 宣傳ビラハ繪畫ノ押入ヲナシ文字ヲ解セサルモノニモ諒解シ得ラルル様ニ工夫又ハ案配スルコト

- 一 掲告板ハ週間又ハ半ヶ月若クハ一ヶ月毎ニ文字或ハ繪畫ヲ變更スルコト
 (掲告ハ文字及繪畫ヲ入レ公衆ヲシテ目ヲ惹カシムルニ努ムルコト)
- 一 講演ハナルヘク冬期ハ學校、青年會等ニ於テ集會シタルトキ又ハ劇場、寄席或ハ家族慰安會等ノ機會ヲ利用シテ之ヲナスヘキコト

(火防組合ノ組織アル處ニアリテハ年一二回會合ヲナサシメ講演ヲ行フコト)

〔參考問題〕

- 一 竈及煙筒ノ検査時機及方法ヲ述ヘヨ
- 二 夜警ノ季節及方法ヲ述ヘヨ
- 三 火災豫防宣傳ノ方法ヲ列記セヨ
- 四 火災豫防ノ宣傳上比較的一般公衆ニ徹底セシムル方法如何

第七章 森林火災ノ豫防

森林ノ火災ハ如何ニシテ發生スルカ(即チ原因豫防)若シ發生シタル場合ハ如何ニシテ火災ヲ小區劃ニ限定シ得ヘキカ(之レ延燒豫防)ヲ以テ森林火災豫防ノ概念トス

- 一 原因豫防 凡ソ森林ニ於ケル火災原因ノ多クハ過失ニシテ焚火若ハ煙草ノ吹殻或

ハ柴草ノ燒付ノ場合ニ其防火準備不完全ナルニ基因スルモノナリ、平素森林ニ於テ之等火氣ノ使用ヲ嚴禁スルハ法令ノ明定スル所ナリト雖モ、其取締ノ困難ナルニ依リ充分ノ効果ヲ舉クルコトヲ得サルハ遺憾ナリトス、故ニ之カ發生ノ場合ハ如何ニシテ火災ヲ小區劃ニ限局セシムヘキカハ研究セサルヘカラサル問題ナリ、之レ防火線ニ依ル豫防方法ト防火林ニ依ル豫防方法トアル所以ナリ

二 延燒豫防

- (一) 防火線ニ依ル豫防方法 防火線ニ依ル豫防ハ大森林ニ於テ發生セル火災ヲ一小區劃ニシテ終熄セシメンカ爲メ常ニ防火線ヲ設置スルモノニシテ、其方法ハ適當ノ幅員ヲ有スル一帯ノ空地若ハ溝ヲ穿チテ之ヲ廻ラシ以テ幾多ノ小區劃ニ區分スルモノトス、而シテ其方法ハ防火線タル空地又ハ溝ノ幅員ヲ廣大ナラシムルニアラサレハ完全ナル効果ヲ奏スルコト能サルコトニ注意スヘシ、防火線ハ有効ノ副員凡ソ五間以上ナルヲ要ス、一般火災ノ原因ニ鑑ミルトキハ森林ノ隣地タル原野ヨリ延燒スルモノ多キヲ以テ、森林組合又ハ農會ノ如キ團體ノ作爲ニ依リ森林ニ接シタル原野ニハ、常ニ十間以上ヲ保有スル防火線ヲ設備スルコトヲ要ス

(二) 防火林ニ依ル豫防法 此ノ方法ハ危險多キ松柏類ノ森林ヲ、簇葉多キ樹木ノ一帯ヲ以テ小面積ニ區劃セントスルモノトス、松柏類ハ多量ノ樹脂ヲ含有スルヲ以テ、一朝火ヲ失センカ恰モ松明ノ燃ユルカ如ク火力熾烈ニシテ容易ニ鎮火シ難シ、之ニ反シテ簇葉多キ樹木ハ全ク樹脂ヲ含有セサルノミナラス、多量ノ水分ヲ含ミ居ルヲ以テ火災ニ罹リタル實例殆ト稀レナリ

以上森林火災ヲ發生セシメサル方法ハ取締困難ナルノ憾ミアリ、防火線ニ依ル豫防ハ其目的ヲ達センニハ、多大ノ費用及土地ヲ不生産的ニ使用セサルヘカラサルノ缺點アリト雖、防火林ニ依ル豫防ニ至リテハ多大ノ費用及森林中廣大ナル不生産的ノ土地ヲ要セス、殊ニ防火林タル樹木モ亦木材トシテ使用シ得ヘキモノナルカ故ニ、經濟上ノ利益アリテ且ツ完全ニ防火ノ目的ヲ達スル最良ノ手段ナリトス

參考

林野火災豫防組合同規約

- 第一條 本組合ハ何村林野火災豫防組合ト稱ス
- 第二條 本組合ノ區域ハ町村ノ區域ニ依ル

- 第三條 本組合ハ町村ニ現住スル十五歳以上ノ男子ヲ以テ組織ス
- 第四條 病者不具者老衰者及學生ハ組合ヨリ除外スルモノトス
- 第五條 本組合ハ隣保相團結シテ火災ノ警戒防禦ヲナシ不慮ノ災害ナカラシムルヲ以テ目的トス
- 第六條 本組合ハ前條ノ目的ヲ達スル爲メ左ノ事業ヲ行フモノトス
 - 一 林野ニ於ケル火氣取扱ヲ監督スルコト
 - 二 通行人ノ喫煙ヲ取締ルコト
 - 三 林道ノ改修ヲ行フコト
 - 四 植林ヲナシ基本財産ヲ造ルコト
 - 五 林野火災豫防ノ演習ヲ行フコト
 - 六 林業ノ講習ヲ行フコト
 - 七 講話會ヲ開催シ思想ノ普及ヲ講スルコト
 - 八 暖爐煙突火災場炭燒竈ノ検査ヲ行フコト
 - 九 林野火災ノ消防具ヲ藏置スルコト
 - 一〇 火災信號旗ヲ掲揚スルコト
- 第七條 本組合員ハ日常左記事項ヲ遵守スヘシ
 - 一 火氣ノ取扱ヲ嚴重ニスルコト
 - 二 火災場ノ附近ニハ延焼シ易キモノヲ置カサルコト
 - 三 焚火ヲナス時ハ其場ヲ離レサルコト
 - 四 温爐煙突竈等ヲ時折検査シ完全ニナシ置クコト
 - 五 小兒ニ燐寸ヲ弄セシメサルコト
 - 六 火氣ノアル場所ニテ石油ヲ取扱ハサルコト
 - 七 夜間洋燈ニ石油ヲ注カサルコト

第二編 常時ニ於ケル消防

- 八 火氣アル炬燵ハ特ニ注意スルコト
- 九 洋燈ハ必ス金壺ヲ用井ルコト
- 一〇 提燈ノ火ヲ消スコトヲ忘レサルコト
- 一一 裸火ヲ室内ヤ屋外ニ於テ使用セサルコト
- 一二 煙草ノ吹殻ヲ無暗ニ捨テサルコト
- 一三 煙草ノ吸殻ヲ捨テタル其火ヲ確實ニ消スコト
- 一四 屋外ヤ延焼シ易キモノノ處ニテ煙草ヲ吸ハサルコト
- 一五 寢ル前ニハ必ス火ノ元ヲ検査スルコト
- 一六 外出スルトキモ必ス火ノ元ヲ検査スルコト
- 一七 烈風ノ場合ハ可成火ヲ焚カサルコト
- 一八 風呂場ハ特ニ注意シテ茅屋根ヤ軒下テ沸ササルコト
- 一九 大火ヲ焚イタトキハ特ニ殘火ニ注意スルコト
- 二〇 林野ニテ焚火ヲナササルコト
- 二一 林野ニテ作業スルトキハ火氣取扱ヲ忽ニセサルコト
- 二二 火事ト聞イタラ消防器ヲ携ヘ急足出場スルコト
- 二三 家僕ヲ監督シ火氣取扱ヲ親切ニスルコト
- 二四 他人ノコトト思ハス見タリ聞イタリシタコトハ親切ニ注意スルコト
- 二五 義務ヲ重ンスルコト
- 二六 取灰ハ不燃質物ノ容器ニ入ルルコト
- 二七 神棚佛壇ノ燈火ハオ札ト離レテ置キ且ツ消燈ヲ忘レサルコト
- 二八 石灰其他自然發火ノ虞アルモノハ雨注ニ注意シ安全ノ場處ニ置クコト
- 二九 屋根ハ可成瓦屋根ニ改造スルコト

三〇 製茶養蠶ノ時季ニハ特ニ火氣ニ注意スルコト

第八條 本組合ニ左ノ役員ヲ置ク

- 一 組合長 一名
- 二 副組合長 一名
- 三 火防委員 若干名

第九條 組合長ハ組合事務ヲ統轄シ副組合長ハ組合長ヲ補佐シ火防委員ハ組合規約ノ實行ヲ督勵ス

第十條 本組合ハ毎年二月ヨリ四月ニ至ル三ヶ月間毎日林野火氣取締ノ爲相當ノ人員ヲ林野ニ派遣シ看守取締ニ從事セシム

第十一條 本組合役員ハ消防組ト聯絡ヲ取り組合員ノ規約遵守ヲ監査スルモノトス

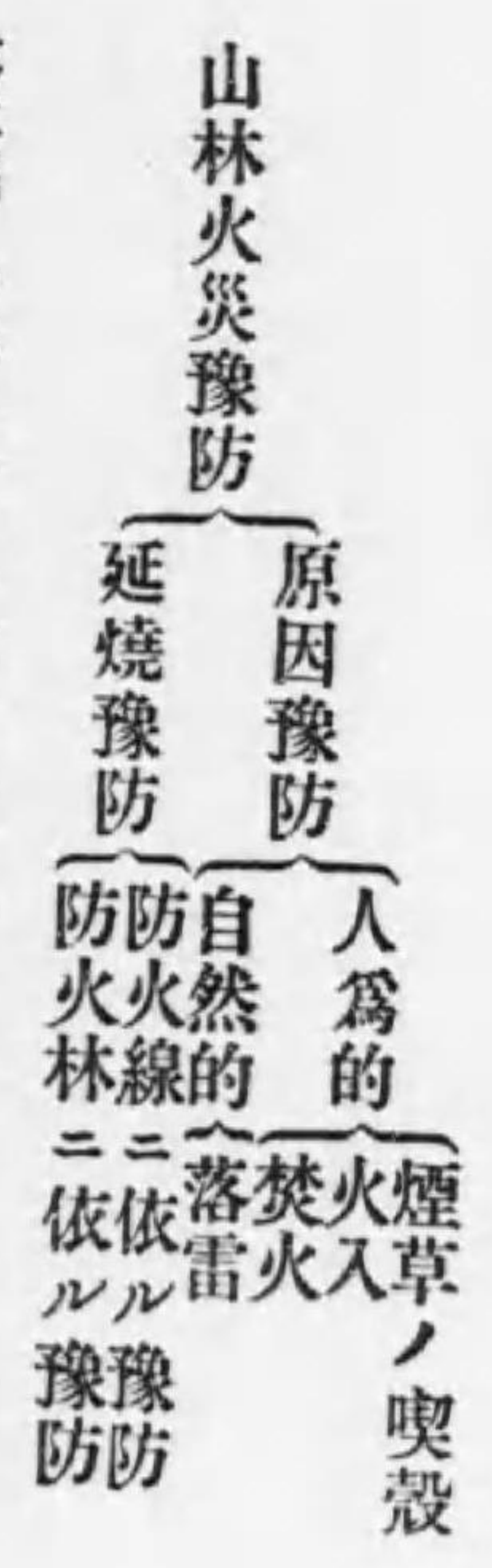
第十二條 本組合經費ハ町村ノ補助ヲ以テ之ニ充ツ

第十三條 本組合長ハ必要ト認ムル時ハ全部若クハ一部ノ組合員ヲ召集シ演習又ハ講話ヲ聽問セシムルコトアルヘシ

第十四條 火災豫防ニ必要ナル細則ハ火防委員之ヲ定ム

第十五條 林野火災豫防ニ經驗ヲ有スルモノヲ顧問ニ囑託スルコトヲ得

參考圖解



第二編 常時ニ於ケル消防 第七章 森林火災ノ豫防

〔參考問題〕

- 一 防火線ニ依ル豫防ハ如何ニナスヘキカ
- 二 防火林ニ依ル豫防ハ如何ニナスヘキヤ
- 三 森林火災ノ防火的經濟方法ハ何レノ方法ニ依ルチ可トスルヤ

一三三

第八章 消防組及組員ノ獎勵

第一節 消防組ノ獎勵

消防組ノ獎勵方法ハ各地方ニ依リ特色アリト雖、就中其ノ功勞アリシ消防組ニ金馬簾使用允許又ハ授與ノ制度ヲ設ケテ之レカ獎勵ヲ爲シツツアルコト其例最モ多シ、馬簾即チ纏ニ就テハ前編ニ其起原及沿革ヲ述ヘタルカ如ク、馬簾ハ消防組ノ精神的結合ノ標的ニシテ今日ノ軍旗ト同様消防組唯一ノ寶物タリ、而シテ馬簾ニハ其ノ構造部分タル下部ニ數十條ノ白線ヲ垂下シタルモノアリ、功勞ニ依ル表彰トシテハ此一條乃至數條ノ白線ヲ金線ニ變更セシムルコトヲ以テ金馬簾又ハ金馬簾使用允許又ハ授與ト稱ス變災ニ際シ拔群ノ功勞アリ、又ハ平素ノ紀律訓練他ニ秀タルカ、或ハ社會事業ニ盡瘁シタル等、相當ノ功績アル場合之カ功勞ト名譽トヲ表彰スルカ爲メ、府縣知事又ハ警

察部長ニ於テ其消防組ニ金馬簾ノ下附若ハ之カ使用允許ヲナスモノナリ、然レトモ金馬簾ヲ有スル組ニシテ紀律ヲ紊シ、又ハ訓練退歩ノ跡顯著ナル場合、或ハ變災ニ方リ其動作他ニ劣リタルモノト認メタルトキハ之カ允許ヲ取消シ又ハ其使用ヲ停止スルコトアリ、故ニ金馬簾ヲ有スル消防組ハ其名譽ヲ永遠ニ失墜セサルニ努メ益々改善發達ヲ企圖スヘキモノトス
其他消防組聯合會及ヒ消防義會等ヲ設立シ各組ノ規律訓練又ハ技術等ノ優勝ヲ獎勵シツツアリ

第二節 消防組員ノ獎勵

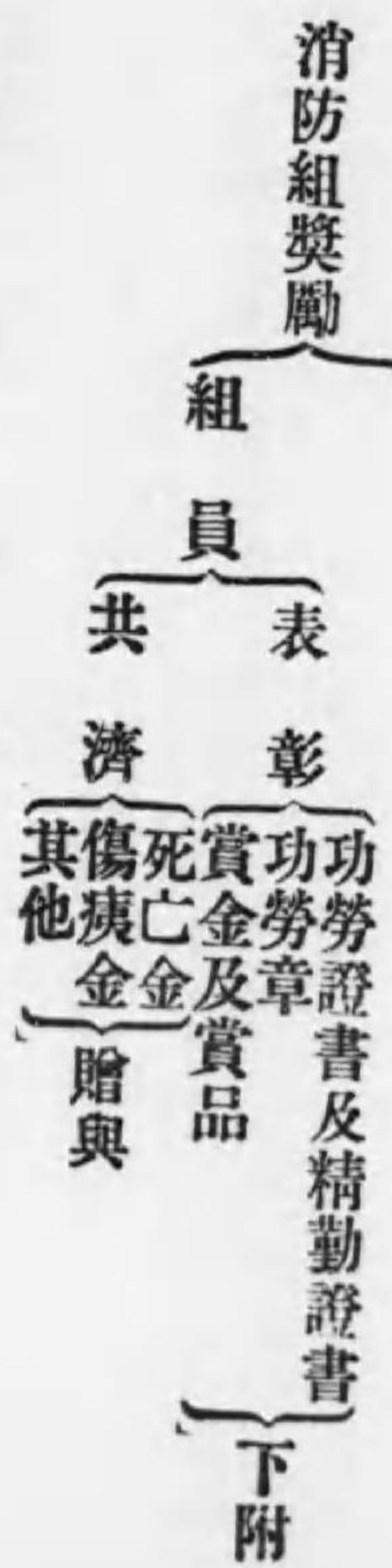
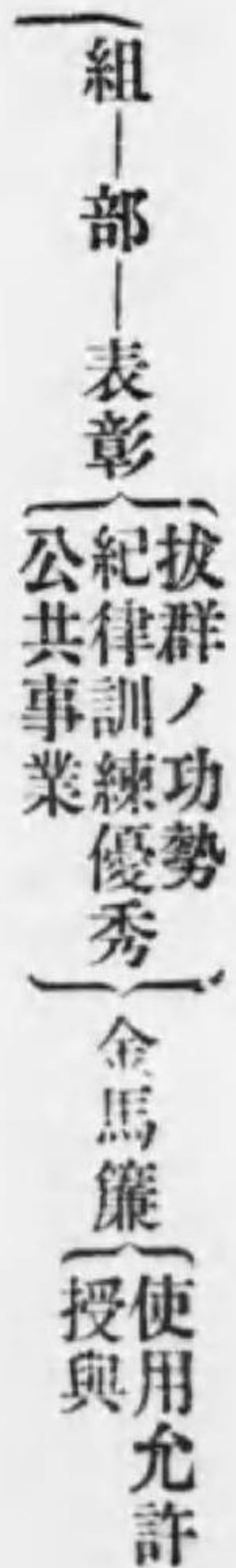
消防組員ノ獎勵ニ付テハ永年ノ勤績又ハ紀律ノ嚴守、勤務勉勵或ハ消防ニ關スル技術ニ熟達シ、其他變災ニ際シ拔群ノ功勞アリシモノニ對シテ府縣知事若ハ警察部長ヨリ其名譽ヲ表彰スル爲メ功勞證書ヲ授與スルコトアリ、又ハ消防組聯合會ト消防義會等ヨリ精勤ヲ表彰スル爲メ精勤證書及賞品又ハ功勞徽章ノ授與ヲナシ以テ組員ヲ行賞シ一層ノ努力ヲ促ス等ノ方法ヲ採ルコト之レナリ

第三節 消防組員ノ共濟

國難ニ殉スルハ軍人ノ本分ナリ一朝火防又ハ水防ノ際身命ヲ顧ミス勇敢ノ行動ヲナスハ消防組員ノ職分トス、而シテ其職責ヲ全カフシメントセハ其職務ニ従事スル組員ヲシテ後顧ノ憂ヒナカラシムルニ在リ、之レ消防組員ニ對スル共濟ノ途ヲ設ケ特ニ組員ヲ保護スルノ要アル所以ナリ、而シテ其方法ハ消防組員ノ年手當又ハ月手當若ハ出場手當等ヲ受クル場合ニ於テ其幾分ヲ控除シ共濟資金ニ充ツルコト、或ハ消防組聯合會費又ハ消防義會費等ニヨリ相當ノ救濟方法ヲ設ケテ病傷及死亡ノ場合ニ於ケル手當賜金、遺族扶助手當等ヲ給與スヘキナリ、松井博士曰ク「消防組員ノ公法上ノ身分關係ハ單ニ命免ノ形式ニ依ル組織員タルノ外何等特別ノ身分關係ヲ有セサルカ故ニ之ヲ官吏タリトハ稱シ難キモ公務ヲ執行スル點ヨリ所謂公務員タリト稱シ得ヘシ」

消防組員モ亦國家ノ公務員タルモノナレハ之レニ對シ相當保護ノ途ヲ講スルヲ以テ至當ナリト認ム

參考圖解



〔參考問題〕

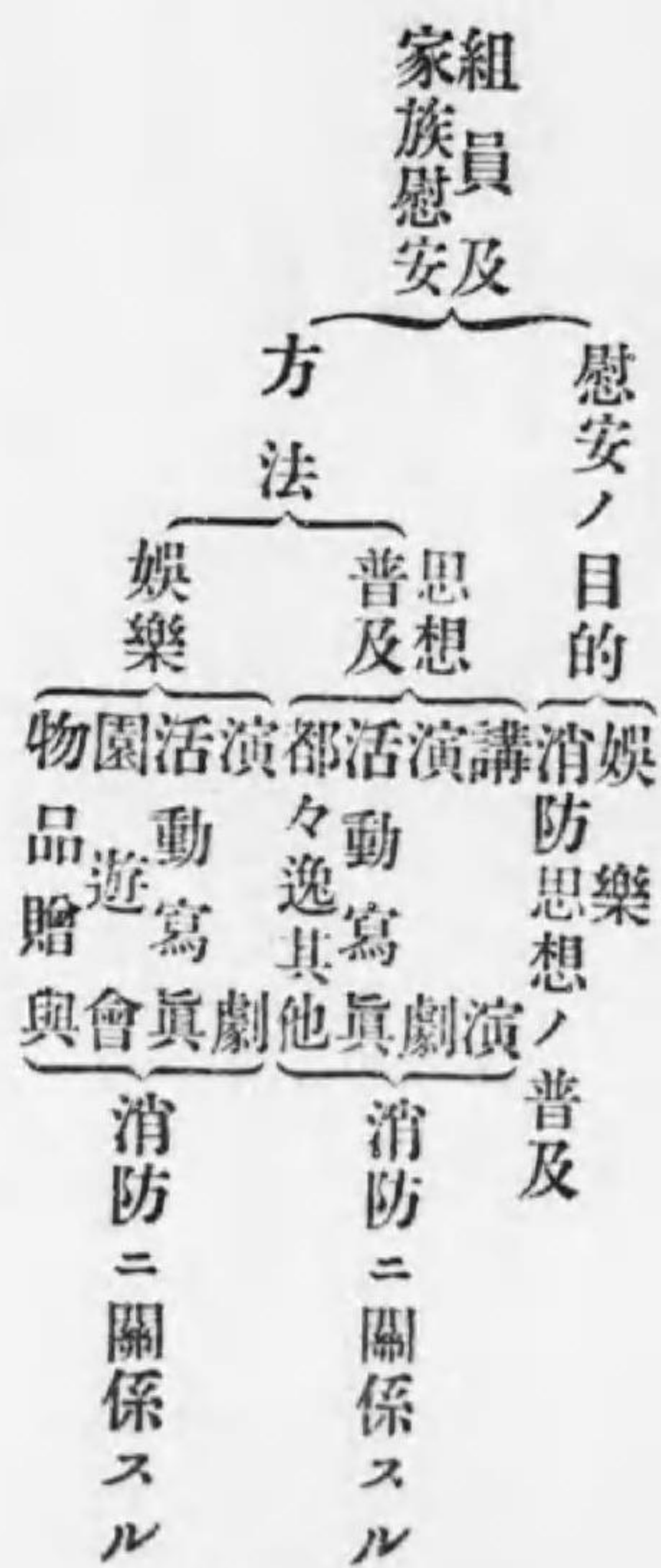
- 一 消防組ノ獎勵方法如何
- 二 消防組員ノ獎勵方法如何
- 三 消防組員ノ共濟方法如何

第九章 消防組員及家族慰安

消防組ノ活動ハ精銳ナル組員ノ行動如何ニアリト雖モ、亦之レカ組員ノ後援ナクンハ十二分ノ効果ヲ得難シ、消防組ノ後援ニ關シテハ第一編第十三章及第二編第八章ニ於テ説述シタルカ如ク青年、少年、婦人其他義勇隊ノ組織アリ各々其特長ヲ有シ之カ後援ヲナシツツアリテ稍消防組ニ對スル理想的ノ後援タルモ、未ダ組員ニ對スル精神上及ヒ物質上ノ後援ヲナスモノナキハ甚タ遺憾ナリトス、之レ消防組ノ後援アルト同シ

ク亦組員ノ後援ニ關スル方法ヲ講究スル所以ナリ
 消防組員ノ後援トシテ最モ直接ノ關係ヲ有スルモノハ組員ノ家族ナリ、組員ハ自町村
 警備上義務的ノ職務ヲ有スルモノニシテ消防事務上其職務ニ忠實ナラサルヘカラス之
 レカ爲メ組員一家ノ經濟上ニ及ホス影響少カラス、爲メニ一家ノ平和ヲ缺クノ虞ナシ
 トセス、故ニ消防組員ヲシテ平時及ヒ非常時ニ於テ出動上後顧ノ憂ナカラシムルニハ
 先ツ其ノ家族ノ後援ニ俟タサルヘカラス、其根本義トシテ消防組員ノ家族タルモノハ
 消防組員ノ任務ノ性質ハ國家又ハ社會上如何ナル價值アルモノナルヤヲ會得スルコト
 ヲ要ス、其方法トシテ適切ナルモノハ家族慰安ナリトス
 組員並ニ家族慰安ハ少クトモ年三回以上之レヲ行ヒ、會場トシテハ學校又ハ劇場其他
 ノ廣場ヲ利用シ、組員ノ家庭ヨリハ少クモ一人以上ノ出席者ヲ求メ、消防組員ノ任務
 並ニ國家社會上ニ於ケル其ノ價值、又ハ平時非常時ニ於ケル家族ノ心得、或ハ火氣ノ
 取扱上其他ニ關スル講演ヲナシ、消防思想ノ普及ニ努ムルト共ニ、一面義務的奉仕ニ
 酬ユルノ方策トシテ慰安的ノ餘興即チ演劇又ハ活動寫真等ヲ觀覽セシムルヲ可トス

參考圖解



注意

- 一 家族ノ慰安會ニハ有力者ノ會同ヲ求ムルコト
- 一 慰安會ノ開催ハ年二回以上トシ祭日休日ヲ利用スルコト
- 一 餘興トシテハ消防思想上ニ關係アルモノヲ選定スルコト
- 一 慰安會ニ於テハ必ス消防後援上ノ講演ヲ爲スコト
- 一 經費支出ハナルヘク準備豫算ニ編成シ置クコト
- 一 茶菓供與ノ場合ハ其ノ菓子又ハ袋ニ消防上ノ標語ヲ記入スルコト

〔參考問題〕

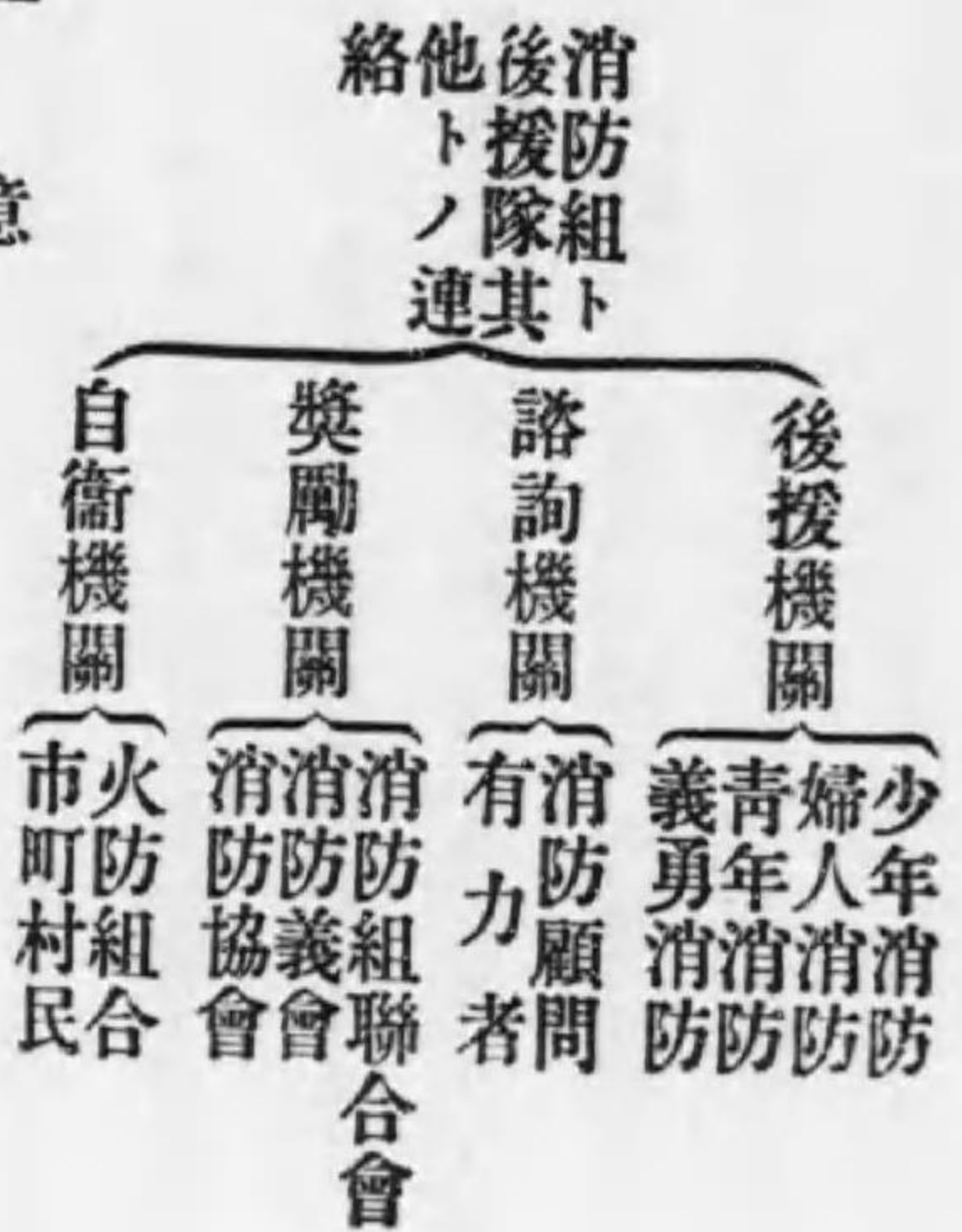
- 一 組員ノ後援ハ何ニ依ルヲ適切トスヘキカ
- 二 家族慰安ノ方法ハ如何
- 三 組員及家族慰安ハ何故ニ必要ナルカ理由ヲ述ヘヨ

第十章 消防組後援隊其他トノ連絡

軍隊カ國民ノ後援ヲ必要トスル如ク、消防組ノ常時、非常時ノ活動モ亦其ノ市町村ノ後援ニ依ラサレハ克ク其目的ヲ達スルコトヲ得ス、故ニ消防組ト其後援隊トハ必要ナル連絡ヲ保ツコトヲ要ス

消防組後援隊トハ即チ婦人、少年、青年消防隊及義勇警察隊又ハ消防義會其他トス、之等ハ常ニ相提携シ消防思想ノ普及又ハ消防事業ノ發展、或ハ火災豫防上ニ對シ協力一致シ其實績ヲ收ムルニ努ムヘキナリ、而シテ又消防組ハ此ノ以外ニ自村ニ於ケル有志者ノ後援ヲモ受クヘキハ勿論ナリトス、之レ消防ノ發展ヲ期スル途ナレハナリ

參考圖解



注意

- 一 消防ノ諮詢機關ニハ消防組ヲ辭シタル役員若ハ消防上功勞アルモノ及有力者ヲ以テ之ニ充ツルコト
- 一 獎勵機關ハ火災豫防狀況、消防演習、能率、消防用ノ機械力、出動及防禦狀況、經費等ヲ調査シ獎勵上之等ノ點ヲ考量スルコト
- 一 少年消防ニハ竈、煙筒ノ検査ヲナサシムルコト
- 一 自衛機關ニ對シテハ火防講話其他ニ依リ宣傳スルコト

〔參考問題〕

第二編 常時ニ於ケル消防 第十章 消防組後援隊其他トノ連絡

- 一 消防組ト後援隊トハ如何ニ連絡スヘキカ
- 二 後援隊其他ノ種類ヲ列記セヨ

第十一章 消防組ノ講習及見學

第一節 消防組ノ講習

消防組ノ講習ハ消防學ノ研鑽ト模擬演習ノ二ニ區別スルコトヲ得、而シテ消防學ノ研究ハ先ツ第一ニ消防ノ觀念ヨリ消防ノ沿革及消防ノ對敵タル火ノ研究、火災豫防ノ觀念ニ進ミ次ニ消防組ノ組織又ハ任務ノ大要ニ至リ、尙消防用機械ノ構成又ハ其効用等ヲ會得シ、其他水利及道路ノ調査方法或ハ消防法規ノ大要ヲ學フヘキモノトス

模擬演習トハ消防上ノ假設的演習ニシテ、從來ノ消防演習ハ規律ノ訓練又ハ唧筒操法等ニテ之等ハ何レモ必要ナル事項ナリト雖モ、尙進ンテ實地ニ臨ミ、甲地區又ハ乙家屋ニ對スル消防ノ方法ニ付キ風位、風力ノ關係ヲ假想シ且ツ道路及水利ニ關スル便否ヲ考察シテ實地的ノ演習ヲ試ミ、現場到着ノ地點、組員配置又ハ活動ノ方法ヲ考究シ實地ニ於テ毫モ困憊ヲ來タスカ如キコトナキ樣練習セサルヘカラス、尙戰術ノ方法ニ

至リテハ又假想問題トシテ机上ノ論究ヲナスモ適當ナル講習方法ナリトス

其他救護班ノ任務トシテ例ヘハ屋上ヨリ墜落シタル人事不省者ノ應急手當及腕、關節挫折又ハ顔面大火傷等實際ニ有リ得可キ傷害ニ付キ其ノ急速處置ニ關シ縋帶其他擔架運搬（擔架ハ其場ニ於テ急作ノモノ）方法等ノ實地ノ訓練モ亦必要ナル事項トス

第二節 見學

見學ハ各地方消防組ノ常時ニ於ケル消防上ノ施設又ハ火災豫防上ノ設備或ハ演習狀況等ヲ視察シ嶄新ナル方法、最善ノ活動狀況等ヲ見學シ以テ自町村消防組ノ改善發達ニ資スルヲ目的トス、而シテ又罹災地ノ狀況ヲ視察シ火災ノ原因、消防組ノ活動狀況、風向、地勢、水利ノ關係等ヲ取調べ其ノ防禦上ノ處置果シテ適切ナリシヤ否ヤ其他罹災民救助ノ方法等ヲモ亦視察スルニアリトス

參考圖解



見學
 平時 紀律訓練
 非常時 豫防設備
 出動方法
 防禦方法

注意

- 一 罹災地ノ視察ハ現場及風位、風力ノ關係ヲ調フルコト
 (例ハ風位ハ如何、延焼ノ狀況ニ依リ風力ヲ知ル等)
- 一 風位ノ關係ヲ知ルト共ニ消防組カ如何ニ部署ヲ定メシカラ調査スルコト
 (例ハ風下ニ部署ヲ定メタルカ)
- 一 消火方法ヲ推知スルコト
 (防禦ハ果シテ有効ニナシタルカ)
- 一 罹災民ノ避難ノ方法ヲ調査スルコト
 (消防組カ避難ニ努メタルカ及搬出シタル避難物品ノ破損程度)
- 一 罹災地ノ水利及道路ノ關係ヲ調査スルコト
- 一 原因及出火場所ノ保存狀況ヲ調査スルコト

- 一 使用唧筒ニ故障ナカリシカラ調査スルコト
 (例ハ多ク故障ヲ生スル部分ハ現場ニ於テハ如何ナル箇所ナリシカ)
- 一 焼失棟數ト出動消防隊トノ割合ヲ調査スルコト
 (此場合ハ水利、風力其他ヲ考量シテ調査スルコト)
- 一 罹災民救助ノ方法ヲ調査スルコト
 (收容方法、救助ノ狀況)
- 一 損害ト火災保險ノ關係ヲ調査スルコト

〔參考問題〕

- 一 消防組ノ講習ハ如何ナル方法ニナスヘキヤ
- 二 消防組員ノ見學ハ如何ニナスヘキカ

第三編 非常時ニ於ケル消防

第一章 火災發見方法

火災ノ損害ヲ比較的輕少ナラシムルハ其發見ノ迅速ナルコトニアリ、即チ發火後ノ火力未タ熾烈ナラサルニ乘シ一舉ニ之レカ撲滅ヲ期スルカ如クセハ其被害最モ少ナシトス、然ラハ如何ニシテ火災ノ迅速發見ニ努ムルヤ、此ハ其土地ノ狀況及ヒ消防機關ノ種類其他ノ狀況ヲ參酌シ適當ナル方法ヲ採ルヘキモノトス、左ニ現今ニ於ケル火災發見ノ方法ヲ述ヘントス

第一節 自働的發見

火災發見ノ種別ニハ巡邏ニ依ル警戒ト見張ニ依ル警戒トノ二種アリ

一 巡邏警戒 巡邏警戒トハ一定ノ區域内ヲ一定ノ時間ヲ定メ巡邏ヲナシ以テ火災ノ發見ニ從事セシムル方法ナリ、多クハ冬季間ニ於テ消防組員ヲシテ徹夜勤務ニ服セシムル場合ナリ

二 見張警戒

見張警戒ハ望樓(火ノ見梯子)其他高臺ニ在リテ四方ヲ見張ナシ火災ノ發見ニ從事スル方法ナリ、此ノ方法ニハ常時的見張警戒ヲナスモノト時限的見張警戒ヲナスモノトアリ、常時的警戒ハ専ラ常備的職員ヲシテ之レヲ施行セシムルモ、時限的警戒ハ主トシテ消防組員ヲ召集シ一時間ニ二回乃至四回、五分間見張ヲナシ徹夜勤務ニ服セシムル如キ場合ニ於テ之ヲ施行スルモノナリ、次ニ出火ノ距離ノ見方(豫測)ニ付多年ノ經驗ニ依ル方法ヲ示セハ左ノ如シ

(一) 地上ニ火氣ヲ認メサルモ上空ノ一點ニ紅色ヲ呈スルカ如キハ、距離遠クシテ五里以上ノ出火ナリトス

(二) 地上ニ一點ノ紅色ヲ呈スルモ中斷シ更ニ上空ニ於テ紅色ヲ呈スルカ如キハ、前方ニ水流アルノ出火ニシテ其狀況近距離ニ於ケルカ如シト雖モ三里以上ノ出火ナリトス

(三) 地上ヨリ上空ニ至ル迄一帶ニ紅色ヲ呈スルモ、火氣毫モ動搖セサルモノハ三里以内ノ出火ナリトス

(四) 前項ノ如キ兆候ヲ呈スルト同時ニ地上ニ接近スル紅色中微カニ火勢ノ動搖ス

ルカ如キ兆候ヲ呈スルハ二里以内ノ出火ナリトス

(五) 地上ノ紅色上空ニ向フニ從ヒ漸次擴大シ、且地上ヨリ上空ニ至ル迄一帶ニ火勢ノ動搖スルカ如キ兆候ヲ呈スルハ其ノ距離一里以内ノ出火ナリトス

(六) 前項ノ如キ兆候ヲ呈スルト同時ニ地上ヨリ上空ニ至ル迄火勢盛シニ動搖シ且地上ニ於テ微カニ炎ヲ認メ得ルカ如キハ半里以内ノ出火ナリトス

(七) 火勢盛シニ散シテ炎々中空ニ舞フカ如キ兆候ヲ呈スルハ最近距離ノ出火ナリトス

第二節 他働的發見

火災發見ノ種別ハ第一節ニ述ヘタル外、尙通信的機關ニ依ル發見方法アリ、即チ火災專用電話並ニ火災報知機其他トス

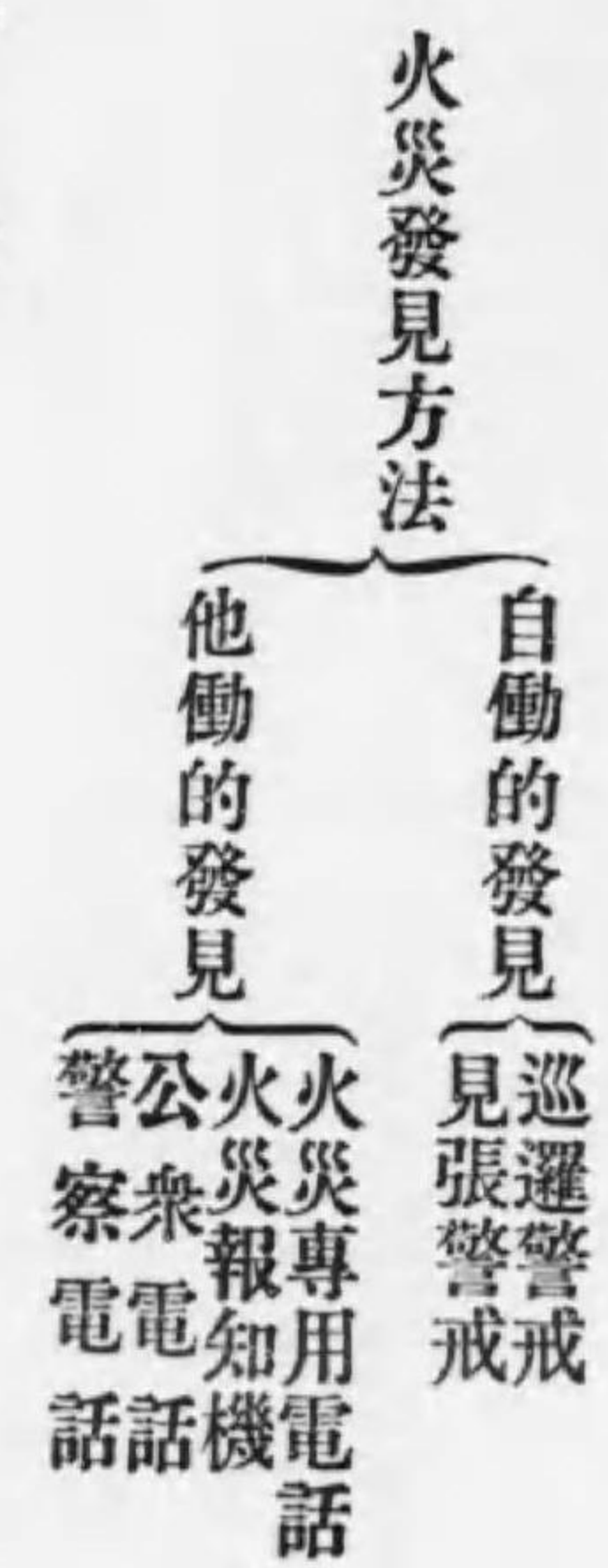
一 火災專用電話 火災專用電話ニ依ル方法ハ火災發生ノ場合、何人カ、加入電話又ハ自働電話若ハ通話局電話ニ依リ、火災發生ノ通報ヲ電話交換手ノ許ニ單ニ「火事」ノ語ヲ以テナセハ、速ニ其局擔當區域内ニアル消防官署ノ專用電話ニ其ノ電話線ヲ接續シ、通報者ヲシテ火災發生ノ場所ヲ直接其官署ニ通報セシムル如クセルモノナ

リ(大正六年四月一日) 逓信省告示參照)

二 火災報知機 此ノ方法ハ火災ノ發信及受信ノ爲メ、報知機ヲ特設セルモノニシテ、消防官署ニ火災受信器及中繼器ヲ設備シ、更ラニ特種ノ官署及路傍其他ニ多數ノ發信器ノ配置ヲナシ、何人ト雖モ、火災發見ノ場合直チニ最近配置ノ發信器ニ依リ消防官署ヘ之レヲ通報シ得ル如クセルモノナリ

而シテ何人ト雖火災ヲ發見シタルトキハ公衆電話又ハ警察電話其他ニ依リ消防署或ハ地方消防組ニ通報ヲナスコトヲ得ヘキモノトス

參考圖解



注意

一 警鐘ニ依リ豫メ火災ノ距離ヲ知リタルトキハ出動スヘキ部隊ニ其ノ狀況ヲ報スル

(蒸氣唧筒ニアリテハ罐水ヲ檢シ現場到着ノ上、機關運轉上差支ナキ様ニ努ムルコト)

一 信號係ハ他市町村ノ出火ナルトキハ出動ノ有無ヲ出動部隊ニ報スルコト

(應援区域内ナルカ又ハ火勢ノ狀況ニ依リ出動部隊ノ指定ヲナスコト)

[參考問題]

- 一 自動的發見ノ種別ヲ擧ケ説明セヨ
- 二 他働的發見ノ種別ヲ列記セヨ
- 三 自動的及他働的發見方法ノ得失ヲ述ヘヨ

第二章 出動方法

第一節 出動心得

火災警報(出)ニ接シタルトキハ迅速ニ消防用機械、器具置場ニ馳付ケ出動準備ヲナスヘキモノトス、即チ腕用瓦斯倫唧筒ニアリテハ吸水管及管創其他ノ有無、蒸氣唧筒ニアリテハ點火後信號係ノ出火距離ノ報知ニ依リ現場到着迄ニ蒸氣發生スヘキ様罐水量

ノ檢定等ヲナシ、唧筒率キ出シニ要スル人員ノ參集ヲ待テ出發スヘキモノトス(此際消平素自己ノ姓名ヲ記セル名札ヲ渡シ置キ、非常時ニ於ケル參集順序ヲ機械器具置場ノ一定ノ場所ニ掲ケ置キ以テ迅速參集ノ成績ヲ收メツツアル處アリ)尚又他市町村應援ノ場合ニ於テハ一組二臺以上ノ唧筒ヲ有スルトキハ、一臺ハ出動後ノ警備上殘留シ之レニ必要ナル消防組員ヲ止メ置クモノトス

而シテ火災出場ノ場合ニハ部下ヲ引卒スヘキ役員ハ、消防用唧筒ノ出發スヘキ以前ニ於テ必スヤ先發部員ノ編成ヲナシ現場へ急派セシムヘキモノトス、之レ現場到着ノ上停止スヘキ地點ヲ選定セシムルカ爲メナリ

第二節 先發部員ノ編成及動作

先發消防部員ハ數名ヲ以テ編成シ、可成自轉車若ハ「オートバイ」ニ乘シ得ル者ヲ選抜シ、之レニ一名ノ役員ヲ附シテ出發セシムヘキモノトス、而シテ先發消防部員タルヘキモノハ其ノ途上ニ於テ充分ナル計劃ヲ立テ、現場到着ノ上ハ火災場附近ニ於ケル地理、水利、建築物及風位、風力等ノ狀況ヲ考量シ、以テ自己消防組ノ到着ノ上停止スヘキ地點ヲ選定シ充分防火ニ努ムルコトヲ得セシムルニアリトス、此ノ方法ヲ用ヒサルトキハ出場消防組員カ火焰又ハ水利ノ便ニ付テノミ其心ヲ奪ハレ防禦上不利ノ地點

ニ停止スルノ例多キカ故ナリ、又隣町村ニ應援出動ヲナシタル場合ニ先發消防部員ヲ急派シタルトキハ最初到着ノ消防組トノ連絡ヲ取り以テ後援ノ目的ヲ遺憾ナク達セシムルニアリトス

第三節 先着消防組ノ動作

火災防禦ノ目的ハ迅速ニ消火ニ努メ以テ其ノ損害ヲ減少ナラシムルニ在リトス、故ニ火災場ニ最初到着シタル消防組ノ行動如何ニ依リテハ火災防禦上至大ノ影響ヲ及ホスモノニシテ、一度防禦ノ時機ヲ失センカ火勢ハ瞬時ニシテ最モ熾烈ヲ極メ、タトヒ後續消防組ノ來援アリト雖モ防禦ノ手ヲ下スニ由ナク終ニ延焼ノ區域ヲ擴大ナラシム、殊ニ風威猖獗ヲ極ムル場合ニアリテハ最モ考量スヘキコトナリトス

第四節 出場消防組ノ本部

火災ニ出場シタルトキハ其ノ消防組ハ必ス本部ノ所在ヲ明カニスヘシ、而シテ消防組本部ハ相當ノ人員ト役員トヲ以テ編成シ、旗又ハ大提灯或ハ纏ヲ目標トナシ火災場ニ於ケル風位、風力、延焼狀況等ヲ間斷ナク目撃シ、自己ノ消防組員ニ對シ防禦上時宜ニ適スル指揮ヲ爲シ、一糸亂レサル秩序的ノ行動ヲ採ルハ防禦並ニ救助ノ目的ヲ達ス

ル所以ナリ

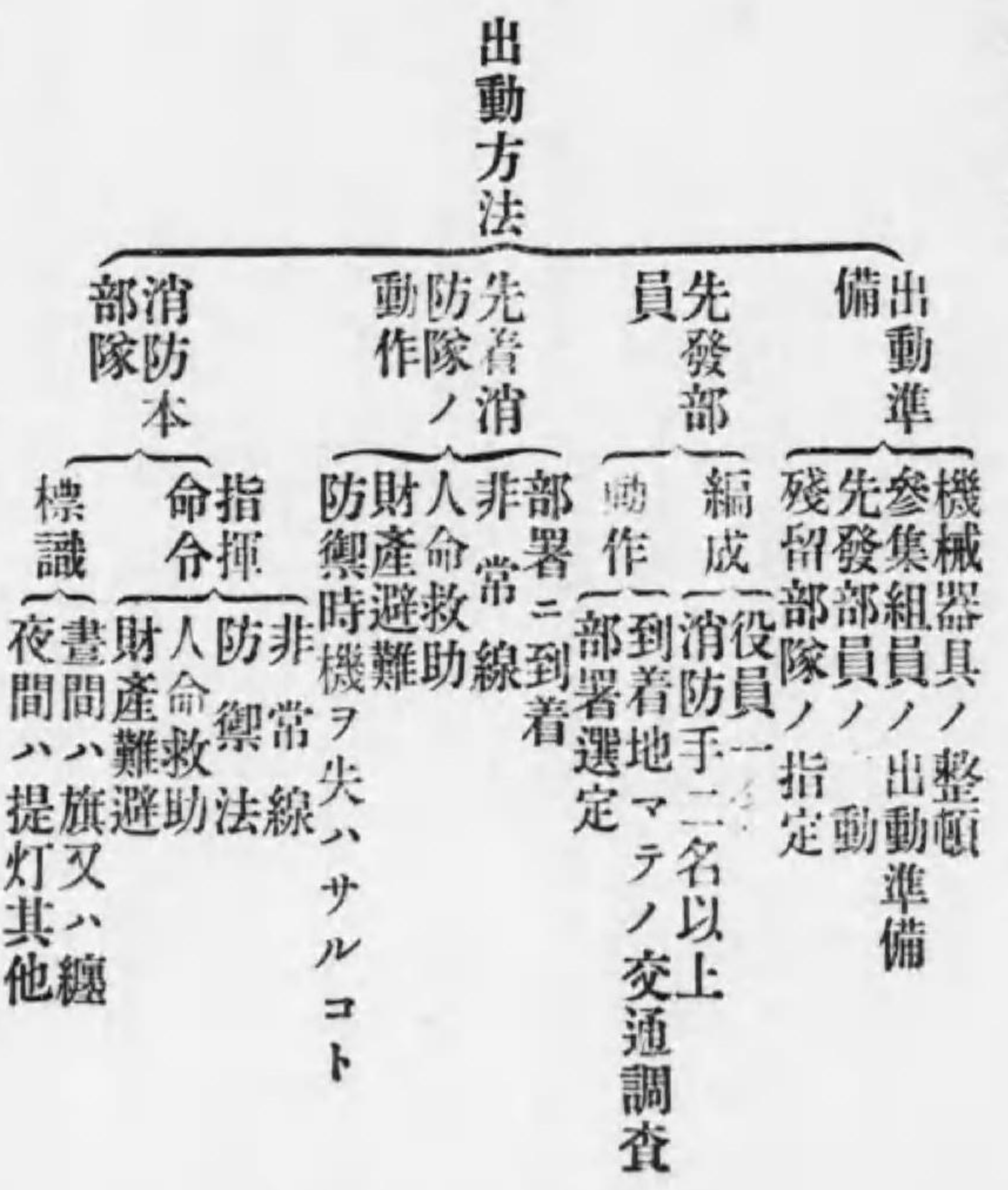
(註)

非常召集計劃

消防組

方 法	心 得	動 員	其 他
信 號 傳 令 號(信號ニ應シ規定ノ服裝ヲナシ指定ノ場所ニ召集スヘシ) 令(召集票ニ依リ召集スヘシ)	平素消防上出動スヘキ服裝其他携帶品ノ全部ハ非常管ニ整頓スヘシ 準備時間ハ五分以下タルヘシ 途中駈足ハ早駈トス	參集整ヒ現場出場ノ場合ハ 第一動員(組員總員ノ二三分ノ一ハ豫備ニシテ分ニテ出動ス、テ組員出動後ノ警備) 第二動員(總員出動(殘留三分ノ一ヲ含ム)此ノ場合ハ消防組後援隊ヲ殘留シ出動後ノ警備ニ充ツ) 第三動員(組員及後援隊全部ノ出動)	出動ハ先發部員ヲ第一トシ水利、部署ノ選定ヲナサシムヘシ 出動ハ參着シタル組員順序ニ依リ動員ヲナスヘシ

參考圖解



注意

- 一 消防隊ノ火災現場ニ出動ノ場合ハ器具ノ置去リヲセサルコト
- (例ヘハ管槍ヲ忘レ或ハ少數ノ水管「ホース」ヲ唧筒ニ積ミタルママ出動スルコト

アリ)

- 一 先發出動部員ノ自轉車ニテ參集シタルモノヲ迅速ニ現場ヘ派遣セシムルコト
- 一 留守部隊ハ(第一動員又ハ第二動員ニ依ルヘキカ或ハ第三動員ヲナスヘキカヲ考量シ)參着ノ上席役員ニ於テ直チニ決定シ之レカ應急ノ指揮ヲナスヘキコト
- 一 出動ニ際シ唧筒數臺ヲ有スル消防組ニアリテハ一臺ノ豫備唧筒ヲ留守セシムルコト(出動後ノ警戒)
- 一 先發部員ハ途上ニ於ケル道路、橋梁ノ破損其他唧筒ヲ現場ニ到着セシムルニ支障アルトキハ一名ヲ現場ニ止メ迂回セシムル方法ヲ指示スヘキコト
- 一 現場到着ノ先發部員ハ火勢ノ狀況、風位、風力、水利、建築物等ノ状態ニ依リ防禦上有利ナル地點ヲ定メ本隊ノ到着ヲ待ツコト
- 一 應援ノ場合ハ現場附近ノ消防組ノ水利案内者ノ協力ニ依リ有利ノ地點ヲ定ムルコト
- 一 先着消防組ハ先發部員ニ依リ選定シタル部署ニ參集シ迅速防禦ニ着手シ、非常線警戒ニ注意ノ上人命救助ト共ニ財産避難ニ努ムルコト

一 學校其他官公署罹災ノ場合ハ迅速ニ御眞影ノ避難ニ努メ安全地帯ニ奉遷所ヲ設クルコト

(奉遷所ハ組數名ノ内役員一名ヲ付シ警察官又ハ指揮者ノ命令ナキトキハ現場ヲ離ルルコトヲ得ス)

一 防禦及救助ニ着手シタル消防組ハ晝間ハ旗又ハ纏、夜間ハ提灯其他ノ標識ヲ建テ以テ消防本部ノ位置ヲ明示シ諸般ノ指揮命令ヲナスコト

(参考問題)

- 一 火災出動ノ場合ハ消防組員ハ如何ニナスヘキヤ
- 二 先發部員ノ編成ハ如何ニナスヘキカ
- 三 先着消防組ノ動作ハ如何
- 四 出場消防組ノ本部員ハ如何ナル行動ヲ採ルヘキカ

第三章 火災防禦方法

第一節 火災防禦ノ要旨

火災防禦ハ常ニ迅速、機敏ノ行動ニ出ツヘキモノニシテ、我國ノ如キ家屋ノ構造ト云

ヒ將タ風威ノ猖獗ト云ヒ大火災ヲ誘致スルノ原因ハ甚タ多シ、之レカ防禦ノ方法ニシテ其ノ宜シキヲ得ルニアラサレハ忽チニシテ火勢四方ニ延焼シ終ニ救フヘカラサルノ大火ニ至ラシムル實例アリ、故ニ火災ノ防禦ハ迅速、機敏ニシテ且臨機ノ行動ニ出ツヘキモノトス、而シテ其ノ方法ハ土地ノ狀況又ハ建築物ノ種類或ハ水利、風力等ノ關係ニ依リ一樣ナラスト雖モ、要ハ實際ニ適合セル防禦方法ヲ行フニアリテ存ス

第二節 防禦ノ方法

火災防禦ノ方法ハ燃燒物質ノ種類、火勢ノ状態、四隣ノ狀況、風位風力、其他水利等ノ關係ニ依リ一定スルコト能ハスト雖モ、先ツ第一ニ防禦ノ部署ハ風下ニ定ムルヲ原則トス、然レトモ強風ニ於ケル火災ノ場合、風下ハ風靡的延焼迅速ナレハ防禦上困難ニシテ而カモ其効ナキヲ常例トス、斯ル場合ニ際シテハ風上風下ハ全然之ヲ放棄シ、專ラ風下延焼ノ兩側又ハ一側ニ主力ヲ集中シ以テ延焼線ヲ兩側ヨリ挾撃スルカ又ハ一側ヲ放水壓迫シ且適當ナル距離ニ於テ破壊消防ヲ行ヒ火道ヲ遮斷スルニ努ムルモノトス、而シテ此場合ハ尙主力部隊以外ニ風下適當ノ個所ニ飛火防禦ノ部員ヲ配置スルコトヲモ必要トスヘシ

次ニ火災防禦ニ從事スル場合ハ、努メテ其ノ内部ニ突進シ、燃燒物ニ接近シ、放水ヲ縦横ニ應用シ、以テ一舉ニ之レカ撲滅ヲ期スヘキモノトス、尙内部ハ往々火煙ノ充滿セル場合多キヲ以テ斯ノ如キ時ハ、速ニ他ノ消防部員ヲシテ屋上又ハ窓戸若ハ壁ノ一部ヲ破壊セシメ、内部ニ於ケル火煙ヲ排除シ然ル後進入セシムルカ如クスルヲ要ス、又鐵葉材料ヲ以テ覆葺セル木造建築物内ヨリ發火シタルトキハ、屋上ノ一部ヲ破壊シ以テ火煙ノ排除ニ努ムヘク歐風木造建築物ノ如キ構造上壁ト壁トノ中間ニ空隙ノ存スルカ爲メ下層ヨリ發火シタル場合ノ如キハ、火氣ハ忽チ其ノ空隙ヲ傳フテ上騰スルヲ常トス、其他建築物ト建築物トヲ連絡スル渡リ廊下ノ在リシ爲メ延燒スルカ如キ場合尠シトセサルヲ以テ最モ迅速ニ破壊又ハ遮斷ノ方法ヲ講スヘキモノトス

尙又防禦上放水點ニハ最モ注意スヘク、放水ヲ縦横ニ應用シ一舉ニシテ之カ鎮滅ヲ期スヘキモノナレハ、必スヤ一名ノ指揮者(消防組役員)ヲ附シ濫リニ後方ヨリノ助言發聲等ニ依リ自己ノ信スル放水ノ位置ヲ變更セシムルカ如キコトアルヘカラス、之レ幾多ノ助言ヲ信賴シ徒ラニ放水點ヲ變更シ防火ノ目的ヲ達セサルノミカ、時ニ他ノ消防組員トノ紛擾ヲ來ス等ノ例アレハナリ、以上ハ用水消防及破壊消防ニ依ル防禦方法ニ

シテ、其他生石灰又ハ「カーバイト」石油其他ノ油類ノ如キ物件ヲ多量ニ貯藏セル建築物ノ火災ニアリテハ、内外何レヨリ發火スル場合ト雖モ、其防禦上放水ヲ爲スハ反テ火勢ヲ熾烈ナラシムル虞アレハ、此場合ハ砂、灰、食鹽、重曹鹽化アンモニヤ等ノ不燃質性ノ固形粉末ヲ用ユルカ、若ハ簡單ナル方法トシテハ藁蓆又ハ空俵ヲ濕濡シタル材料ヲ以テ防火ニ努ムルモノトス、之レ室息的消防ノ方法ナリ

第三節 防禦上ノ注意

建築物ノ火災防禦ハ種々ノ危険ノ伴フモノナルヲ以テ、豫メ避難ノ方法ヲ考究セサルヘカラス、即チ火災防禦上屋内ニ突進シタリシ際屋上ノ崩壞又ハ重量アル物件ノ燒燬、墜落等非常ノ危険アリ又未停電ノ電線ニ接觸シ電擊ヲ蒙ルコトアリ、或ハ瓦斯ノ充滿シ居ル如キ場合及ヒ建築物内ニ於ケル堀井、泉水、地窖、便所等アリテ墜落、陷落、溺死スルノ危険アリ其他建築物内ニ突進シ猛火ト奮闘中、部署ノ變更又ハ危険切迫セリトノ故ヲ以テ一時退却スヘキ場合、猛煙ノ鎖ス所トナリテ四邊暗澹爲メニ咫尺ヲ辨セス、加之呼吸困難ニシテ昏倒スルカ如キ場合アリ、斯ノ如キ場合ニ遭遇シタルトキハ沈着事ニ當ラシムルノ用意アルト同時ニ、濕布ヲ以テ鼻口ヲ掩ハシメ、然ル後ニ其

ノ使用シツツアル唧筒水管(豫メ其建造物又ハ其他ノ物件ニ緊結シ置キタル)ヲ傳ツテ
匍匐シ安全ナル地位ニ避難スヘキモノトス(消防組ニハ必ス二人分以上ノ護謨製手袋ヲ備ヘ)
(電線取除ノ場合其他ニ使用スルコトトナスヘシ)

第四節 破壊消防

火災ノ發見遅ク加之消防組ノ出動迅速ヲ缺キ、且ツ風力强ク人家稠密ナルカ爲メ延焼
急ナル場合ハ、如何ニ消防ニ焦心スルト雖モ用水消防ヲ以テ事ニ當ルハ殆ト其効無シ、
斯ル場合ノ所置トシテ防火上燃燒中ノ家屋其他ノ建造物ヲ破壊スルハ勿論、未タ燃燒
セサル家屋其他ニ對シテモ其ノ必要ト認ムル限度ニ於テ破壊スルノ止ムナキ場合ヲ生
スルノ例多シ、之レ破壊消防ノ必要ナル所以ナリ

然レトモ他人ノ邸宅内ニ侵入シ又ハ他人ノ土地物件ヲ使用處分スルハ極端ナル所有權
ノ侵害ナリ、所有權不可侵ハ憲法ノ保障事項タレハ(憲法第^{二七條})斯ル場合ニ於テ消防ニ從事
スルモノハ必ス法ノ根據ニ依ラサルヘカラス、而シテ其ノ土地物件ノ使用、處分若ハ
制限スル場合ノ規定ニ依リ警視、警部若ハ警部補ヲ以テ充ツル警察署長若ハ警察分署
長ニ限ルモノトシタリ(行政執行法^{地方官々々制})故ニ破壊消防ニ從事スルモノハ右ニ定ムルモノノ命
令ニ依ルニアラサレハ家屋其他ノ破壊ヲナスコトヲ得サルコト之レナリ、唯々一般的

若ハ特別ニ警察(分)署長ヨリ豫メ傳達セラレタル命令アルカ又ハ之カ代理ノ命ヲ受ケ
タル場合ハ此ノ限リニアラサルモノトス、而シテ破壊消防上、未タ燃燒セサル家屋其
他ノ建築物ヲ破壊スル場合ハ、火災ニ關スル保險契約ノ有無ニ注意スルコトヲ要ス、
尙私設消防組ニ對シテ此破壊消防ヲ命スルハ妥當ナラサルコトナルカ故ニ此ノ點ニ關
シテモ亦注意スヘキモノナリ

第五節 送水任務

火災場ニ於テ消防組ノ防禦ニ從事中、送水ノ變動ハ如何ニ火災鎮滅ニ至大ノ關係ヲ及
ホスカハ言フ俟タサル處ナリトス、消防部隊ノ到着前水利ノ關係及防禦地點トシテ選
定スヘキ場所ニ付キテハ豫メ先發部員ヲ派シテ之レカ選定ヲ爲サシムヘキコト既ニ前
章ニ於テ述ヘタルカ如シ、而シテ送水ノ方法ハ消防機械ノ種類ニ依リ一様ナラスト雖
モ一般ニ送水中ハ一名ノ消防役員ヲ附シ斷ヘス送水壓力ニ異狀ヲ來サシメサルコトニ
努ムヘキモノトス

第六節 殘火鎮滅

火災既ニ鎮靜ニ歸シ最早延焼ノ虞ナキニ至リタルトキハ、罹災地所屬消防組ノ一部ヲ

残留スルニ止メ他町村消防組ハ退場スルヲ可トス、而シテ残留消防組ハ燃燒物件ノ殘火ヲ其ノ一端ヨリ順次ニ除却シ注水スヘキモノニシテ、土藏ノ密閉セルモノ或ハ一時火焰ニ包圍セラレタル建造物等ニ付テハ四邊ノ殘火悉ク消滅シタル後其ノ外壁全部ノ冷却ヲ俟ツテ開扉スヘキモノトス

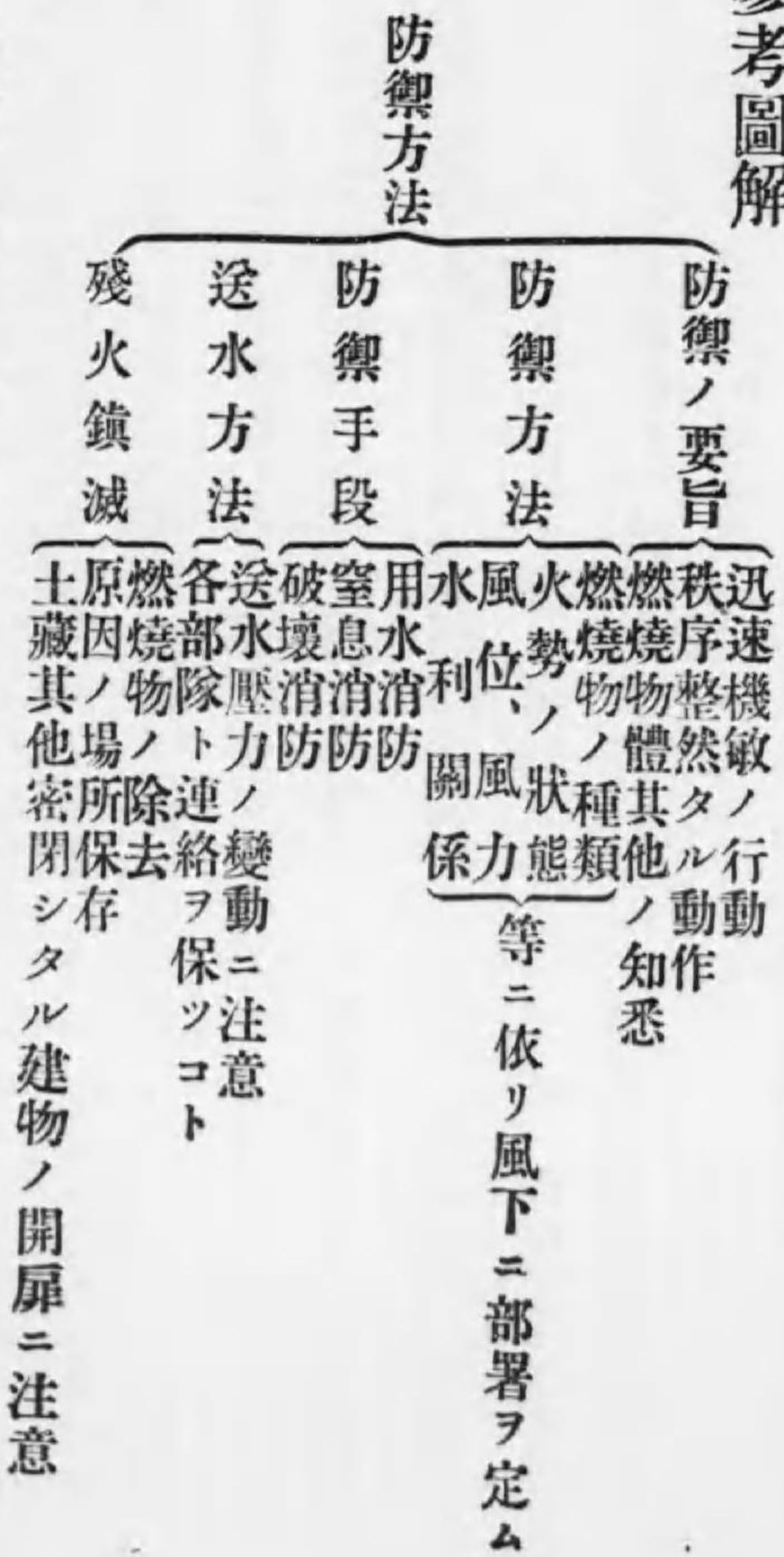
而シテ殘火鎮滅ニ當レル消防組員ハ、燒死者又ハ火元ニ於ケル最初ニ火災ノ發生シタル場所等ニハ、鎮火ヲ待ツテ速ニ繩又ハ器具類ヲ以テ之ヲ區劃シ人ノ出入ヲ禁止スヘシ、之レ火災ノ原因調査上即チ原因發見及證憑蒐集ヲ遺憾ナラシムルニアリ、次ニ現場引上ノ際ハ消防出動人員ノ點檢及組員負傷ノ有無、器械、器具ノ破損等ヲ取調フヘキモノトス

(註)

風ノ種類、速力、其他	
種類	一秒時ノ速力
軟風	一米突五以上
	樹ノ葉ヲ靜カニ動搖ス
	速力ノ實況

和風	三米突五以上	樹ノ小枝ヲ靜カニ動搖ス
疾風	六米突以上	樹ノ大枝ヲ動搖ス
強風	十米突以上	樹ノ幹ヲ動搖ス
烈風	十五米突以上	板塀ヲ倒ス
颶風	二十九米突以上	樹木ヲ發キ家屋ヲ倒ス

参考圖解



注 意

- 一 支障ナキ限リハ風下ニ部署ヲ定ムルコト
- 一 水管連結ノ場合ハ波狀形ニ擴メ必スヤ豫備「ホース」ヲ携帯スルコト
- 一 「ホース」ノ波狀形ハ距離ノ短長ヲ自由ニシ豫備「ホース」ノ準備ハ火點ノ遠距離ノ場合ニ直チニ接續應用スルコトヲ得
- 一 布「ホース」ヲ火災現場ニ於テ延長シタルカ爲メ一時唧筒其他ノ通行不可能ノ場合アリ此場合ハ普通街路ニ於テハ「ホース」ヨリ圓形大ノ木材其他ヲ兩側ニ並縛シ一時其ノ上ヲ通行セシムルコト
- 一 (若シ此場合街路ニ電車其他ノ路線アルトキハ其ノ線路ノ下ヲ掘リ「ホース」ヲ貫通セシムルカ又ハ「レールブリツヂ」軌條橋ノ如キモノヲ線路上ニ裝置シ其ノ交通上差支ナキ様ニナスコト
- 一 送水及送水ヲ止ムル場合ハ晝間ハ旗、夜間ハ標燈(送水ノトキハ青色、送水ヲ止ムルトキハ赤色)ニテ信號スルコト
- 一 (此ノ場合ハ常ニ送水係及ヒ唧筒係ハ防火係ト連絡ヲ保ツコト)

- 一 風靡的延燒ノ場合ハ風下兩側ニ主力ヲ集中シ挾擊的放水壓迫カ又ハ破壞的消防(火道遮斷)ニ努ムルコト
- 一 飛火防禦ハ別動隊ヲ以テ活動セシムルコト
- 一 防禦ノ際ハ内部ニ突進シ又ハ梯子等ニ依リ屋上窓口ヨリ燃燒物ノ本源ニ注水作業ヲ行ヒ、猥リニ他ヘ散飛セシメサルコト
- 一 (放水ノ如何ニ依リテハ後日他組ト争ヒヲ生シ問題ヲ惹起スルコトアリ特ニ注意スヘシ)
- 一 内部ニ突進スル場合ハ建築物ノ内外部ニ布設セル電線及瓦斯管ニ注意シ之レカ除去ニ努ムルコト
- 一 (此場合ハ電線ニ對シテハ護謨製手袋、瓦斯管ニアリテハ防煙具(スモーク、ヘルメット)又ハガスマスクヲ用意スヘシ)
- 一 白煙ハ黑煙ヨリ延燒完全ニ近ツキ居ルコトニ注意スルコト
- 一 (煙ハ上昇スルヲ以テ避難ノ場合ハ下部ヲ匍匐スヘシ)
- 一 放水係ニハ指揮者必ス附添猥リニ筒先ヲ變更セシメサルコト

- 一 布ホース現場ニ於テ破損漏水シタルトキハホース縋帶ヲ用ユルカ手拭其他ニ依リ其個所ヲ捲付クルコト
 - 一 防禦上消火種別(用水、窒息、破壊)ニ注意スルコト
(例ヘハ石油、揮發油、生石灰等ノ消火ハ砂、灰、食鹽、重曹鹽化アンモニヤ等ニヨリ窒息消火ヲ行フコト)
 - 一 防火係ハ電氣、瓦斯ノ漏洩、堀井、泉水、地窖、便所、煙、建築物ノ崩壞其他ニ注意シ其ノ避難ニ用意スルコト
 - 一 屋上ノ物件墜落ノ場合ハ障害物ノ下ニ避難スルコト
 - 一 火道遮斷上破壊消火ノ場合ハ必ス警察官吏又ハ指揮者ノ命ヲ待ツコト
(後援消防隊(青年、義勇)ハ直接破壊消火ヲ行フコト穩當ナラス)
 - 一 鎮火ノ場合ハ出火原因ノ場所ヲ保存スルコト
 - 一 消防隊引上ケ等ノ場合ニアリテハ消防本部ハ嗽叭ノ吹奏ニ依リテ之ヲ爲スコト
- 〔參考問題〕
- 一 火災防禦ノ要旨ヲ簡單ニ述ヘヨ
 - 二 火災場ニ於ケル防禦ノ部署ハ如何ニ定ムヘキカ

- 三 強風ノ爲メ風靡的延燒迅速ナルトキハ如何ニ防禦スヘキヤ
- 四 放水任務ニ消防役員ヲ附セシムル事由ヲ説明スヘシ
- 五 破壊消火ヲ行フハ如何ナル場合ナルカ
- 六 私設消防組員ノ破壊消火ヲナスハ穩當ナラスト云フハ如何ナル理由ナルカ
- 七 殘火ノ鎮滅ニ際シテハ如何ナル點ニ注意スヘキカ

第四章 火災場取締

第一節 非常線警戒

火災發生ノ場合其現場ニ馳付クルモノノ内、眞ニ罹災者ノ人命財産ノ救助ニ努メントスル者甚タ少ナク其大部分ハ彌次馬的ノモノ多シ(俗ニ火事場見物)非常線ニ依ル警戒ハ之等罹災者ノ避難並ニ盜難豫防又ハ消防組員ノ防禦行動ヲ容易ナラシムルカ爲メニシテ、其區域ハ災害地ノ状態(場所及風位ノ關係)如何ニ依リ多少ノ差異アリト雖モ、火災發生ニ方リ迅速ニ之レヲ行フモノニシテ、其災害現場二丁乃至三丁以内ノ地ニ於テ適宜ニ之ヲ區劃シ其ノ守線ニ努ムヘキモノトス、此場合ニ於テ消防組員タルモノハ現場ニ於ケル警察官ノ小數ナルトキハ警察官ト協力一致シ其守線ニ努ムヘキナリ、而シテ守線任務ニ従事

スル者ハ入場者ノ取調又ハ應答等ニ時間ヲ徒費シ、爲メニ線内入場者ノ區別ヲ混淆セサルコトニ注意スヘシ、而シテ非常警戒線内ニ入ルコトヲ得ヘキ者ハ左ノ如キ特定ノ人タルコトヲ要ス

一 線内ニ家屋ヲ有シ又ハ住居スル者並ニ其親戚、知人若ハ其雇人ニシテ救援ヲ爲サントスル者

一 線内ノ官公衙等ニ奉仕シ又ハ公用ヲ帶ヒタル者

一 電氣其他線内ニ施設シアル事業ノ係員又ハ醫師、産婆及大工、左官等ニシテ線内ニ職業場アル者

一 郵便電信集配人ニシテ其集配ニ従事スルモノ

一 其他線内ニ入ルノ必要ヲ認めタルモノ

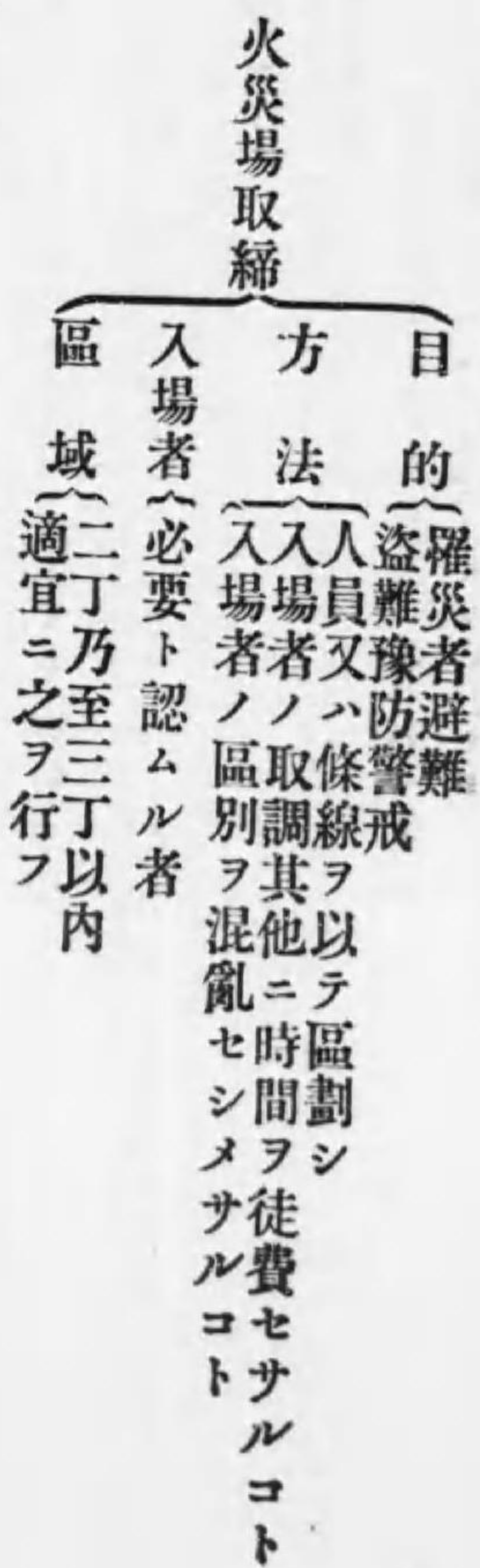
以上ハ豫メ自己ノ氏名及線内ニ入ルノ必要ナルコトヲ告ケ之レニ入ルヘキモノトス、

制裁法規(明治四十一年内務省令第十六號警察犯處罰令第二條第三十四號「水火災其ノ他事變ニ際シ制止ヲ肯セシテ其現場ニ立入り若ハ其場所ヨリ退去セス又ハ官吏ヨリ援助ノ求ヲ受ケタルニ拘ラス傍觀シテ之ニ應セサル者」)

第二節 盜難警戒

火災場ニ於テハ非常線ノ守線ニ努ムルト共ニ又一面罹災者ノ避難及財産ノ盜難豫防ニ努メサルヘカラス、從來ノ例ニ徴スルモ罹災者カ漸ク焼失ヲ免カレシメンカ爲メニ危険ヲ侵シテ搬出シタル財産ヲ其ノ混雜ニ際シテ窃取セラルルコトハ屢々見聞スル處ナリ、之レ俗ニ「火事場泥棒」ト稱スルモノニシテ其狀情最モ惡ムヘキ行爲ナリ、組員ハ警察官ト協力シテ之レカ豫防警戒ニ努ムルヲ要ス

参考圖解



注意

一 非常線ハ警察力ノ不充分ナルトキハ消防組員ニ於テ之ヲ援助シ又ハ少年、青年其他ノ消防後援隊ヲ以テ警戒ニ従事セシムルコト

- 一 警戒ニ從事中ハ言語動作其他ニ注意スルコト
 (之レカ爲メ紛擾ヲ醸シ問題ヲ生スルコトアリ)
- 一 非常線警戒ノ方法ハ人員整列シテ警戒ニ當タルモノト條線ヲ張込ミ之レカ區劃ヲナスモノトアリ又乘馬ニ依リテ守線ヲ保ツ場合アリ
- 一 非常線ノ警戒ニ從事シタルトキハ罹災民ノ避難及避難財産ノ盜難警戒モ共ニ之ヲ行フコト

〔參考問題〕

- 一 非常線警戒ハ如何ナル場合ニ行フヘキカ
- 二 非常線ニ入ルヘキ特定ノ人ヲ列記セヨ

第五章 救護方法

第一節 救助器具

火災場ニ於テ人命財産ノ救護ヲナサントセハ火災發生ノ初期ニ之レヲ行フコトヲ要フ若シ其ノ時機ヲ失センカ救護ノ目的ハ到底達シ得サルモノトス、故ニ救護ノ任ニ當ル

モノハ現場到着ト同時ニ之レカ任務ニ服スヘキモノトス、而シテ救助ノ方法ハ場所及建築物又ハ救助器具及被救助者等ノ關係ニ依リ一樣ナラスト雖モ、要ハ迅速機敏ノ行動ニ出テ以テ其ノ目的ヲ達スルニ努ムヘキナリ、而シテ救助ノ器具ニハ機械梯子、救助袋、救助幕、救助網等アリ

一 機械梯子 機械梯子ハ延長四十尺乃至六十尺ノ三聯製トシ、車體ニ裝置シアルモノニシテ(自動車又ハ人輓用)火災場ニ於テ二階三階其他高層ナル建物ノ窓入口等ニ連結シ人命救助又ハ火災防禦上屋内ニ進入スル場合ニ用ユルモノトス

一 救助袋 救助袋ハ三十尺乃至四十尺ノ二個以上續キ得ル裝置ノモノニシテ高窓入口等ヨリ人命其他ノ救助ニ用ユルモノトス

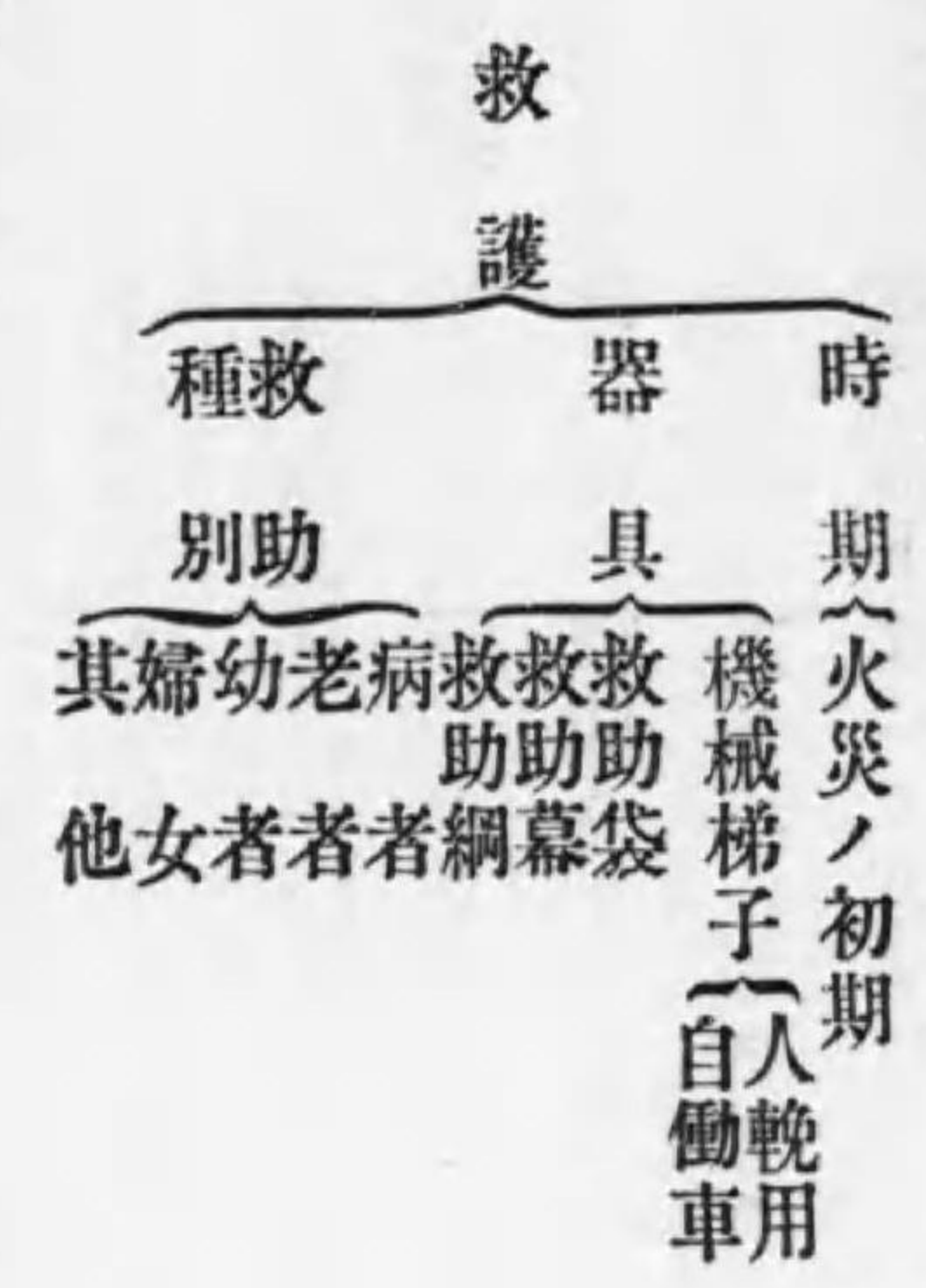
一 救助幕 救助幕ハ方九尺ノ幕ヲ以テ人命其他ノ救助ニ用ユルモノトス

一 救助網 救助幕ト救助ノ方法同シトス

以上人命救助ニ方リテハ先ツ第一ニ病者次ハ老幼、婦女ノ順序ニ依リ救助スルヲ適當トス、高層ナル建物ノ窓、入口等ヨリ病者、老幼、婦女等ヲ救助スル場合ハ救助袋ヲ以テナスヲ極メテ簡單ニシテ安全ナル方法ナリトス、然レトモ人命救助ノ場合ハ屢々

救助者自身ノ危険ナル場合アレハ、常ニ自己身邊ノ安全ヲ期シ然ル後ニ救助ニ努ムヘキモノトス

参考圖解



注意

- 一 救助ハ出動ノ際別動隊ヲ編成スルコト
- 一 救助ハ火災ノ初期ニ之ヲ行ハサレハ其ノ目的ヲ達スルコトヲ得ス
(人命救助ヲ最モ先キニ行ハサルトキハ人道問題ヲ惹起スルコトアリ)
- 一 救助ハ病者、老幼、婦女等ノ順序ニ依リ之ヲ行フコト

- 一 病者、老幼、婦女ノ救助ハ救助袋ニ依リ之レヲ行フコト
- 一 壯者(男女)ニアリテハ救助幕及救助網又ハ救助梯子ニ依リ行フコト
- 一 救助梯子、救助袋ハ屋外ニ面スル窓口ヲ利用シ之レニ梯子及救助袋ノ上部ヲ取付ケテ行フコト
- 一 救助幕、救助網ハ地上ヨリ六尺位ノ高サヲ保チ四邊ノ支柱(樹木、電柱、柱其他)ニ連結スルコト
- 一 救助ハ上層ノ室間ヨリ順次之ヲ行フコト

機械梯子



(下層ノ室間ハ常ニ避難ニ容易ナルヘシ)

第三編 非常時ニ於ケル消防 第五章 救護方法

- 一 救助ノ場合ハ狼狽シ時ニ負傷スルコトアリ各自注意スルコト
- 一 救助シタル後ハ速ニ安全地帯ニ避難セシムルコト
- 一 救助シ避難セシメタルトキハ家族其他ニ知ラシムルカ又ハ其他ノ方法ヲ採リ家族又ハ交替ノモノニ引繼スルニアラサレハ立退クヘカラサルコト

〔参考問題〕

- 一 救助ノ時機ハ何時ナルカ
- 二 救助器具ノ種類ヲ述ヘヨ
- 三 救助者ハ如何ナル人ヨリ救助ヲ始ムヘキカ
- 四 救 者ヲ避難セシムヘキ安全地帯トハ如何

第二節 應急施療

火災場ニ於テハ勿論、平時消防組員ノ演習其他ニアリテモ死傷並ニ病疾等ノ事故發生スルコトアリ、斯ル場合ニ於テハ急速ニ適當ナル手當ヲ施ササルヘカラス、而シテ其方法ニハ種々アリ左ニ一例ヲ示シ之等患者アリタル場合ハ其ノ手當ヲナシ急速擔架ヲ作リテ最寄醫師ノ許ニ馳付クルヲ便宜トス

- 一 火傷 冷罨法或ハ石炭酸水罨法ヲ施スヘシ

- 一 折骨傷 手足ノ折骨シタル場合ハ折レタル部分ヨリ尖ノ方ヲ強ク引張り成可ク正當ノ位置ニナシ、有合セノ木片竹切等ヲ當テ其部分ヲ動かサヌ様強ク繃帶スヘシ
- 一 脱臼 骨ト骨トノ接續部カ外力ニヨリ離レタル場合ナルヲ以テ脱臼シタル儘ニテ十分引張りシ後、或ハ曲ケ或ハ轉シテ脱臼ヲ起シタル時ト反對ノ運動ヲ急劇ニ行ヒ原狀ニ復セシムヘシ、其ノ整復シタルトキハ劇シキ音ヲ發スルモノナリ
- 一 止血法 冷水若ハ石炭酸水(稀薄)ニテ洗ヒ、消毒綿紗ヲ以テ壓迫繃帶ヲ施スヘシ
- 一 電擊 被害者及附近ニアル電線ヲ取除キ危険ナキ様適當ノ方法ヲ講シタル上直チニ人工呼吸ヲ行フヘシ
- 一 人事不省 頭部又ハ其他ノ個所ノ打撲ノ爲メ一時知覺ヲ失ヒタルトキナレハ其ノ者ノ着セル衣服ヲ解キ、頭部及上半身ヲ高クシ適宜ノ位置ニ安臥セシメ冷水ヲ濕シタル布片ヲ頭部ニ施スヘシ
- 一 卒倒 劇痛、多量ノ出血、饑渴若クハ過度ノ勞働等ヨリ起ルモノニシテ靜ニ冷處ニ安臥セシメ、頭部ヲ低クシ、衣服ヲ解キ、前額ニ冷水ヲ撒キ、前額及心臟ヲ濕布ニテ輕ク打ツヘシ

一 溺死者 衣服ヲ脱シ直チニ腔内ノ水及泥土ヲ除去シ人工呼吸ヲ行フヘシ
 参考
 人工呼吸圖解



第一圖



第二圖

一 人工呼吸 假死者ノ衣服ヲ除キ、仰臥セシメ、低キ枕ヲ以テ頭部及上半身ヲ高ク

シ、兩脚ヲ揃ヒ、一人ハ假死者ノ片側ニ跪坐シ、拇指及示指ニテ布片ヲ以テ舌ヲ口外ニ牽キ出シテ之ヲ固ク持チ、他ノ一人ハ假死者ノ腹部ニ跨リ、立膝ニナリ、兩手



第三圖



第四圖

ヲ開キテ假死者ノ乳房及肋骨ノ下部ニ當テ、充分ナル力ヲ入レ、徐々ニ壓迫ヲ繰返スヘシ、其速度ハ一分間十五回位トシ三十分乃至一時間位行フコト

注意

一 消防員ハ出動ノ際藥品其他ヲ携帶シ應急ノ手當ヲナシ得ルコトニ努ムヘキコト

一 歩行困難ナル患者アリタルトキハ急造擔架(又ハ普通擔架)ヲ作り之レニ收容スルコト

(急造擔架ハ消防手ノ法被ヲ(下部ト上部トヲ五寸以上ニ)重ネ之ニ長齋ヲ二挺用ヒテ作りシモノ)

一 收容ノ場所ハ豫メ安全地帯ニ定ムルコト

一 急速治療ヲ要スル患者ハ最寄醫師ノ許ニ收容スルコト

一 收容シタル場合ハ其ノ患者ノ家族又ハ交替ノモノアルニアラサレハ立退クコトヲ得ス

〔參考問題〕

一 人工呼吸ノ方法ヲ述ヘヨ

第六章 山林火災防禦法

山林火災ノ防禦ハ家屋火災ニ關スル消火原理ト同一ニシテ、其ノ防禦ノ方法トシテハ迎火法、打消法、遮斷法アリ

一 迎火法 迎火法トハ延燒線ノ前方適當ナル地點ニ於テ遮斷法ヲ行ヒ、其ノ延燒線

一帯ニ向テ反對ニ火ヲ放チ、之ヲ逆撃シテ防火スル方法ヲ曰フ、然レトモ山ノ下ヨリ發火シタルトキハ風位ノ如何ニ依ラス延燒極メテ迅速ナレハ逃路ハ必ス山上ニ取ルヘカラサルコトニ注意スヘシ

二 打消法 打消法ハ燃燒物ニ對シ土砂ヲ投散スルカ、又ハ樹枝ヲ以テ撲滅スルモノニシテ此レニ要スル器具トシテハ、土砂投散ニハ唐鍬、圓匙等ヲ用ヒ、樹枝ヲ以テ撲滅セントスルニハ鎌、鉞、斧、鋸等ヲ要スルモノトス、而シテ打消人員ハ一列横隊ニ依リ一齊ニ燃燒物ニ向フ方法ナリ

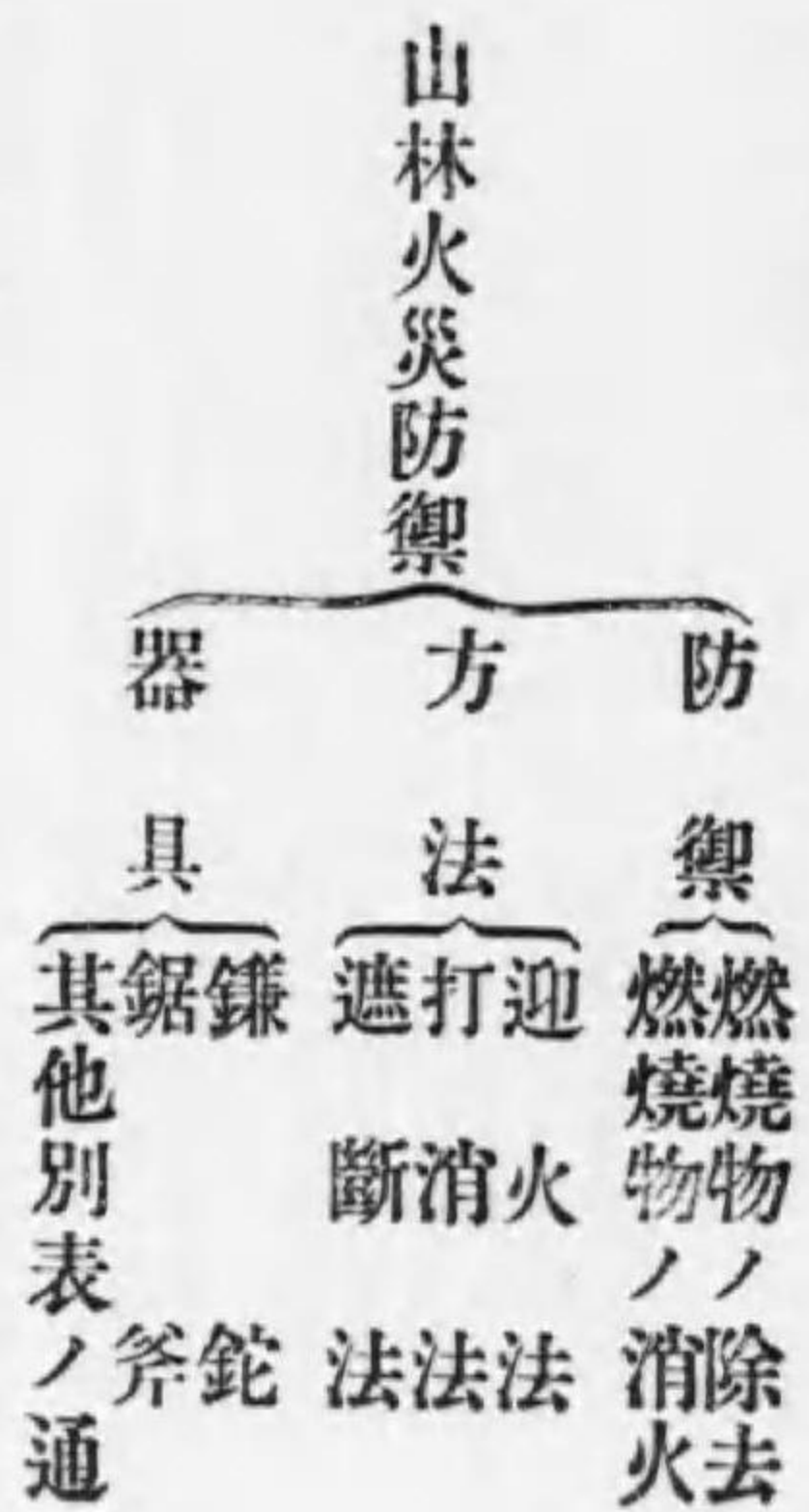
三 遮斷法 遮斷法ハ鉞、斧、鋸、鎌、熊手等ヲ以テ一隊トナシ延燒線ノ前方適當ナル個所ニ於テ芝生、雜木ヲ伐蒞シ、落葉枯葉ヲ掻キ取り、以テ相當ノ幅員ヲ設ケ防火線ニ依ル火道ノ遮斷ヲ行フモノナリトス

(註)

山林火災防禦器具

品目	用途
鎌(長柄製モ含ム)	草木刈取り防火線ヲ造ル
山刀	同
鉋	立木伐倒
鋸	同
斧(手斧、大斧モ含ム)	同
鍬(唐鍬モ含ム)	土砂ヲ堀リ火氣ヲ覆フ
鳶(長鳶、大鳶モ含ム)	木材取除
熊手	枯草落葉ヲ除去
シヤブル	土砂ヲ堀ル
スコップ	同
背負水囊	水運搬

参考圖解



注意

- 一 山林火災ノ原因ヲ調査スルコト
- 一 火勢猛烈ナル場合ハ防禦危險ノ虞アルヲ以テ注意スルコト
- 一 防禦法ハ用水ヲナスコト能ハサルトキハ土砂樹枝ニ依リ行フコト
- 一 避難ノ逃路ヲ失ヒタルトキハ地室、岩石ノ下其他ニ避難スルコト

〔参考問題〕

- 一 山林火災ノ防禦方法ヲ擧ケヨ
- 二 打消法ハ如何ニナスヘキカ

附 錄

一 消防關係法令

(1) 行政執行法(明治三十三年六月二日法律第八十四號)

第一條 當該行政官廳ハ泥酔者、瘋癲者自殺ヲ企ツル者其ノ他救護ヲ要スト認ムル者ニ對シ必要ナル檢束ヲ加ヘ戒器、兇器其ノ他危險ノ虞アル物件ノ假領置ヲ爲スコトヲ得暴行、鬭爭其ノ他公安ヲ害スルノ虞アル者ニ對シ之ヲ豫防スル爲必要ナルトキ亦同シ前項ノ檢束ハ翌日ノ日没後ニ至ルコトヲ得ス又假領置ハ三十日以内ニ於テ其ノ期間ヲ定ムヘシ

第二條 當該行政官廳ハ日出前、日没後ニ於テハ生命身體又ハ財産ニ對シ危害切迫セリト認ムルトキ又ハ博奕、密賣淫ノ現行アリト認ムルトキニ非サレハ現居住者ノ意ニ反シテ邸宅ニ入ルコトヲ得ス但シ旅店、割烹店其ノ他夜間ト雖衆人ノ出入スル場所ニ於テ其ノ公開時間内ハ此ノ限ニ在ラス

第三條 當該行政官廳ハ密賣淫犯者若ハ其ノ前科者ニシテ尙密賣淫ノ常習アル者ニ對シ其ノ健康ヲ診斷シ

若ハ指定シタル醫師ノ檢診ヲ受ケシメ傳染性疾患ニ罹リ必要アリト認ムルトキハ病院ニ入ラシメ又ハ指定シタル醫師ノ治療ヲ受ケシメ治療ニ至ル迄指定シタル場所ニ居住セシメ其ノ外出ヲ禁止スルコトヲ得

前項療養ノ費用ハ本人又ハ媒合者ノ負擔トス但シ本人又ハ媒合者ニ於テ費用ヲ負擔スルノ資力ナシト認ムルトキハ廳府縣警察費ヲ以テ支辨スヘシ

風俗上ノ取締ヲ要スル業ヲ爲ス者ノ居住其ノ他ノ制限ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四條 當該行政官廳ハ天災、事變ニ際シ又ハ勅令ノ規定アル場合ニ於テ危害豫防若ハ衛生ノ爲必要ト認ムルトキハ土地、物件ヲ使用處分シ又ハ其ノ使用ヲ制限スルコトヲ得

第五條 當該行政官廳ハ法令又ハ法令ニ基ツキテ爲ス處分ニ依リ命シタル行爲又ハ不行爲ヲ強制スル爲左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一 自ラ義務者ノ爲スヘキ行爲ヲ爲シ又ハ第三者ヲシテ之ヲ爲サシメ其ノ費用ヲ義務者ヨリ徴收スルコト

二 強制スヘキ行爲ニシテ他人ノ爲スコト能ハサル